

令和4年度 シラバス

講義科目名称： 生命科学論

授業コード： 10020

英文科目名称： General Life Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	1	必修
担当教員			
◎小河一敏			
普遍分野	自然界と看護	1 セメスター	3 0 時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	生命は地球の特殊現象として誕生し、地球環境の発展との相互浸透を経て進化し、人間生命が誕生してきた。この歴史性を踏まえた科学的生命観を身につけ、守るべき人間生命の特質を理解する。 (カリキュラムポリシー1・4・5とディプロマポリシー3・6を参照。普遍分野 自然界と看護 の領域は「生命を守る」を主題としている。この為には、生体と環境の両側面の理解が必須であり、本科目は生体面を深めていく。)
授業計画	1 回 【生命とは何か】 地球上に生きている多くの生物の姿を概観し、生命と地球との切り離しえない関係性を大きくつかむ(地球生態系概観)。その上で、生きているもの(生物)の性質と生きていないもの(非生物)の性質とを具体的事実を挙げ、相互の比較において引き出す討論を通じて、「生命とは何か」を分かち合っていく。 2 回 【人間生命概観】 人間生命(人間という生命体)の特徴について他の生物との比較を通して捉える。身体面と認識面と社会面の統一体という全体像を描く。その上で、身体面の構造として、統括器官・栄養代謝器官・運動器官を大づかみに捉える。 3－5 回 【生命観の歴史】 生命を探究していく営みの中で、古代の「生氣論」として生命観が誕生し、そこから近代の「機械論」へ転回し、「進化論」が誕生し、さらに「機械論的進化論」へ進展していった歴史を辿ることによって、科学的生命観の基盤を築いていく。 6－8 回 【生命の歴史】 生命誕生から人類に至る生命進化の歴史を学ぶ。 ● 細胞膜を形成し単細胞段階へ ● 大地に固着するカイメン段階へ ● 海水に浮遊するクラゲ段階へ ● 海流の中を泳ぐ魚類段階へ ● 海でも陸でも生きられる両生類段階へ ● 陸上の大激動に適合する哺乳類段階へ ● 哺乳類の特殊運動形態として猿類段階へ ● 地球を変革し始める人類へ 9－11 回 【人間生命の特殊性Ⅰ 構造的理解・人体の構造一般】 人間生命(人間という生命体)の身体について、統括器官・栄養代謝器官・運動器官それぞれの成り立ち・はたらきを、特に魚類段階誕生以降の【生命の歴史】を踏まえて分かち合っていく。 12 回 【人間生命の特殊性Ⅱ 生活の諸事象の理解と対応】 運動、食、睡眠それぞれの意味を【生命の歴史】を踏まえて掘り込み、「人間は社会的に身体も心も、つくりつくられて人間になって行く」ことを、生活の事実から分かち合っていく。 13－14 回 【人間生命の特殊性Ⅲ 心(頭脳活動)一般 (科学的認識論入門)】 他の動物と大きく質の異なる人間の頭脳活動(＝認識)のあり方について、【生命の歴史】を踏まえて分かち合っていく。 15 回 【科学的生命観の考察】 科学的生命観(生命とは何か、人間生命とはどういうものか)について、上記14回の講義を振り返って考察する。 16 回 【成績の講評】
授業形態	講義・演習
到達目標	1. 生命観の歴史の大きな流れを理解する。 2. 生命進化の歴史を踏まえて、生態系を構成する動物・植物・微生物の特質を理解し「生命とは何か」をつかむ。 3. 人間という生命体の身体と認識(脳機能)の仕組みを大きく理解し、人間活動を捉えられる。(科学的人間論の形成)
評価方法	【評価基準】教科書からの学習課題(40%) 各授業単元の総括課題(25%) 夏の総括課題及び発表(35%) 【評価基準】 S: 他者の模範となり指導できるレベルに達している。 A: 授業内容が定着し、人間生命とはどういう存在かを考えられる。その内容を他者に伝えられる。 B: 授業内容がトータルに描かれ、人間生命とはどういう存在かを描ける。 C: 授業内容の各単元同士のつながりがつかめ始め、人間生命とはどういう存在かが描け始める。 D: Cに達しないレベル。
教科書	『看護のための「いのちの歴史」の物語』本田克也他著、現代社 『看護学生、宇宙を学ぶ』小河一敏著、アノック 『ナースが視る人体』講談社『ナースが視る病気』講談社
参考書・参考文献	『看護覚え書』(訳本)現代社 『看護覚え書』に学ぶ生活科学ワークノート 小河一敏著、アノック

	『科学物語』ファーブル著 木鶏社 『科学的看護論』日本看護協会出版界 『弁証法はどういう科学か』講談社
履修条件	－
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	「ナイチンゲールの文章は難しい」という声を多くのナースから頂いてきました。彼女の文章を理解するにはある理論的基盤が実は必須なのです。それは宇宙地球規模から人間生命を見つめていく自然観です。「宇宙地球科学」と「生命科学論」を相対的独立で、かつ相補的に相互浸透で学ぶことにより、この自然観が皆さんの頭脳に萌え出ずるよう描かれてきます。 毎年一年生は驚きます。「看護大学でなぜ地球誕生や生命進化を学ぶのか？植物・動物・微生物の連関という生態系の構造や火山活動・地震・海流・台風・雷まで学ぶのか？」と。しかし、半年後には皆納得します。 「確かにこれがナイチンゲール看護論を支える土台なのだ！」と。 この確かな理論的基盤に支えられて、第2セメスター「生体と環境」で『看護覚え書』の本格的な学びが可能となっていきます。

講義科目名称： 基礎自然科学Ⅰ

授業コード： 10070

英文科目名称： Basic Natural ScienceⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	1	選択
担当教員			
◎小河一敏、特別講師（田岡洋介 他）			
普遍分野	自然界と看護	1 セメスター	1 5 時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	化学・生物の基礎的原理・法則を日常生活に認めて、現実のことであることを分る。また、現実の生物に触れ、「生きている」とはどういうことかを体感しながら学ぶ。 (カリキュラムポリシー1・4・5とディプロマポリシー3・6を参照)
授業計画	日常生活の事実で化学・生物の基本を学習する。また、生物について基本的な実験観察を行い、生物としての人間について理解を深める。 1－2回 【化学 体のなかを知るための基礎】 呼吸と燃焼・酸化還元・酸とアルカリ等の基礎復習 3－7回 【生物 人間がどうい生物かわかるための基礎】 多様な生物と人間との違いとつながりを学ぶための「海洋生物の観察」 個体生命の誕生過程を学ぶための「ウニの生殖発生の実験観察」 脊椎動物に共通した身体の基本構造・機能を学ぶための「魚の採血・解剖」 8回 総括ないしテスト レポート執筆ないし筆記試験
授業形態	講義・演習
到達目標	● 生活に結び付いたありかたで化学・生物の基礎を理解できる。それを他者に伝えることができる。 ● 海洋生物についての観察・実験を通して、生物が生きている内実を分る。それを他者に伝えることができる。
評価方法	【評価規準】 授業（生物実習を含む）への取り組み姿勢およびレポートないし試験（40%） 【評価基準】 S：他者の模範となり指導できるレベルに達している。 A：授業内容が定着し、その内容を他者に工夫して伝えることができる。 B：授業内容が理解できる。さらにその内容を他者に伝える努力ができる。 C：授業内容がおおよそ理解できる。 D：Cに達しないレベル。
教科書	
参考書・参考文献	中学・高校の理科の教科書
履修条件	－
科目等履修	可
履修上の留意点	座学2回講義で生物の理解に必要な化学の基礎を学ぶ。 生物編と化学編の一部（計5回分）は宮崎大学農学部延岡フィールドで、集中講義として行う。 延岡フィールドへの移動宿泊経費・移動時間などの負担が生じる。 （体験実習に参加できない場合、出席回数が不足し単位認定は不可能となる。） 日程は研修施設の状況・履修者人数によって決定する。 ただし、新型コロナ感染状況によっては、体験実習が開催できない可能性がある。 その場合、遠隔授業に変更する。（2020年度・2021年度は遠隔授業を実施した。）
備考・メッセージ	理科が不得意な人向けの授業です。看護という専門職は「理科系」です。不得意なままでは、後でとても苦労します。 まずは、日常生活を通して学んでみましょう。化学も「こんなに役立つんだ！」とビックリします（先輩たちが皆そうでした！）。そんなところから好きになって下さったら…と願っています。 生物でも、魚をはじめカニや貝やいろんな生き物に触れてみてください。教科書を読むだけではとても分からない様々な学びができます。見かけがまるで違う生き物なのに、実は人間の生命と同じくみがあります。こういった理解は、後々人間の生命を理解していく上でもとても役立っていきます。

講義科目名称： 基礎自然科学Ⅱ

授業コード： 10071

英文科目名称： Basic Natural Science Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	1	選択
担当教員			
◎小河一敏			
普遍分野	自然界と看護	2 セメスター	1 5 時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	物理の基礎的原理・法則を日常生活に認めて、現実のことであることを分かる。 (カリキュラムポリシー1・4・5とディプロマポリシー3・6を参照)		
授業計画	1 回	ボディメカニクス 【赤ん坊の世話】 ● 体を痛めない姿勢・動き方「ボディメカニクスの基本」	
	2 回	熱の伝わり方 【換気と保温】 ● 換気や空調設備の利用のための「熱の伝わり方・空気の流れと圧力」	
	3 回	水圧・気圧 【住居の健康】 ● 血圧測定を理解するための「水の流れと圧力」	
	4 回	血圧測定の原理 ● 血液循環・血流・血圧 ● 重力・流体の圧力から視る「血圧測定の留意点」	
	5 回	分子運動・電気極性 【部屋と壁の清潔】 【からだの清潔】 ● 熱・温度 ● 水が物を溶かす構造 ● 界面活性	
	6 回	陽光 【陽光】 ● 体の健康を守るための「陽光・紫外線」	
	7 回	放射線・音 【陽光】 【物音】 ● 体の健康を守るための「放射線・音」	
	8 回	総括 ● グループワーク 最終レポート	
授業形態	講義・演習		
到達目標	● 生活に結び付いたありかたで物理の基礎を理解できる。それを他者に伝えることができる。		
評価方法	【評価規準】各講義において、課題（レポート等）を課し、総点100点で評価する。 【評価基準】 S：他者の模範となり指導できるレベルに達している。 A：授業内容が定着し、その内容を他者に工夫して伝えることができる。 B：授業内容が理解できる。さらにその内容を他者に伝える努力ができる。 C：授業内容がおおよそ理解できる。 D：Cに達しないレベル。		
教科書	『看護覚え書』現代社 【『看護覚え書』に学ぶ生活科学ワークノート】小河一敏著、アノック 『看護学生、宇宙を学ぶ』小河一敏著、アノック 『ボディメカニクス入門～からだのうごきをつくる秘訣ver.2』小河一敏 著（受講者に配布する） 『看護学生に贈る“自然科学の基礎知識”』小河一敏 他著（必要な時に学内にある書を開覧する）		
参考書・参考文献	『ナースが視る人体』講談社 『ナースが視る病気』講談社		
履修条件	－		
科目等履修	否		
履修上の留意点			
備考・メッセージ	本授業は必修科目「生体と環境」の実践的補講になっています。 『看護覚え書』の各論を学んでいくには、どうしても基本的な物理の理解が大切です。各班の内、2－3名が代表して受講しているといいでしょう。		

講義科目名称： 宮崎の自然Ⅰ

授業コード： 10030

英文科目名称： Nature in Miyazaki Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	1	選択
担当教員			
◎小河一敏、特別講師（野田俊一郎、河野耕三）			
普遍分野	自然界と看護	1 セメスター	1 5 時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	宮崎の自然の特徴を知り、人々の生活と自然とのつながりを見る視点を養う。 (カリキュラムポリシー1・4・5とディプロマポリシー3・6を参照)		
授業計画	1－3回 【宮崎の気候と気象】 地球上における日本の地理的位置から気候・気象の原理を理解したうえで、宮崎の気候・気象の特徴を知る 4－6回 【宮崎の植物相・動物相】 緩の照葉樹林と里山など題材に、その植物相・動物相と人間生活とのかかわり方を知る 7回 【総括】 グループディスカッションで学びをまとめる 8回 【総括発表】 発表会ないしレポート提出		
授業形態	講義		
到達目標	● 宮崎の気候・気象の特徴を地理・地勢から理解する。 ● 宮崎の地理・地勢の特徴を知る。 ● 宮崎の植物相・動物相を知る。		
評価方法	【評価規準】 講義での質問、意見の提示など取り組み姿勢と講義レポート（80％）、最終課題（20％）により総合的に評価する。 【評価基準】 S：宮崎の自然でとらえた「人々の生活と自然」とのつながりを普遍化できる。 A：各単元同士の論理的なつながり＝共通性をとらえられる。その内容を他者に伝えられる。 B：各単元同士の事実に基づくつながりがトータルに描かれる。 C：各単元が理解できる。 D：Cに達しないレベル。		
教科書	特になし		
参考書・参考文献	講義において紹介する		
履修条件	－		
科目等履修	可		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： 宮崎の自然Ⅱ

授業コード： 10031

英文科目名称： Nature in Miyazaki Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	1	選択
担当教員			
◎小河一敏、特別講師（高木正博、田岡洋介）			
普遍分野	自然界と看護	2 セメスター	1 5 時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	宮崎の自然の特徴を知り、人々の生活と自然とのつながりを見る視点を養う。 (カリキュラムポリシー1・4・5とディプロマポリシー3・6を参照)
授業計画	1－3回 【宮崎の林業】 日本一の杉生産を成り立たせている地質や気候・気象の特徴に合わせた宮崎の林業のありかたを知る。 宮崎大学農学部付属演習林での研修をふくむ。 4－6回 【宮崎の水産業】 宮崎沿岸部海洋構造と植物相・動物相の特徴を知り、そこでの水産業の特徴を知る。 7回 【総括】 グループディスカッションで学びをまとめる 8回 【総括発表】 発表会ないしレポート提出によって、宮崎の自然と人々の生活との関わりを理解する。
授業形態	講義
到達目標	● 宮崎の地理・気候の特徴を知る。 ● 宮崎の植物相・動物相を知るとともに、その特徴に即した林業・水産業の歴史と現状とを理解する。
評価方法	【評価規準】講義での質問、意見の提示など取り組み姿勢と講義レポート（80%）、最終課題（20%）により総合的に評価する。 【評価基準】 S：宮崎の自然でとらえた「人々の生活と自然」とのつながりを普遍化できる。 A：各単元同士の論理的なつながり＝共通性をとらえられる。その内容を他者に伝えられる。 B：各単元同士の事実的なつながりがトータルに描かれる。 C：各単元が理解できる。 D：Cに達しないレベル。
教科書	特になし
参考書・参考文献	講義において紹介する
履修条件	－
科目等履修	可
履修上の留意点	演習林実習（田野）は土曜日に1日で行なう予定。 （演習林研修に参加できない場合、出席回数不足により単位認定が出来ない。） 日程は決定次第、周知する。 諸事情により、演習林研修が開催できない場合、遠隔授業となる。（2021年度は遠隔授業実施。）
備考・メッセージ	宮崎大学農学部付属施設での研修を行う。 受講人数により、訪問施設別に班を分ける。 施設への移動経費・移動時間などの負担が生じる。

講義科目名称： 生物学入門

授業コード： 10040

英文科目名称： Remedial Biology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	1	選択
担当教員			
◎長坂猛			
添付ファイル			

授業の目的・概要	普遍科目や専門基礎科目での学びに備え、基礎的な生物的な知識を身につけること。		
授業計画	第01回	【生物と細胞】 生物および人間の体の基本的な構造	
	第02回	【体液とその役割】 体液の種類とそれが身体の中で担っていること	
	第03回	【呼吸と循環】 血液循環の概要とガス交換の関わり	
	第04回	【消化と吸収】 口からこう門までの消化管とそこで行われている消化吸収	
	第05回	【化学反応と排泄】 体内のエネルギー貯蔵、解毒や緩衝作用、排泄の仕組み	
	第06回	【ホルモンと神経】 恒常的なバランス機能と情報の伝達経路	
	第07回	【遺伝と遺伝子】 遺伝子と遺伝の仕組み	
	第08回	【試験】 レポートの場合もある	
授業形態	講義		
到達目標	普遍科目群や専門基礎科目群での学習において、高校時代に生物を履修した学生と、基礎的な知識については同等のスタートラインに立つこと。		
評価方法	試験（70％）、授業への参加状況（30％）		
教科書	特に指定しない		
参考書・参考文献	資料を配布するので、特に指定しない。高校時代の資料や、人間常態学で購入した解剖・生理関係の教科書や参考書を用いることもできるので、書籍を準備する必要はありません。		
履修条件	高校時代に生物を履修していない人、履修したが完結していない人、センター試験で生物を受験していない人、どうしても苦手としている学生を対象とします。		
科目等履修	不可		
履修上の留意点	20人以内の少人数クラスを想定しています。授業計画は、順序などが入れ替わることがありますので、めやすとしてください。		
備考・メッセージ			

講義科目名称： 人間社会と規範

授業コード： 10080

英文科目名称： Sociological and Ethical Norms

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	1	選択
担当教員			
◎佐藤信人			
普遍分野	人間社会と看護	1セメスター	1 5 時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護師は看護師である前に人間です。人間の「人」としての感性・識見・価値観が「規範」を確たるものにします。それを自ら育て高度専門職としての看護師を目指すことが重要です。歴史は、当然に思える「生命の尊厳」や「人の価値」さえも大きく揺るがしてきました。自分の考えを持ち、意見を述べ、他者の理解を得ることを通じ、生きとし生けるものの生命の尊さと「人の尊厳（人の価値）」を支持する確たる意志を持ち、対人支援の基盤である原理・原則としての規範を確立することを目的とします。
授業計画	1－2回 【人間社会と規範】 1～2回 人間が社会を営むことと規範との関係（規範とは何か） 規範の脆弱性と普遍性（同調圧力、時代に揺れる規範と揺れない規範） 3－4回 【規範と尊厳】 3～4回 規範と尊厳との関係 生命の尊厳と使途の尊厳、人の価値 5回 【憲章や法律にみる尊厳】 5回 「尊厳」を規定する憲章や法律 法、法治国家の意味（法はパピルスではなく人の心に刻まれる） 6～7回 【「臓器移植」の倫理】 6～7回 人の尊厳の危機とそれを保持する支援（健康支援と社会保障制度へのつなぎ） ワーカビリティ、自己選択・決定、アセスメント 8回 【試験】 第8回 試験
授業形態	講義（グループワークを含む）
到達目標	看護を学ぶ医礎として、各自の人間社会における「規範」についての考えや信念を獲得する入口に立つことができる。
評価方法	試験80％、授業への参加度20％
教科書	「尊厳－あなたがいなければ私はいない－」 ぱーそん書房
参考書・参考文献	講義中に適宜紹介する。
履修条件	
科目等履修	不可
履修上の留意点	講義の内容、および順序については、受講生のニーズによって変更することもあります。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 社会学入門

授業コード： 10085

英文科目名称： Introduction to Sociology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	1	選択
担当教員			
◎梅津顕一郎 （分野調整担当教員 串間敦郎）			
普遍分野	人間社会と看護	2 セメスター	1 5 時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	テーマは「社会実践のための社会学」。 社会学は近代社会の黎明期以降、人々の理性的な営為の下での自由と秩序の在り方について検討してきた学問である。それは近代資本主義社会がグローバル化し、インターネットによって世界中がつながった現代においても、極めて重要な課題であると言っている。とりわけコロナ禍における社会生活の困難さは、グローバル社会という現代の文脈に於いてもなお、自由と秩序に関する課題が克服されてはいないことを物語っている。私達が様々な社会的実践活動の中で感じる困難の多くは、自由と秩序の問題に連なるものであると考えて良い。授業では、単に社会学の学説を理解するだけではなく、このような大きなテーマに立ち返りながら、現代社会の具体的な諸課題について社会的な思考から考える力を身につけていく。		
授業計画	1-2回 【近代社会の誕生と社会学】 ・内容 ①オリエンテーション：この授業の狙いと内容、講師自己紹介、成績評価など ②講義：近代とは何か？、近代における「自由」と「秩序」 ③社会学における「自由」と「秩序」の扱い方 ・方法 講義形式 3-4回 【社会学的視座からのアプローチ① 若者の自己肯定感と私らしさの現在】 ・内容 ①青年・若者をめぐる課題 ②若者の進路選択と自己実現 ③消費と私らしさ～情報化が進展する中で～ ・方法 講義形式 5-6回 【社会学的視座からのアプローチ③ リスク社会との付き合い方】 ・内容 ①リスク社会という考え方 ②コロナ禍と社会的リスク ③リスクの分配をどう考えるか ・方法 講義形式 7-8回 【社会学的視座からのアプローチ② 非・物語化する？現代】 ・内容 ①「社会の大きな物語」 ②再びリスク社会について考える ③まとめ ・方法 講義形式		
授業形態	講義		
到達目標	現代社会における諸課題について、①問題の発見、②価値的評価と客観的な俳句をしっかりと分けた認識、③既存の社会学理論を手がかりとした論理的な思考から考える力を身につける。		
評価方法	試験（70%）、レポート・プレゼンテーション・授業への参加状況（30%）		
教科書	特に使用しない（講義時に教材資料を適宜配布します）		
参考書・参考文献	見田宗介『現代社会はどこに向かうか——高原の見晴らしを切り開くこと』岩波新書、2018年 U. ベック『世界リスク社会論—テロ、戦争、自然破壊』筑摩学芸文庫、2010年 土井孝義『宿命を生きる若者たち—格差と幸福をつなぐもの』岩波ブックレット、2019年 大澤真幸『不可能性の時代』岩波文庫、2008年		
履修条件	—		
科目等履修	可		
履修上の留意点	講義では、様々な著作、論文を紹介しますので、興味のわいた議論については、皆さん自身の力で読破してください。		
備考・メッセージ	思想・哲学的思考の領域と、フィールドワーク、現実観察の領域を往復する社会学は、知識の定着以上に問題視座の設定や論理的な思考が重要となる学問です。授業で習ったことを予習・復習でただなぞるのではなく、日頃生活の中で感じるちょっとした疑問について、考察を深めるための手がかりとするような勉強を心がけてください。		

講義科目名称： 健康支援と社会保障制度Ⅰ

授業コード： 10090

英文科目名称： Health Control and Social Security SchemesⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	1	必修
担当教員			
◎佐藤信人			
添付ファイル			

授業の目的・概要	人間社会を制する規範を具現化したものが法であると考えられることもできます。日本は法治国家であり法によって秩序が保たれていますが、国の規範や尊厳、健康に対する認識の程度が社会保障制度によく表れます。その国において社会的に弱い立場にある人々、困難を有する人々をどの程度手厚く支援する仕組みを整えているかが、真のその国の豊かさを示しとも言えます。こうした人々を支援する看護職者が「人」を認め大切にすることができる国の形、社会保障制度のあり方、体系を考えることを目的とします。
授業計画	1 回 健康の定義と理解 健康の定義、健康に対する指標、受領状況等 2～3 回 社会生活基盤と健康、家族、集団 人口構造、家族構造、世帯構造、住居、家族機能、集団の機能 4～5 回 社会保障の理念と変遷 日本国憲法、社会保障・社会福祉・公衆衛生制度の枠組み、社会保障給付費等 6～7 回 社会福祉諸制度 社会福祉の諸制度 8 回 試験
授業形態	講義（グループワークを含む）
到達目標	社会保障制度の理念や目的、意義、対象者、給付内容等について知り、看護職となった時に支援に活用することができる知識を身に着けることができる。
評価方法	試験 80%、参加度 20%
教科書	ナースングラフィカ 健康支援と社会保障制度③ 社会福祉と社会保障 その他、教員が随時作成・提供
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	不可
履修上の留意点	積極的に授業に参画すること。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 社会福祉と経済

授業コード： 10100

英文科目名称： Social Welfare and Economy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	2	必修
担当教員			
◎佐藤信人			
普遍科目	人間社会と看護	3 セメスター	3 0 時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	・ 社会福祉の各種制度の歴史的変遷について把握すること。 ・ 社会福祉の各種制度の内容について学習すること。 ・ 福祉・保健・医療の連携の必要性について学習すること。 ・ 公的扶助について学習すること。
授業計画	1回 【社会保障の理念等】 2～3回 【健康指標】 4～8回 【高齢者福祉、介護保険制度、地域包括ケアシステム、地域共生社会】 9～10回 【障がい者福祉、ノーマライゼーション】 11～12回 【児童福祉】 13～14回 【生活保護】 15回 【まとめ】 16回 【試験】
授業形態	講義
到達目標	社会福祉の諸制度を看護の第一線で社会資源として活用することの必要性が理解できる。
評価方法	試験点数80%、授業参加度20%
教科書	ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障③「社会福祉と社会保障」メディカ出版
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	積極的に授業に参加してください。

講義科目名称： 人間関係論

授業コード： 10190

英文科目名称： Human Relations

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	選択
担当教員			
◎高野美智子（分野調整担当教員 川北直子）			
普遍分野	個の尊重と看護	1セメスター	1 5 時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	人は家族や社会の人間関係の中で存在している。本講義では家族や社会の人間関係の視点から人の生き方を考えるものであり、人間関係の基礎やその発達、医療に特有な人間関係について学んだ後、人間関係の歪みや障害と人間関係の改善と向上の方法について学ぶ。		
授業計画	1 回	人間関係の基礎 人間関係の意味、人間関係の要因等の基礎的内容について理解する。また、自己認知や対人認知について理解することにより、自己の対人関係の気づきとなり、対人関係とその役割を理解する。	
	2 回	人間関係の発達 人間の成長や発達の基礎的内容について理解し、発達段階における人間関係の成長について理解する。主に、エリクソンの発達段階やフロイトの認知発達理論について理解する。	
	3 回	コミュニケーション理論 コミュニケーションの概要を説明し、その内容を理解する。言語的コミュニケーションや非言語的コミュニケーションの違いを理解する。また、個人や集団における対人関係の基礎的内容と行動理論について理解する。	
	4 回	人間関係の歪みや障害 発達段階、家庭、社会等における人間関係の歪みや障害について理解する。特に神経発達障害との併存が多い不登校、いじめ、メディア依存を理解する。	
	5 回	人間関係の改善と向上 人間関係のトレーニング理論について、3つのトレーニングを理解する。主に、アサーション・トレーニング・リーダーシップのトレーニング・コーチング理論の3つの理論を理解する。	
	6 回	カウンセリングと心理療法 人間関係の治療における理論や概要を学び、心理療法の基礎的内容を理解する。 カウンセリング理論、認知行動療法について理解を深める。	
	7 回	医療と患者を支える人間関係 様々な疾患を抱えた患者を支える人間関係について理解する。また、その患者を抱える家族、個人を取り巻くソーシャルサポートの視点からも理解する。	
	8 回	期末テスト	
授業形態	講義		
到達目標	1. 人間関係の基礎となる要因について理解する。 2. 人間関係と発達段階との関係を理解する。 3. 医療における人間関係とコミュニケーションについて理解する。 4. 人間関係の歪みや障害について理解する。 5. 人間関係の改善や向上させるための技法について理解する。		
評価方法	出席状況(5%)、小テスト(15%)、期末テスト(80%)		
教科書			
参考書・参考文献			
履修条件	－		
科目等履修	可		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： スペイン語Ⅰ

授業コード： 10335

英文科目名称： SpanishⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	1	選択
担当教員			
◎モンセラート・アヤラ (分野調整担当教員 川北直子)			
普遍分野	個の尊重と看護	1 セメスター	3 0 時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	新しい言語を勉強する楽しさを体験します。 初歩的な文法・語彙を修得しながら、スペインやスペイン語圏での生活について学んでいきます。 ・スペイン語の発音、初歩的な文法・表現を、DVD付きテキストを使って学びます。 ・簡単な文法説明に続いて文章を作り、いろいろな練習問題で簡単な日常会話を習得します。 ・スペイン語を使用する国・地域に関心を持ち、生活背景について知識を広めます。
授業計画	1回目 【導入】 2回目 【駅で(1)】 アルファベット、名詞と形容詞性、定冠詞と不定冠詞 3回目 【駅で(2)】 アルファベット、名詞と形容詞性と、定冠詞と不定冠詞 4回目 【タクシーで(1)】 動詞ser 5回目 【タクシーで(2)】 動詞ser 6回目 【ロレンソの家で(1)】 動詞estar、所有形容詞 7回目 【ロレンソの家で(2)】 動詞estar、所有形容詞 8回目 【家族(1)】 規則動詞の直説法現在、基数 (1～10) 9回目 【家族(2)】 規則動詞の直説法現在、基数 (1～10) 10回目 【家での食事(1)】 1 人称単数形だけが不規則変化する動詞の直説法現在 11回目 【家での食事(2)】 1 人称単数形だけが不規則変化する動詞の直説法現在 12回目 【買い物(1)】 動詞haber、形容詞と不定代名詞基数 (11～20) 13回目 【買い物(2)】 動詞haber、形容詞と不定代名詞基数 (11～20) 14回目 【時刻(1)】 不規則動詞 (語根母音変化型) の直説法現在 15回目 【時刻(2)】 不規則動詞 (語根母音変化型) の直説法現在 16回目 【試験】
授業形態	演習
到達目標	スペイン語の発音に慣れる。 初歩的なスペイン語文法を理解する。 簡単な日常会話表現を覚える。
評価方法	試験 (60%)、課題 (20%)、授業への参加状況 (20%)
教科書	教科書 Vacaciones en Valencia 『バレンシアの休日』
参考書・参考文献	
履修条件	—
科目等履修	否
履修上の留意点	疑問点があれば積極的に質問し、『間違いを通して学習していく』姿勢で臨みましょう。
備考・メッセージ	

講義科目名称： スペイン語Ⅱ

授業コード： 10336

英文科目名称： SpanishⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	1	選択
担当教員			
◎モンセラート・アヤラ (分野調整担当教員 川北直子)			
普遍分野	個の尊重と看護	2 セメスター	3 0 時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	新しい言語を勉強する楽しさを体験します。 基本的な文法・語彙を修得しながら、スペインやスペイン語圏での生活について学んでいきます。 ・スペイン語Iを土台に、引き続き発音、基本的な文法・表現を、DVD付きテキストを使って学びます。 ・簡単な文法説明に続いて文章を作り、いろいろな練習問題で簡単な日常会話を習得します。 ・スペイン語を使用する国・地域の文化と生活背景に関する理解を深めます。		
授業計画	1回目 【キオスクで(1)】 その他の不規則動詞の直説法現在、月、日付 2回目 【キオスクで(2)】 その他の不規則動詞の直説法現在、月、日付 3回目 【科学博物館で(1)】 所有形容詞完全形（後置形）、直接目的語、基数（100まで）、感嘆文 4回目 【科学博物館で(2)】 所有形容詞完全形（後置形）、直接目的語、基数（100まで）、感嘆文 5回目 【バルで(1)】 動詞ir / ir a +不定詞 6回目 【バルで(2)】 動詞ir / ir a +不定詞 7回目 【大聖堂で(1)】 querer, poder, saber, volver +不定詞、住所 8回目 【大聖堂で(2)】 querer, poder, saber, volver +不定詞、住所 9回目 【病院で(1)】 量と頻度に関する副詞、基数（100~1,000）、気候 10回目 【病院で(2)】 量と頻度に関する副詞、基数（100~1,000）、気候 11回目 【お店で(1)】 間接目的語、色 12回目 【お店で(2)】 間接目的語、色 13回目 【食べよう(1)】 基数（1,000~1,000,000）、曜日 14回目 【食べよう(2)】 基数（1,000~1,000,000）、曜日 15回目 【祭り】 動詞gustar「～に・・・が気に入る」→「～は・・・が好きだ」、体の部分 16回目 【試験】		
授業形態	演習		
到達目標	スペイン語の発音を習得する。 基本的なスペイン語文法を理解する。 簡単な日常会話表現を身に付ける。		
評価方法	試験（60%）、課題（20%）、授業への参加状況（20%）		
教科書	Vacaciones en Valencia『バレンシアの休日』		
参考書・参考文献			
履修条件			
科目等履修			
履修上の留意点	疑問点があれば積極的に質問し、『間違いを通して学習していく』姿勢で臨みましょう。		
備考・メッセージ			

講義科目名称： 現代メディアと文化

授業コード： 10440

英文科目名称： Contemporary media and culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	1	選択
担当教員			
◎楠田剛士 （科目調整教員 大館真晴）			
普遍分野	文化と看護	1 セメスター	3 0 時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	本授業の目的は、近現代日本の言語・視覚芸術を取り上げ、その考察を通して、人間と社会のありようを多角的にとらえることである。文学作品や映像作品には、いまここにいる分とは異なる状況に置かれた人間の姿が描かれるが、作品の精読を通じて異なる立場を理解する力を養う。また、作品にはそれ生み出した社会状況や文化背景が多様な形で編み込まれており、それを探ることで、人間と歴史・社会の関係を幅広くとらえる力を養う。		
授業計画	1回 【ガイダンス】 授業の目的、進め方、評価などについてのガイダンス。 2-3回 【テーマ1】 童話作品を読み、個人と集団の関係について考察する。 4-6回 【テーマ2】 童品作品を読み、人間と動物の関係について考察する。 7-8回 【テーマ3】 視覚芸術を読み解く(1)絵と言葉の相互関係について考察する。 9-10回 【テーマ4】 戦争を題材とした作品を読み、戦争体験と記憶の語り方について考察する。 11-12回 【テーマ5】 近代小説を読み、人間と自然の関係について考察する。 13-14回 【テーマ6】 視覚芸術を読み解く(2)映画に描かれたもの、描かれないものを考察する。 15-16回 【まとめ】 授業を振り返り、まとめる。		
授業形態	演習		
到達目標	Ⅰ 作品の特徴や問題点を、適切な語句・分量でまとめることができる。 Ⅱ 相互に議論し、人間と社会の関わりについて考察を深めることができる。		
評価方法	平常評価(予習課題・発表)60%、期末評価(期末レポート)40%		
教科書			
参考書・参考文献	授業中に適宜案内する。		
履修条件			
科目等履修	可		
履修上の留意点			
備考・メッセージ	予習課題に積極的に取り組み、自らの注目点・疑問点をもって授業に参加すること。		

講義科目名称： 看護疾病論I

授業コード： 10460

英文科目名称： Understanding Diseases for Nursing Care I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	1	必修
担当教員			
◎藏元恵里子、山岸仁美、その他（検討中）			
専門基礎分野	看護人間学総論	2セメスター	15時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	「病気は回復過程」というF.Nightingaleの病気観にもとづき、人間の健康状態を判断するために必要な専門知識と看護することにつながる病気の見つめ方を修得する。		
授業計画	1回 【疾病理解の看護学視点について理解する】 病気とは 看護とは 健康とは 健康の法則とは 2回 【医師の診断・治療過程を知る】 医療とは 医学とは 事例をもとに、医師の診断・治療過程を具体的に知り、看護との共通性と相異性を理解する。 3－6回 【事例をもとに、以下の視点から病気をどのように捉えていくのかその思考のプロセスをたどる】 1 その健康障害は健康な人間の形態・機能にどのような変化が起こったのか 2 その変化は、可逆か不可逆か 3 その変化によって日々の生活上、不可能または不自由になったことは何か 4 どのような生活の仕方が障害の誘因になったと思われるか 5 どのような生活の仕方が良い方向に向けると考えられるか オムニバス形式の授業です。担当教員は全員、看護師としての実務経験をもっています。各疾病に関する看護経験や患者経験をもつ教員が、授業を担当し、本科目での学習を支援します。 看護学の立場から病気を観る思考のプロセスについてどのように理解できたか、全体討議を行う 7回 課題レポート テーマについては、後日示す		
授業形態	講義		
到達目標	1. 病気は健康を脅かす力と回復する力との力関係の結果として現れることを理解する。 2. 生きて生活する人間のからだの仕組みと、病気への変化のプロセスを理解する。 3. 健康の良い状態から病気に至る変化の過程を、発達段階や生活過程との関連で捉える。 4. 生命力を脅かす諸条件とその徴候を理解し、回復を促進するための生活調整について考える		
評価方法	グループ討議・全体討議への参加姿勢（40%）、毎回のレポート（40%）、課題レポート（20%）		
教科書	『看護のための疾病論 ナースが視る病気』講談社 『看護のための人間論 ナースが視る人体』講談社		
参考書・参考文献	『看護の生理学（1）（2）（3）』 現代社 その他随時提示する		
履修条件	—		
科目等履修	否		
履修上の留意点	授業は講義形式で、大半の授業が学生とのコミュニケーションをとりながらの双方向型授業です。人間常態学Iの知識を活用しながら学修していきます。各回の授業内容に関連する人間常態学Iの知識を復習して授業に臨んでください。		
備考・メッセージ	看護学原論Iで学修した概念をもとに、学びを深めていきましょう。		

講義科目名称： 看護疾病論Ⅲ

授業コード： 10480

英文科目名称： Understanding Diseases for Nursing C

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	1 単位	必修
担当教員			
◎橋口奈穂美、壹岐さより、甲斐鈴恵、大野理恵			
専門基礎科目	看護人間学総論	4セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	「病気は回復過程」という考え方にもとづき、人間の健康状態を判断するために必要な専門知識と看護することにつながる病気の見つめ方を修得する。
授業計画	1 回 【導入】 生命の連続性はどこにどのような問題が生じた時に脅かされるのか、生殖器官の発生や発達、構造と機能などをふまえながら生じる健康問題について、その概要を学ぶ（概論）。【担当教員：橋口】 2－15 回 【生命の連続性に関わる代表的な健康障害】 下記の生命の連続性に関わる代表的な障害について、その成り立ちと回復のための条件を学ぶ。2～15回はオムニバスで展開する。 ＊学習予定の健康障害 2回 月経の異常 3回 子宮内膜症 4回 性感染症 5回 不妊症 6回 流産・早産 7回 先天性障害・ダウン症 8回 妊娠高血圧症候群 9回 低出生体重児・未熟児網膜症 10回 分娩時障害 11回 脳性麻痺 12回 脳性麻痺に伴う合併症 13回 更年期障害 14回 男性生殖器の腫瘍[前立腺がん・前立腺肥大症] 15回 女性生殖器の腫瘍[子宮筋腫・子宮がん] ＊担当教員は看護師・助産師としての実務経験を有しており、その経験を踏まえ講義します。 試験
授業形態	講義
到達目標	1. 病気は健康を脅かす力と回復する力との力関係の結果として現れることを理解する。 2. 生命の連続性を維持する人間のからだの仕組みと、病気への変化のプロセスを理解する。 3. （生命の連続性が維持できる）健康なよい状態から病気に至る変化の過程を、発達段階や生活過程との関連で捉える。 4. 生命の連続性を脅かす諸条件とその徴候を理解し、回復を促進するための生活調整について考える。
評価方法	試験（100％） 評価規準・基準は最初の授業で配布
教科書	『看護のための人間論 ナースが視る人体』薄井坦子著 講談社 『看護のための疾病論 ナースが視る病気』薄井坦子著 講談社 ＊毎回の講義開始時に教員作成のテキストを配付予定である。
参考書・参考文献	参考書や資料等は講義時に随時紹介する。
履修条件	—
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 人間常態学基礎 I

授業コード： 10525

英文科目名称： Basic Anatomy and Physiology of human body I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	1	選択
担当教員			
◎田中美智子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護の基礎となる人体の構造と機能について講義する。すべての生命体は外界からの刺激を受け止め、外界とのやりとりを通して個体の維持を行うとともに、種を存続させていく。人間が「生きている」および「よく・うまく・たくましく生きていく」ための脳の構造と機能と、動物としての人間が人間らしく存在するために必要な「運動」と「休息」の基礎的内容についても学ぶ。		
授業計画	1 回	オリエンテーション・【外界からの刺激をうける】 「わからない」という人のために 講義の進め方の説明	
	2-3回	【外界からの刺激を受ける】：感覚 【からだの働きを整える①】 神経性調節：中枢神経系の概要 末梢神経系の概要	
	4-5回	【からだの働きを整える②】 液性調節：内分泌系の概要他	
	6-7回	【動くということ】 からだの支持と運動 骨と筋肉の主な働き（模型を用いて）	
	8回目	まとめ 試験	
授業形態	講義		
到達目標	知識・理解：人体の構造と機能の基礎的知識を具体的に述べることができる。 思考・判断・表現：指定された課題を作成することで、人体の構造と機能に関する基本的なメカニズムについて表現することができる。 関心・意欲・態度：これまで受けている講義内容を結び付け、人に生じる健康問題に関心を持つ。		
評価方法	試験（30%）、小テスト・授業への参加状況（20%）、課題レポート（50%）		
教科書	「カラー人体解剖学」西村書店 「人体の構造と機能①解剖生理学」メヂカルフレンド社		
参考書・参考文献	「新看護生理学テキスト」南江堂 「トートラ人体解剖生理学」丸善 「QUICK 生理学解剖学」羊土社		
履修条件	特になし		
科目等履修	否		
履修上の留意点	初回の講義で留意点について説明		
備考・メッセージ	質問の際は必ずメールにてappointmentをとってこること。メールでも可能。		

講義科目名称： 人間常態学基礎Ⅱ

授業コード： 10526

英文科目名称： Basic Anatomy and Physiology of human body Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	1	選択
担当教員			
◎田中美智子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護の基礎となる人体の構造と機能について講義する。人間は外部環境から生体に必要なものを取り入れ、体内で使用した老廃物や不要物を排泄している。そのため人体には細胞をとりまく内部の状態（内部環境）をできるだけ恒常に保つ仕組みが備わっている。この内部環境の恒常性維持を中心に、物質の運搬とその経路、及び物質の摂取と排泄の基礎的内容について学ぶ。		
授業計画	1-2回	【内部環境の恒常性】 体温調節の基礎 体液の恒常性	
	3-5回	【物質の運搬とその経路：循環器系】 血液 循環器系の構造、循環調節、リンパ	
	6回	【物質の摂取と排泄：消化吸収】 消化吸収	
	7回	【物質の摂取と排泄：呼吸】 呼吸	
	8回	まとめ 試験	
授業形態	講義		
到達目標	知識・理解：人体の構造と機能（体温調節、体液、血液、循環、呼吸、消化吸収、排泄系など）の基礎的知識を具体的に述べることができる。 思考・判断・表現：指定された課題を作成することで、人体の構造と機能に関する基本的なメカニズムについて表現することがきでる。 関心・意欲・態度：これまで受けている講義内容を結び付け、人に生じる健康問題に関心を持つ。		
評価方法	試験（30%）、講義内課題・小テスト・授業への参加状況（40%）、レポート（30%）		
教科書	「カラー人体解剖学」西村書店 「人体の構造と機能①解剖生理学」メヂカルフレンド社		
参考書・参考文献	「新看護生理学テキスト」南江堂 「トートラ人体解剖生理学」丸善 「QUICK 生理学解剖学」羊土社		
履修条件	なし		
科目等履修	否		
履修上の留意点	初回の講義で留意点について説明		
備考・メッセージ	質問の際は必ずメールにてappointmentをとってくること。メールでも可能。		

講義科目名称： 人間病態学Ⅲ（応用）

授業コード： 10610

英文科目名称： Clinical Microbiology and Immunology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4 年	1 単位	選択
担当教員			
◎島内千恵子			
専門基礎科目	看護人間学 I	8セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	人間病態学Ⅱ（感染と免疫）及び感染看護学の理解を深め、臨床におけるいろいろな感染の問題に適切に対応できる能力を養う。
授業計画	受講生が決定する。 1－2回 各自関心を持ったテーマ（2つ位）を出し合い、決定する。 3－15回 テーマにそって、文献検索、ビデオ視聴、実験などを行い、成果を発表、討論する。 ※社会的に問題となっている感染症や臨地実習で経験した種々の感染症とその対策、あるいはその基礎にある免疫異常など、各自の関心のあるテーマにそっての学修を、病院で看護師としての実務経験のある教員が支援します。
授業形態	演習
到達目標	社会的に問題となっている感染症や臨地実習で経験した種々の感染症とその対策、あるいはその基礎にある免疫異常など、各自の関心のあるテーマにそって、文献検索、実験などを行い、成果を発表し、討論することができる。
評価方法	演習、実験、討論への参加状況（50%）、発表内容・発表資料（50%）
教科書	
参考書・参考文献	
履修条件	—
科目等履修	否
履修上の留意点	感染に関するテーマで卒業研究を行う学生は、この科目を選択すること。 できるだけ7月中にテーマを決定し、夏休み中から文献検索等を行う。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 精神発達学

授業コード： 10640

英文科目名称： Human Mental Growth and Development

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	1	必修
担当教員			
◎藏元恵里子			
専門基礎科目	看護人間学Ⅱ	1 セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	社会生活を送るための精神の働きが、ライフサイクルに沿って、どのように発達していくのかを理解する。また、発達課題について、グループ・個別ワークを通して理解し、心の危機管理の必要性を知る。		
授業計画	1 回 【導入】 精神とは何か、精神発達学で何を学ぶのか 2－4 回 【認識を司る脳】 脳の基礎知識、身体運動の発達、脳科学の歴史 神経細胞、グリア細胞、大脳皮質の働き、大脳半球の機能差、 身体発育段階、原始反射 5－7 回 【認識の発達】 認識とは何か 脳の発達段階と言語・認知発達 乳幼児期から学童期までの脳の発達と言語・認知発達 8－1 4 回 【ライフサイクルにおける脳の発達・認知発達・発達危機】 ライフサイクルにおける脳の発達・認知発達・発達危機 乳児期（0-1歳）・幼児前期（1-3歳）・幼児後期（3-6歳）・学童期（6-12歳）・思春期（12-18歳） ・青年期（18-25歳）・青年前期（20-30代）・成人中期（30-50代）・成熟期（50-70代） ・成人後期（70代以降） 1 5 回 【まとめ】 1 6 回 最終試験 科目責任者：看護師として大学病院や民間病院での実務経験をもとに、精神医療に関する看護経験をふまえた講義を展開し、本科目での学習を支援します。		
授業形態	演習		
到達目標	1. 精神の働きが、ライフサイクルに沿って、どのように発達していくのか、理解する。 2. ライフサイクルごとの精神に関する発達課題の実際を知り、心の危機管理について理解を深める。		
評価方法	各回講義レポート（30％、授業への参加状態を考慮）、最終試験（70％）による総合評価を行う。		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 第6版、医学書院 「生涯人間発達論 第3版：人間への深い理解と愛情を育むために」服部祥子、医学書院、2020		
参考書・参考文献	「カラー人体解剖学」西村書店 「育児の認識学」海保静子、現代社、2001		
履修条件	—		
科目等履修	不可		
履修上の留意点	—		
備考・メッセージ	初回の講義で評価方法も含めて具体的に説明します。		

講義科目名称： 看護学原論Ⅰ

授業コード： 10780

英文科目名称： Principles of NursingⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	2 単位	必修
担当教員			
◎毛利聖子 山岸仁美 坂井謙次 他			
専門分野	基礎看護学	1セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護学の目的論・対象論・方法論について立体像を描く		
授業計画	1回	【“理論とは”を理解し、理論を学ぶ目的を明確にする】 ・看護学の位置づけ ・看護実践と看護理論との関係 ・‘像’の形成のプロセスについて	
	2－5回	【人間とはどのような存在か、看護とはどのような働きか】 ・＜人間とは＞について理解を深め、人間が生きるうえで必要な能力について討議する ・＜健康とは＞＜病気とは＞＜生活とは＞＜生命力とは＞＜看護とは＞について理解する ・自立した生活を支える力について討議する ・看護の原基形態、看護の視点、専門知識、専門技術について理解する（バズ討議法を活用する） 【人間のもてる力について】 ・自己のもてる力を探索する ・立場の変換能力について理解し、“もう一人の自分”を活用しやすいようにまとめる。 【ライフサイクルと日常生活力について】 ・第1、第2、第3の人生という発達段階の応じた日常生活力について理解する	
	6－15回	【F. ナイチンゲールの『看護覚え書』にみる看護の本質、看護の視点、看護師とは何か（目的論）】 【看護するための人間論・対象特性論（対象論）】 【実践を導く思考のプロセス（方法論）】 ・教科書『看護学原論講義』をもとに、映像や体験をてがかりにして看護学の目的論・対象論・方法論について理解する（バズ討議法を活用する） ・自己を看護の対象として看護理論を使う *課題レポート：テーマは後日伝える <	

講義科目名称： 看護方法Ⅰ-1

授業コード： 10800

英文科目名称： Nursing CareⅠ-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	1 単位	必修
担当教員			
◎毛利聖子 山岸仁美 坂井謙次 他			
専門分野	基礎看護学	1セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	自己の生活力を見つめ、健康的な生活に不可欠な要素を確認し、生活過程をととのえる看護基本技術を修得する。
授業計画	1 回 【看護技術とは・看護技術を修得するとは】 主体的な学習をすすめるためのガイダンス 「看護方法」への導入 〔自己学習－グループ学習－個別指導－自己評価〕のシステムの説明 【健康状態の観察技術を身につける】 共通基本技術 1.＜観察技術＞のイメージづくり 2.健康状態の観察技術の実習 3.客観情報（測定結果）と主観（自己の健康感覚）をつきあわせて、自己の健康状態を評価する 2回 【自己の健康状態をよりよい状態にととのえる看護技術を身につける】 食と排泄のバランスをととのえる ＜食の観察・評価＞ 運動と休息のバランスをととのえる ＜指圧＞＜自律訓練法＞ 3－7回 【日常生活の援助技術を身につける】 よい生活環境をととのえる ＜ベッド・メイキング＞＜病床環境をととのえる＞ 運動と休息のバランスをととのえる ＜安楽な姿勢＞＜移動＞＜体位変換＞＜体操＞＜良肢位＞＜抑制＞ 食と排泄のバランスをととのえる ＜食事介助＞＜自然な排便を促すためのケア＞＜便・尿器の与え方＞ 清潔への援助 ＜シーツ交換＞＜寝衣交換＞＜全身清拭＞＜洗髪＞ ＜足浴＞＜手浴＞＜口腔内清潔法＞ 【看護実践を支える情報源について】 記録・報告の技術 最終回 【看護技術の修得レベルの自己評価と学習課題の設定】 看護基本技術を知る段階から身につける段階へ 自己評価を行い、技の修得レベルのアップをはかる *担当教員は全て、総合病院での臨床経験を積み、この実務経験をもとに本科目の学習を支援します。
授業形態	演習
到達目標	1. 人間の日常生活力を見つめる看護の視点について理解する。 2. 健康的な日常生活をつくり出す必要条件について理解する。 3. 日常生活力をアセスメントし、生活過程をととのえる看護基本技術の立体像を理解する。 4. 看護基本技術の修得レベルを自己評価し、学習課題を定める。
評価方法	授業中の取り組み情况及びグループワークへの参加(60%) 演習記録 (20%) 技術チェック (20%) 評価規 準・基準については最初の授業で配布します。
教科書	『Module方式による看護方法実習書＜第3版＞』現代社 『食品80Kcal ミニガイド』女子栄養大学出版部 『ナースが視る病気』講談社 『ナースが視る人体』講談社
参考書・参考文献	
履修条件	－
科目等履修	可
履修上の留意点	看護学原論、人間常態学の学びを重ねて学修を進めていきます。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 看護方法 I -2

授業コード： 10810

英文科目名称： Nursing Care I -2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	1 単位	必修
担当教員			
◎坂井謙次、山岸仁美、毛利聖子 他			
専門分野	基礎看護学	2セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	自己の生活力を見つめ、健康的な生活に不可欠な要素を確認し、生活過程をととのえる看護基本技術を修得する。
授業計画	1－6回 【日常生活の援助技術を身につける】 1. 学習した看護基本技術を活用して、設定状況にある対象への看護を行うために、練習を積み重ね、その 成果を発表する。成果発表は全三回。 2. 毎回、看護過程にそって自己の実践を振り返り、看護の目的および技術修得（あたまづくり・わざづくり）の観点から修得レベルを自己評価し、学習課題を定めて成果発表を積み重ねる。 7回 *一斉授業後、各グループで演習に入る。 【最終成果発表】 1. 1年間の集大成として、設定患者の看護を実践する。 2. 実践した看護の評価（自己評価）を行い、自己の課題を見出す。 最終回 【まとめ・評価】 1. これまでの修得過程を振り返り、学習した看護基本技術が身についているか自己評価する。 2. 修得レベルのアップに向けて、自己の技術修得上の課題を明確にする。 *担当教員は全て医療機関（病院）での実務経験をもち、そこでの実務経験をもとに講義します。
授業形態	演習
到達目標	1. 人間の日常生活力を見つめる看護の視点について理解する。 2. 健康的な日常生活をつくり出す必要条件について理解する。 3. 日常生活力をアセスメントし、生活過程をととのえる看護基本技術の立体像を理解する。 4. 看護基本技術の修得レベルを自己評価し、知る段階から身につける段階へとすすめる。
評価方法	技術チェック（70％）・自己評価レポート（20％） グループワークへの参加及び授業中の取り組みの姿勢（10％）
教科書	『Module方式による看護方法実習書＜第3版＞』現代社 『ナースが視る病気』講談社 『ナースが視る人体』講談社
参考書・参考文献	
履修条件	看護方法I-1 既修得
科目等履修	可 ※註)
履修上の留意点	註) 科目等履修を希望する学生は、関連科目である看護方法I-1を履修しておくことが前提である。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 看護方法Ⅱ-1

授業コード： 10820

英文科目名称： Nursing Care Ⅱ-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	1 単位	必修
担当教員			
◎山岸仁美、毛利聖子、坂井謙次 他			
専門科目	基礎看護学	3セメスター	45時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	健康に障害をもち医療を受けている人々に適切な看護を行うための基本技術を修得する。		
授業計画	1－3回 【診断・治療過程における看護者の役割を理解する】 <導入> 看護方法Ⅰに引き続き、〔自己学習－グループ学習－個別指導－自己評価システム〕により、看護基本技術を修得する <学習内容の概要> M8 診断・治療過程と看護 診断・治療が効果的に進むように働く看護の独自性について資料を用いて紹介し、どのような能力が働いているか討議する 【感染予防の看護基本技術を修得する】 M4 感染を予防する 消毒・滅菌とは <無菌操作><傷の手当の介助> <滅菌手袋の装着><滅菌包布の扱い方> <標準予防策><手指消毒法><ガウンテクニック> 4－8回 【治療過程における食と排泄のバランスをととのえる看護基本技術を修得する】 M7 食と排泄のバランスをととのえる #<経管栄養法> #<浣腸> #<導尿> #<陰部洗浄> 9回 【生命がおびやかされた状態における医学的判断と、看護学的判断との共通性と相異性を理解し、診断・治療過程に伴う技術を修得する】 M8 検査と看護 #<穿刺><包帯法> 10－12回 【生命のおびやかしへの技術および生命がおびやかされた状態における患者・家族の尊厳と自立した意思決定を支える看護師の役割を理解する】 M9 生命のおびやかしへの看護 #<置法><呼吸を楽にする体位><吸引><酸素吸入> 等 #修得した基本技術を活用して、設定状況への看護に取り組む #死が避けられない患者への看護 <死後の処置> 最終回 【まとめと評価】 看護技術の修得レベルを自己評価し、半年後の臨地実習に向けて看護を必要とする対象に使えるように、技の修得レベルアップに向けて、課題を明確にする *担当教員は全て医療機関（病院）での実務経験をもち、そこでの実務経験をもとに講義します。		
授業形態	演習		
到達目標	1. 診断・治療過程に伴う看護基本技術を修得する。 2. 健康障害の種類と健康の段階に応じた看護基本技術を修得する。 3. 生命がおびやかされた状態への看護基本技術を修得する。 4. 生命がおびやかされた状態における患者・家族の尊厳と自立した意思決定を支える看護の役割を理解する。 5. 看護基本技術の修得レベルを自己評価し、学習課題を明確にする。		
評価方法	技術チェック（70％）、自己評価レポート（20％）、授業中の取り組み情况及びグループワークへの参加（10％）		
教科書	『Module方式による看護方法実習書＜第3版＞』現代社 『ナースが視る病気』講談社 『ナースが視る人体』講談社		
参考書・参考文献			
履修条件	看護方法Ⅰ－1,Ⅰ－2既修得		
科目等履修	否		
履修上の留意点			

講義科目名称： 看護方法Ⅱ-2

授業コード： 10830

英文科目名称： Nursing Care Ⅱ-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	1 単位	必修
担当教員			
◎山岸仁美、毛利聖子、坂井謙次 他			
専門科目	基礎看護学	4セメスター	45時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	健康に障害をもち医療を受けている人々に適切な看護を行うための基本技術を修得する。		
授業計画	1－9回 【診断・治療過程における看護者の役割を理解する】 看護方法Ⅱ－1に引き続き、「自己学習－グループ学習－個別指導－自己評価」システムにより、看護基本技術を修得する 【生命がおびやかされた状態における医学的判断と、看護学的判断との共通性と相異性を理解し、診断・治療過程に伴う技術を修得する】 M8 検査と看護 ＜採血＞ 真空採血法 与薬と看護 ＜皮下注射・筋肉注射＞＜経口与薬法＞ ＜点滴・静脈内注射＞＜輸血法＞ 10－12回 【教材事例について、対象を看護の視点でとらえ、計画を立案し、実施し評価する】 M10 看護過程展開の技術 #教材事例について、全体像・対象特性を描き、生物体の必要条件を導き、看護の必要性を判断し計画を立案する #模擬患者にケアを実施し、対象の位置から評価する 最終回 【看護基本技術の修得レベルを自己評価する】 自己評価を行い、実習に向けて学習課題を定め、技の完成度を上げる *担当教員は全て、総合病院での臨床経験を積み、この実務経験をもとに本科目の学習を支援します。		
授業形態	学内実習		
到達目標	1. 診断・治療過程に伴う看護基本技術を修得する。 2. 健康障害の種類と健康の段階に応じた看護基本技術を修得する。 3. 看護過程展開の技術および基本技術を個別的な対象にあわせて応用する技術を修得する。 4. 看護基本技術の修得レベルを自己評価し、学習課題を明確にする。		
評価方法	技術チェック（70％）、自己評価レポート（20％）、授業中の取り組み情况及びグループワークへの参加(10％)		
教科書	『Module方式による看護方法実習書＜第3版＞』現代社 『ナースが視る病気』講談社 『ナースが視る人体』講談社		
参考書・参考文献			
履修条件	看護方法Ⅱ－1 既修得		
科目等履修	否		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： 看護方法Ⅲ

授業コード： 10840

英文科目名称： Nursing Care Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	1 単位	必修
担当教員			
◎坂井謙次、山岸仁美、毛利聖子 他			
専門科目	基礎看護学Ⅰ	5メスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	臨地実習Ⅰの看護体験を振り返り、看護する能力の到達度を自己評価し、学習課題を定める。
授業計画	1－15回 【1. 臨地実習Ⅰでの看護体験を再構成し評価する。】 1. 「看護過程とその評価」の記録用紙（M10－2）を使って5日間の看護実践を再構成し、看護の評価を行う。 【2. 対象特性にそった看護の原則について考える。】 2. 実習後半の具体的場面を思い起こし、基礎実習評価規準（M10－12）に照らして、具体的に記述し自己評価する。 【3. 既修技術の修得レベルを自己評価し、学習目標を定める。】 3. 担当教員とつぎあわせながら評価する。 4. 臨地実習Ⅰで学生が体験した看護実践で共有したい問題を取り上げ、対象特性と看護の原則について考える。 5. 課題やテーマ別にグループをつくり、教材や教員を活用しながら既修技術の修得や対象特性を把握する力を高める。 担当教員は全て、総合病院での臨床経験を積み、この実務経験をもとに本科目の学習を支援します。
授業形態	演習
到達目標	1. 自己の看護体験を振り返り、評価する能力を高める。 2. 対象特性別の看護の原則について理解を深める。 3. 既修技術の修得レベルを自己評価し、定着をはかる。
評価方法	レポート、面接、グループワークへの参加状況及び「基礎実習評価規準」による自己評価を総合して評価する。
教科書	『Module方式による看護方法実習書＜第3版＞』現代社 『ナースが視る病気』講談社 『ナースが視る人体』講談社 『〔改訂版〕看護学原論講義』現代社
参考書・参考文献	『何がなぜ看護の情報なのか』日本看護協会出版会
履修条件	臨地実習Ⅰ 既修得
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 死生看護学

授業コード： 11370

英文科目名称： Nursing Thanatology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4 年	1 単位	選択
担当教員			
◎勝野絵梨奈、他特別講師			
専門科目	体験・統合科目Ⅱ	8セメスター	15時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	死を身近に感じつつ生きる人と家族が、どのような支援を求めているのかを探り、“健康とは、持てる力を最大発揮している状態”という観点から、人生の終末期を支える援助の在り方と課題を理解する。そして、人間が生きていること死ぬこと、それを支え悼むことの意味について考察を深める。
授業計画	1回 【終末期・緩和ケアの概要を理解する】 ・死ぬということ（死の意味）について ・終末期・緩和ケアの定義と歴史、制度 ・終末期ケアの必要性和意味 (勝野) * 大学病院における看護師としての実務経験をもとに、終末期・緩和ケアの概要について講義する 2回 【終末期ケアの実際と課題を理解する】 ・終末期にある人の捉え方；死にゆく過程、全人的苦痛の理解 ・終末期における医療の実際 (勝野) * 大学病院における看護師としての実務経験をもとに、終末期ケアの実際と課題について講義する 3-6回 【継続看護の観点から、生活の場における終末期ケアの実際と課題を理解する】 ・緩和ケア・終末期における倫理的課題 ・安楽死、尊厳死、インフォームド・コンセント ・ケア情報の共有とチームアプローチについて ・「緩和ケア」病棟におけるケアの実際と課題について 講師；田中香織氏 * 緩和ケア認定看護師として、地域中核病院に勤務医療機関における終末期ケアに関する実務経験をもとに講義する ・生活の場における終末期ケアの実際と課題について① 講師；堤育子氏 * 訪問看護認定看護師および訪問看護ステーション管理者の立場から生活の場（自宅）における終末期ケアに関する実務経験をもとに講義する ・生活の場における終末期ケアの実際と課題について② 講師；市原美穂氏 * グループホーム施設代表者としての立場から生活の場（施設）における終末期ケアに関する実務経験をもとに講義する 7-8回 【終末期に関わる看護職者の看護観・死生観の発展に繋がる実践の意味について考える】 ・実際の看護実践事例における看護師の認識や言動についてディスカッションすることを通して、終末期を生きる対象をどのように支えていくか、その援助について理解を深める (勝野) * 大学病院における看護師としての実務経験をもとに、講義・演習を展開する
授業形態	講義
到達目標	1. 家族など身近な人を看取る体験や臨地実習での看護実践例をもとに、各自の問題意識から終末期（ターミナル）ケアに関する文献・記事に当たり、対象がどのような援助を求めているのか探り理解を深める。 2. 看護実践事例について、看護上の問題と解決方法を探り対象理解を深めつつ援助の意味を理解できる。 3. “その人にとって最も適切な時期に、最も適切な場所で、最も適切な人によってケアされるシステム”としての継続看護（ケア）の観点から、在宅終末期ケアの実際を知り、支援の在り方と課題を理解できる。 4. 終末期にある人とその家族を支えるためのチームアプローチ及び、チームにおける看護師の役割について理解できる。 5. 生きることを支え、死を看取る体験から、人間は何を学ぶのかについて考察できる。
評価方法	評価対象および評価配分は、①授業時・授業後の学修成果物（40%）、②最終課題レポート（60%）である。それぞれの評価規準および評価基準を以下に示す。 ①授業時・授業後の学修成果物（40%） ●評価規準

	1 課題内容に対して、必要な専門知識をふまえ過不足なく記述されているか 2 自分の考えを、根拠とともに明確に表現しているか 3 提出期日が守られているか ●評価基準 A 規準に十分に達している B 規準に達している C 規準に最低限達している ② 最終課題レポート（60%） （評価においては、以下の評価規準および評価基準で構成したルーブリックを活用する）※事前配布 ●評価規準 1 課題に対する内容が、過不足なく記述されているか 2 根拠に基づき、論理的な説明ができているか 3 文章の体裁は整っているか（誤字脱字がない、文体の統一、指定された文字数） 4 引用文献、参考文献を明示し、自身の意見と区別しているか ●評価基準 S 特に優秀な水準で規準に達している A 優秀な水準で規準に達している B 規準に達している C 十分ではないが規準に達している D 規準に達していない
教科書	
参考書・参考文献	系統看護学講座 別巻「緩和ケア」第3版 医学書院, 2020 講義資料（プリント配布）
履修条件	－
科目等履修	否
履修上の留意点	オムニバス方式の授業進行となりますので、各自、到達目標を意識して取り組んでください。 授業日程は、講師の都合で変更する可能性があります。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 看護学原論演習

授業コード： 10880

英文科目名称： Seminar on the Principles of Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	1 単位	選択
担当教員			
◎山岸仁美 毛利聖子 坂井謙次 他			
専門科目		7セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護学の成立の歴史をたどり、看護専門職の発展の方向性を探る。				
授業計画	1回	【ガイダンス 看護論を構築したF.N. の生活過程とその認識の特徴】 フロレンス・ナイチンゲールの経歴書を読み、どのように生きてきた人なのかをイメージする。 フロレンス・ナイチンゲール関係年表に沿って読みながら、ナイチンゲールの生きた時代背景・社会関係・環境などのイメージを膨らませる。			
	2回	【精読の基本について学び、学習計画を立てる。】 ・精読するとはどういうことか？ ・『看護覚え書』を原文と照合しながら読み、文献から著者の認識を読み込む。 ・学習計画を立て『看護覚え書き』の担当部分を決める。 ・各グループで担当する章を自身の具体的な体験と重ねて精読し、キーセンテンスを選択し、それらをつなげて、ナイチンゲールが何を伝えたかったのかを討議し、論旨としてまとめる			
	3-10回	【『看護覚え書』：発表・討議 自己の読みとりを提示し、 他者の読みとりとの比較検討を行い、内容を吟味する。】 ・『看護覚え書』の分担部分のプレゼンテーションを順に行い、グループワークを経て、看護専門職の職業規範を抽出する。 ・読み取った内容と自己の看護実践とを結び付けて、現代看護とのつながりを考える ・他のグループの発表を聞きながら討議			
	11-13回	【『病人の看護と健康を守る看護』：発表・討議 自己の読みとりを提示し、 他者の読みとりとの比較検討を行い、内容を吟味する。】 ・『病人の看護と健康を守る看護』の分担部分のプレゼンテーションを順に行い、グループワークを経て、看護専門職として求められていることを抽出する。 ・読み取った内容と自己の看護実践とを結び付けて、現代看護とのつながりを考える ・他のグループの発表を聞きながら討議			
	14 - 15回	【ナイチンゲール以降の看護論について知る。】 1) ・なぜナイチンゲール看護論なのか ・他の看護理論との比較 ・グループ討議及び発表 2) 看護理論の系譜をたどり、学体系の発展の方向をつかむ。 (※科目責任者および参加する教員全てが、臨床での看護実践があり、ナイチンゲール看護論の教育内容をもとに、教育・実践・研究活動を行っている。これらの経験をもとに、ナイチンゲール看護論をより深め、発展させていくことができるように、これまでの知見を話しながら、教授－学習過程を共に辿る)			
授業形態	演習				
到達目標	1. ナイチンゲールの生きた時代背景を知り、生活過程とその認識の特徴について理解を深め、ナイチンゲールにおける看護観の形成過程を考える。 2. ナイチンゲールの看護観について原書を輪読しながら、著者の認識を読み込み、ナイチンゲールにおける看護職者像を知る。 3. 現代看護とのつながりを考えながら討議し、看護専門職者としての進むべき道を探る。 4. 看護現象の論理を抽出する力を高める。 5. ナイチンゲール以降の看護論の系譜をたどる。				
評価方法	プレゼンテーションと討議への参加姿勢、毎回の授業レポート（90%）課題レポート（10%）をもとに、総合的に評価します。評価規準・基準は、最初の授業で配布。				
教科書	『看護覚え書（改訳 第7版）』現代社				
参考書・参考文献	『原文・看護覚え書』現代社 『ナイチンゲール著作集 全3巻』現代社 『原文・看護小論集』現代社 『看護理論家とその業績』医学書院				
履修条件	—				
科目等履修	否				
履修上の留意点	必ず『看護覚え書（改訳 第7版）』を持参してください。				
備考・メッセージ					

講義科目名称： 精神看護方法

授業コード： 10900

英文科目名称： Nursing Care (Mental Health/Psychiatry)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	1 単位	必修
担当教員			
◎河野義貴 川村道子 葛島慎吾			
専門科目	精神看護学	5セメスター	45時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	精神的ケアを要する人々とその家族の対象理解を深め、回復過程への援助と、個々の状態にあった社会生活を可能にするような支援活動のための知識・技術を修得する。
授業計画	1回 【導入】 1回目：精神看護学の位置づけ 精神看護方法で何を学ぶか *到達目標の確認（川村） ころを病んだ人を看護するとはどういうことか 2-5回 【事例の展開】 2回目：統合失調症（他者のとのかかわりを閉ざしている患者）への看護（川村） 3回目：アディクション（アルコール依存に陥った患者）への看護（河野） 4回目：気分障害（自殺念慮・自殺企図のある患者）への看護（葛島） 5回目：不安障害（日常生活の幅が極端に縮小した患者）への看護（川村） 6回 【精神科における薬物療法と看護】 6回目：薬物療法での有害事象による生命の危機に陥らないための看護の視点と援助技術（葛島） 7回 【地域での生活することの支援】 7回目：精神の病を抱える人々が地域で生活することを支える看護を考える（河野） ・精神障がい者の地域生活を支える支援と看護の実際 ・施設内から地域生活への移行を推進する社会システムと看護者の役割 ・ACT、訪問看護、デイケア、就労支援事業所、地域生活支援センターなどソーシャルサポートにおける看護、 8回 【精神の病を持つ人々の日常生活力アセスメント】 8回目：日常生活力アセスメントモデルを用いて、アセスメントするための視点をもとに日常生活力を捉える。その上で、看護計画における具体的ケアをイメージする。（川村） 9-11回 【精神看護に必要な技術】 9回目：精神看護を行うことの前提としての自己理解、他者理解、看護場面を客観視するためのプロセスレコードの活用方法（川村） 10回目：目には見えない人間の認識を近似的に描くコミュニケーション技術 ・身体と認識のつながりを意識しながら、五感覚器官に働きかけて精神の安定を図る技術・自律訓練法、ソバ、音楽、温電法、マッサージ等（演習） 11回目：認識の乱れにより生活する力が低下している状況にある患者への関わり（その時々認識のありようを察しながら日常生活が整うよう働きかける技術）（演習） 12回 まとめ テストの解説/到達度の確認 *1回2コマ（180分）の授業を11回、試験後解説とまとめの授業（45分）を行います。 *担当教員は全て医療機関（病院）での勤務経験を持ち、そこでの実務経験をもとに担当項目について話をします。
授業形態	学内実習
到達目標	1. 精神看護の特殊性を理解する。 2. 精神を病む人への具体的な援助の方法と技術を習得する。 3. 精神医療福祉における様々な専門職の役割と連携を理解する。 4. ソーシャルサポートの現状を知り、看護の課題を明らかにする 5. 自己をみつめ客観視する能力を高める。
評価方法	筆記試験（80％） 小テスト（20％） ■筆記試験では、精神看護を行う際に持つておくべき主要概念や必要な知識がどの程度獲得できたか、また個別事例に応用して看護計画を立案する力ができたかを判断します。 ■小テストでは、前回の講義内で教授した基本知識の定着の有無を判断します。小テストにより、予習復習の状況や授業への参加状況を判断します。
教科書	系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①, ② 医学書院
参考書・参考文献	M. Aセシュエー著「分裂病の少女の手記」みすず書房 シュビン著「わが魂にあうまで」星和書店 泉 基樹著「精神科医がうつ病になった」廣済堂文庫 沢光邦著「ガラスの壁－分裂病になった俺－」晩聲社

	佐野卓志, 三好典彦著「こころの病を生きる」中央法規 倉嶋厚著「やまない雨はない」文春文庫
履修条件	－
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 公衆衛生看護学概論

授業コード： 10750

英文科目名称： Nursing Care (Public Health)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	1	必修
担当教員			
◎中村千穂子			
専門科目	公衆衛生看護学	2 セメスター	15時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	人々の暮らしや健康は、家族・コミュニティ・地域から影響を受け、また、影響を与えているということを理解し、地域に暮らす人々への看護の機能や役割を知る。		
授業計画	1-2回 公衆衛生看護の概念 ・公衆衛生看護の概念（目的・対象・活動方法） ・社会背景、健康課題の変遷、保健医療福祉施策の動向 ・地域に暮らす人々・家族・コミュニティ・地域の理解 ・地域包括ケアと地域を対象とする看護の特徴 3回 プライマリヘルスケア・ヘルスプロモーション ・20世紀後半の保健医療活動の指針としてのプライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション ・プライマリヘルスケアの歴史的背景と保健活動の実際 ・ヘルスプロモーションの歴史的背景と保健活動の実際 ・SDGsについて 4回 地域ケアシステムと他職種連携 ・地域ケアシステムについて ・地域ケアシステムにおける看護職者の役割 ・多職種連携について 5回 公衆衛生看護活動の場と特性 ①行政 ・保健所・市町村における公衆衛生看護活動 ・生活・健康・地域特性と公衆衛生看護活動 6回 公衆衛生看護活動の場と特性 ②学校 ・公衆衛生看護と学校保健 ・学校保健の業務 ・養護教諭の活動 7回 公衆衛生看護活動の場と特性 ③産業 ・産業看護の目的 ・労働に関する法規と看護 8回（0.5） まとめ ※担当教員は保健所、市町村において勤務経験があり、この実務経験をもとに授業を行います。 ※筆記試験 60分間		
授業形態	講義		
到達目標	1. 公衆衛生看護の概念について理解できる。 2. プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの理念について理解できる。 3. 個人を取り巻く保健医療福祉資源と地域包括ケアにおける多職種連携・協働について理解できる。 4. 公衆衛生看護活動の行われる場と特性について理解できる。 5. 生活と地域特性の関連について理解できる。		
評価方法	試験（80％） レポート（20％） 評価規準・基準は第1回講義で配付します。		
教科書	荒賀直子，後閑容子，鳩野洋子，神庭純子編集：「公衆衛生看護学.jp」インターメディカル		
参考書・参考文献			
履修条件			
科目等履修	可		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： 公衆衛生看護学Ⅳ

授業コード： 10980

英文科目名称： Public Health Nursing Ⅳ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	2	保健師課程
担当教員			
◎高本佳代子、松本憲子、高橋秀治			
添付ファイル			

授業の目的・概要	あらゆる発達段階、健康レベルにある個人-家族-集団-組織に対し、その健康状態を評価できる能力を持ち、人々が主体的に地域の健康ネットワークを活用し健康問題を解決できるよう、適切な方法を選択して、看護できる基礎的な能力を修得する。
授業計画	1-4回 【母子保健活動】 ・母子保健の動向と地域における母子の健康課題 ・乳幼児各期の発育・発達および生活の特徴と保健指導 ・母性各期の生活と保健指導 ・虐待・DVの予防と実際 （松本・特別講師） 5-8回 【成人保健活動】 ・成人保健の動向と地域で生活する成人の健康課題 ・成人期の生活と保健指導 ・生活習慣病予防の保健指導 （高橋） 9-10回 【感染症保健活動】 ・感染症保健活動の動向 ・感染症予防施策と感染症発生等の保健指導 ・結核対策、新型コロナウイルス感染症対策の実際 （高本） 11-12回 【精神保健活動】 ・精神保健活動の動向 ・精神保健対策と活動の実際 （特別講師） 13回 【歯科保健活動】 ・歯科保健の動向 ・生涯にわたる各段階の歯科保健 （高本） 14-15回 【災害保健活動】 ・健康危機管理 ・災害時の保健活動 ・熊本地震における保健福祉活動の実際 （高本） 16回 試験
授業形態	講義
到達目標	1 母子・成人・高齢者等の保健活動の特徴を理解する。 2 事例を通し地域の情報収集・分析・診断および看護活動の計画作成・実践・評価のプロセスを考えることができる。 3 ライフステージ別・健康課題別の保健指導の基本的な視点を理解する。
評価方法	講義への取組（20％） 試験（80％）
教科書	保健学講座1「公衆衛生看護学概論」メヂカルフレンド社 保健学講座3「公衆衛生看護活動展開論」メヂカルフレンド社 「写真でみる乳幼児健診の神経学的チェック法」南山堂 厚生指針 増刊「国民の福祉と介護の動向」厚生労働統計協会
参考書・参考文献	「国民衛生の動向」厚生労働統計協会 保健師業務要覧
履修条件	6セメスターまでの必修科目の全ての単位取得
科目等履修	否
履修上の留意点	3セメスター公衆衛生看護学Ⅱでの基礎学習と臨地実習Ⅱでの学びを振り返りながら、講義に臨んで下さい。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 公衆衛生看護学Ⅱ

授業コード： 11023

英文科目名称： Public Health Nursing Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	必修
担当教員			
◎高本佳代子、高橋秀治、河野朋美			
専門分野	公衆衛生看護学	3セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	さまざまなライフステージ、健康段階において、個人-家族-集団-組織を含む地域を基盤に人々の健康を守る公衆衛生看護活動の目的・意義を理解し、看護を展開する上で基本となる考え方や方法について学ぶ。また、ヘルスケアチームの中で看護職の果たす役割、機能について学ぶ。
授業計画	1-2回 【公衆衛生看護の理念と目的】 【高齢者保健・介護予防】 ・オリエンテーション 地域における保健活動の目的と意義 (高本) 【高齢者保健・介護予防】 ・目的、意義、特徴 動向 ・高齢者の健康にかかわる機関と保健師の役割 ・要介護者や認知症高齢者への保健活動 (高本) 3-4回 【産業保健】 ・目的、意義、特徴 動向 ・労働衛生関連法令の概要 職業性疾病・作業関連疾患の概要 産業看護活動 (外部講師) 5-6回 【学校保健】 ・目的、意義、特徴 動向 ・学校保健安全のシステムと法令の概要 健康課題の概要 養護教諭の活動 (外部講師) 7-8回 【成人保健】 ・目的、意義、特徴 動向 ・ヘルスプロモーション 成人保健対策 生活習慣病対策 特定健診・特定保健指導 歯科保健対策 自殺対策 がん対策 職域連携 保健活動 (高橋) 9-10回 【母子保健】 ・母子保健の目的、意義、特徴 動向 母子保健の変遷 地域母子保健対策 子どもの健康にかかわる機関と保健師の役割 乳幼児健診 家庭訪問 女性のライフサイクル 女性の健康にかかわる機関と保健師の役割 保健活動 (河野朋) 11回 【感染症保健活動】 ・目的、意義、特徴 流行 要因と予防 サーベイランス 結核 結核以外の感染症 危機管理の実際 保健活動 (高本) 12回 【障がい者保健福祉活動】 ・目的、意義、特徴 動向 ・障がい者の健康にかかわる機関と保健師の役割 地域精神保健活動 (河野朋) 13回 【難病保健活動】 ・目的、意義、特徴 動向 ・難病対策における保健師の役割と保健活動 (高本) 14-15回 【災害と保健活動】 ・目的、意義、特徴 ・健康危機管理 災害時における保健師活動 (高本) 試験 1回～8回までの講義終了後に中間テストを、9回～15回終了後に2回目のテストを実施します。 担当教員は全員、保健所や市町村での保健師としての実務経験があります。実務経験をもとに公衆衛生看護活動について講義を行います。 「学校保健」では県内小中学校に養護教諭として勤務経験のある特別講師を招聘し講義します。 「産業保健」では産業保健師として企業に勤務の保健師を特別講師として招聘し講義します。
授業形態	講義
到達目標	1. 個人-家族-集団-組織-地域全体に対して行政が行う公衆衛生看護活動の理念、特徴を理解できる。 2. 各ライフステージにある対象の健康問題に対して展開される疾病の予防や健康の保持・増進を目指す看護活動の実際と活動方法を理解できる。 3. 児童、生徒及び働く人々の健康を守る看護活動の実際と活動方法を理解できる。 4. ヘルスケアチームの中で看護職の果たす役割と機能を理解できる。
評価方法	講義への取り組み20% 試験80% (第1回～8回 40%、第9回～15回 40%) 評価規準・基準は第1回目の授業で配付します。
教科書	荒賀直子、後閑容子編：公衆衛生看護jp, インターメディカル
参考書・参考文献	・各講義でプリントを配付する。 ・講義中に紹介する。
履修条件	-
科目等履修	否

履修上の留意点	ライフステージや健康問題別に公衆衛生看護活動を学習し、内容が多岐にわたります。毎回の復習を確実に行うとともに、関連する普遍科目（「国家と法」「社会福祉と経済」）、専門基礎科目（「健康行政・法規」「保健学Ⅰ」）、及び専門科目との繋がりを意識して受講してください。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 在宅看護方法Ⅰ

授業コード： 11031

英文科目名称： Home Care Nursing Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	必修
担当教員			
◎金子美千代、川原瑞代、中角吉伸 他			
専門分野	在宅看護学	3セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	在宅療養者や生活のしづらさ抱える方とその家族への理解を深め、紙上事例や視聴覚教材により在宅看護の展開方法について理解する。また、在宅看護で必要とされる基本的な日常生活援助技術を修得する。		
授業計画	1回・2回 【導入】【在宅における看護過程と倫理】【在宅看護におけるコミュニケーション】【在宅における日常生活援助技術1】 内容：〈在宅における看護過程と倫理〉在宅看護過程の特徴、在宅看護における倫理 生活の場を訪問することの意味 〈在宅看護におけるコミュニケーション〉在宅におけるコミュニケーション・面接技術 〈在宅における日常生活援助技術1〉在宅における感染予防 方法：講義、DVD視聴 3～5回 【在宅看護過程の展開1・2】 内容：〈在宅看護過程の展開1〉在宅看護過程の構成要素、情報収集・観察・アセスメントの特徴、 事例を用いた看護過程展開 〈在宅看護過程の展開2〉在宅における看護目標、在宅療養を継続する計画、在宅看護記録と評価 事例を用いた看護過程展開 方法：演習 6～9回 【在宅における日常生活援助技術2】 内容：〈在宅における日常生活援助技術2〉 1) 食と排泄のアセスメントと援助 2) 清潔のアセスメントと援助 3) 睡眠のアセスメントと援助 4) 日常生活の中での医療ケア（薬物療法、在宅経管栄養法） 方法：講義、演習、DVD視聴（50人のクラスに分けて実施） 10・11回 【在宅における日常生活援助技術3】 内容：〈在宅における日常生活援助技術3〉 5) 呼吸のアセスメントと援助 6) 訪問看護の活動の実際 方法：講義、実技、演習 12～5回 【在宅における日常生活援助技術4】 内容：〈在宅における日常生活援助技術4〉 7) 生活リハビリテーション 8) 活動のアセスメントと援助（実技・演習） ・関節可動域訓練 ・移動のアセスメントと援助 ・移動補助具（車いす他）の構造と機能 方法：講義、実技、演習（50人のクラスに分けて実施） 16回 試験 *担当教員は、看護師、訪問看護師、保健師としての実務経験や訪問看護師との協働事業、関連する研究や教育等の経験・実績から講義を行います。 *10・11回は、呼吸療法認定士の資格を持ち訪問看護の実務経験のある訪問看護師の指導のもと、実技・演習を行います。 *12-15回は、訪問リハビリテーションやデイケア施設等でのリハビリテーションの実務経験を持つ理学療法士の指導のもと、実技・演習を行います。		
授業形態	学内実習		
到達目標	1. 在宅看護過程の特徴と倫理について理解できる。 2. 在宅看護過程の展開方法について理解できる。 3. 在宅看護で必要とされる基本的な日常生活援助技術について修得できる。		
評価方法	筆記試験50点：記述及び選択式の問題により、到達目標に対する到達度を評価します。 レポート50点：課題に対するレポート内容の評価します。 *評価規準・基準は第1回の講義で配付します。		
教科書	・ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 第2版、メディカ出版 ・講義時にプリントを配付します。		

参考書・参考文献	・講義時に示します。
履修条件	-
科目等履修	否
履修上の留意点	外来講師の講義、演習を含みます。補講等できませんので注意して下さい。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 在宅看護方法Ⅱ

授業コード： 11032

英文科目名称： Home Care Nursing Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	必修
担当教員			
◎中角吉伸、川原瑞代、金子美千代 他			
専門分野	在宅看護学	5セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	在宅看護の対象となる事例（在宅での生活を希望する脳卒中後遺症のある療養者、医療依存度の高いＡＬＳ療養者、最期まで自宅で過ごすことを希望するターミナル期のがん患者、重度心身障害を持ちながら地域で生活する小児への援助等）を用いて在宅看護過程の展開を学ぶ。また、在宅看護に必要な知識・技術について修得する。		
授業計画	1-2回 【在宅療養を支える看護（医療ケア）】 内容：オリエンテーション 在宅における医療ケアの意義と目的 方法：講義 3-4回 【在宅での生活を希望する脳卒中後遺症のある療養者への援助】 内容：脳卒中後遺症のある療養者の特徴と看護過程 紙上事例を用いた在宅における看護過程の展開 退院支援・退院調整 方法：講義、演習 5-6回 【日常生活力の維持や向上を図るための用具等】 内容：心身の機能が低下し日常生活を営むのに支障のある高齢者や心身障害を持つ在宅療養者や生活のしづらさをもつ対象に対する、日常生活力の維持や向上を図るための用具や機能訓練のための用具並びに補装具 方法：演習、（福祉機器展示、体験） 7-8回 【ターミナル期のがん患者への援助】 内容：がんターミナル期にある療養者の特徴と看護過程 在宅における疼痛コントロール ターミナルケア、グリーフケア エンド・オブ・ライフケア 方法：講義、演習 9-10回 【医療的ケアを必要とする地域で生活する小児】 内容：小児の在宅療養の特徴と看護過程 ・小児の在宅療養支援の実際 方法：講義 11-12回 【地域包括ケアシステムと在宅医療】 内容：地域医療の現状と課題解決への取組 家庭医療・総合診療 地域包括ケアシステムと在宅医療 多職種連携の基本的な考え方とスキル 方法：講義、演習 13-14回 【医療依存度の高いＡＬＳ療養者への援助】 内容：ＡＬＳ療養者の特徴と看護過程 訪問看護の実際 在宅における呼吸の援助（呼吸のアセスメント、リスクマネジメント 在宅酸素療法/在宅人工呼吸療法/非侵襲的陽圧換気療法、療養者・家族への支援 等） 方法：講義、演習 15回 まとめ 内容：生活のしづらさを抱える方や療養を必要とする方・家族への援助について 方法：講義 16回 試験 ＊担当教員は、看護師、訪問看護師、保健師としての実務経験や訪問看護師との協働事業、関連する研究や教育等の経験・実績から講義を行います。 ＊5・6回は、作業療法士、介護支援専門員、福祉用具プランナー等の資格を持ち、療養者や看護、介護職に対する機器の紹介や教育を行っている実務経験者の指導のもと、実技・演習を行います。 ＊11・12回は、地域医療・総合診療の実務経験者のある医師が講義・演習を行います。		
授業形態	学内実習		
到達目標	1. 生活のしづらさを抱える方や療養を必要とする方・家族への基本的な援助方法について理解できる。 2. 在宅看護の現状や課題から、地域包括ケアのあり方や看護の役割を考察できる。		
評価方法	試験（50%）：記述及び選択式の問題により、到達目標に対する到達度を評価します。 課題（50%）：各回の内容に関する課題を課します。この課題への取組により到達度を評価します。 ＊評価規準・基準は第1回の講義で配付します。		
教科書	・ナーシング・グラフィカ地域・在宅看護論（2）在宅療養を支える技術 第1版, メディカ出版【2年次購入済】 ・講義時にプリントを配付します。		

参考書・参考文献	・講義時に示します。
履修条件	在宅看護方法Ⅰ単位取得済み
科目等履修	否
履修上の留意点	外来の講師の講義、演習を含みます。補講等の対応はできません。遅刻、欠席しないよう注意してください
備考・メッセージ	

講義科目名称： 母性看護方法

授業コード： 11050

英文科目名称： Nursing Care (Maternity)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	必修
担当教員			
◎ 壹岐さより 大野理恵 長鶴美佐子 他			
専門科目	母性看護学	5セメスター	45時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	妊娠・分娩・産褥・育児の一連の過程において、対象とその家族がより健康的な生活を営むために必要な看護の方法を学ぶ。
授業計画	1-2回 【妊娠期の看護】 講義] 妊娠期の看護（概論） [講義] 妊娠初期・中期・末期の看護 3回 【演習：妊婦と胎児の健康を守る看護技術】 ・妊婦体験・妊婦健診等（レオポルド触診法を含む） 4-5回 【分娩期の看護】 [講義] 分娩期の看護（概論） [講義] 分娩1～4期の看護、帝王切開分娩時の看護 6回 【演習：産婦と胎児の健康を守る看護技術】 ・産痛緩和・分娩体位への支援方法等 7-8回 【新生児期の看護】 [講義] 新生児期の看護1（出生後24時間を中心に） [講義] 新生児期の看護2（早期新生児期を中心に） 9-10回 【産褥期の看護】 [講義] 産褥期の看護1（概論、産褥早期の看護） [講義] 産褥期の看護2（家庭および社会生活への適応） 11-12回 【演習：褥婦と新生児の健康を守る看護技術】 ・授乳方法（ポジショニング）・産褥復古の観察 ・新生児バイタル観察・沐浴 13-15回 【看護過程の展開】 妊産褥婦の事例を使って、対象と児の対象特性のとらえ方について学びを深める。 筆記試験 *担当教員は、助産師および看護師として病院等での勤務経験があり、この実務体験をもとに母性看護方法について話します。
授業形態	講義・学内実習
到達目標	1. 妊娠・分娩・産褥期に生じる様々な変化に対して、健康かつ快適に過ごすことができるための援助方法について理解する。 2. 児が順調に母胎外生活に適応し自立へと向かうために必要な新生児および養育者への援助方法について理解する。 3. 妊娠・分娩・産褥および新生児期にある対象の健康状態を的確に捉えて、顕在的・潜在的な健康問題を明らかにするとともに、それらを予防・回復するための方法について理解する。 4. 家族の中に子どもが生まれることの意味を、親性（母性や父性を含む）の形成、夫婦関係の変化、家族の役割や気持ちの変化などから捉えて、それらを支えるための援助方法について理解する。
評価方法	試験（70％） レポート（20％） 授業の参加度（10％） 評価規準・基準は最初の授業で配付します。
教科書	講義時に資料を配付する。 本年度は、サイオ出版：『新訂版 周産期ケアマニュアル』をテキストとする。
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	学生にとってなじみがない妊娠・出産・産褥そして新生児期がよく理解できるよう、毎回の授業を工夫しています。授業への出席が理解への早道になりますので、欠席せずに参加してください。

講義科目名称： 看護管理

授業コード： 11380

英文科目名称： Nursing Administration

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4 年	1 単位	必修
担当教員			
◎武田千穂、学外講師			
専門科目	体験・統合科目	8セメスター	15時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	組織における看護の機能と看護活動の在り方、看護の質の管理および改善への取組を学ぶ。さらに、医療や看護におけるリスクマネジメントや保健・医療・福祉チームにおける連携と協働を学び、そのために必要な行動への理解を深める。また、看護専門職として自己研鑽していくことの必要性を理解し、自己のキャリア開発を生涯にわたり継続する意識を高め、看護観を構築する。		
授業計画	1回 【導入】【授業計画をもとに授業の全体像および展開について概略を把握する】【マネジメント(管理)の概念としくみが理解できる】 1. マネジメント(管理)とは 1)概念と目的 2)マネジメントのプロセスとPDCAサイクル 3)組織におけるマネジメントとは 2-4回 【看護マネジメントの考え方の歴史的変遷を知り、看護職の担うマネジメントについて理解できる】 1. 看護におけるマネジメントとは 1)看護管理の原理とは(ナイチンゲールの小管理より) 2)看護におけるマネジメントの変遷 2. 看護サービスと質保証 1)看護サービスとは 2)医療と看護の質評価 3. 看護ケアのマネジメント 1)看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2)患者の権利 3)安全管理 4)チーム医療 5)看護業務の実践 PDCAサイクル目標管理とエンパワーメント 4. 看護サービスのマネジメント 1)看護サービスのマネジメント ・対象と範囲 2)看護の組織化 3)看護サービス提供の仕組みづくり・プライマリケアシステム等 4)人材のマネジメント ・人材育成とは・キャリアディベロプメント 5-6回 【組織におけるリスクマネジメントを理解する】 1. 組織におけるリスクマネジメント 1)リスクマネジメントとは 2)組織における医療安全管理 3)医療事故情報の活用と安全文化の醸成 4)災害対策 5)感染対策 6回 【看護活動におけるリーダーシップ・メンバーシップについて理解できる】 1. リーダーシップとマネジメント 1)リーダーシップの本質 2)多様なリーダーシップマネジメント論と現場への適用 3)リーダーシップとメンバーシップ 7-8回 【看護専門職として自己研鑽していくことの必要性を理解し、継続して専門性を発展させていく意義と重要性を理解できる】【まとめ】 1. 看護専門職のキャリア開発 1)キャリア開発とは 2)クリニカルラダーとシステムの運用 3)新人看護職員研修ガイドラインに基づく現任教育 4)ジェネラリストとスペシャリスト 5)継続教育と卒後教育 ・認定看護師制度と専門看護師制度 ・看護師の特定行為研修に係る研修 担当教員は、医療機関の看護管理者としての実務経験を有する。 教材や授業展開方法の工夫を図って講義を行います。		
授業形態	講義		
到達目標	1. 組織における看護の機能と看護活動の在り方、看護の質の管理及び改善への取組を理解できる。 2. 看護活動におけるリーダーシップ・メンバーシップについて理解できる。 3. 医療や看護におけるリスクマネジメントの重要性とそのために必要な行動について理解できる。 4. 保健・医療・福祉チームにおける連携と協働の意義と重要性を理解できる。 5. 看護専門職として自己研鑽していくことの必要性を理解し、継続して専門性を発展させていく意義と重要性を理解できる		

評価方法	1. 評価対象と評価の配分 ①授業への参加状況（40％）、②課題レポート（60％） 2. 課題レポートの評価規準および評価基準 評価規準 1 看護管理の概念としくみを理解できているか 2 看護の質の管理及び改善への取組が理解できているか 3 看護専門職として自己研鑽していくことの必要性や、キャリア開発を継続することへの意識を高めることができたか 評価基準 S 特に優秀な水準で規準に達している A 優秀な水準で規準に達している B 規準に達している C 十分ではないが規準に達している D 規準に達していない
教科書	講義資料配布
参考書・参考文献	系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践① 医学書院
履修条件	－
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 成人看護方法Ⅱ

授業コード： 11190

英文科目名称： Nursing Care (Adults)Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	2 単位	必修
担当教員			
◎矢野朋実, 久野暢子, 他			
専門科目	成人看護学	5セメスター	60時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	本科目は、ディプロマポリシーの①、③、④を修得するための一科目です。 成人看護学は専門分野の中に位置づけられ、家庭生活と社会活動との二重構造を生きる上での心身の予備能力の限界を超えやすい時期をうまく適応しつつ生きるという観点から、家族とのつながりにおける成人期の対象特性と看護について学びます。 本科目は、その中でも特に、急性期の健康問題を抱える成人が、医療や社会資源を活用しながら健康を回復し、その人や家族が自らのセルフケア機能を発揮しながら社会生活を営むことができるための援助について、必要な知識と援助方法を学ぶ科目です。		
授業計画	4/13	手術を受ける成人とその家族への看護 ・科目オリエンテーション（矢野） <講義>（久野） ・周手術期看護とは ・よりよい状態で手術に臨むための術前看護 （テキストp7-46、71-96） 事前学習：別途指示する。 事後学習：授業内に示す。	
	4/20	<講義>（久野） ・手術によって生じるからだの変化 麻酔侵襲とからだの反応、麻酔の種類と看護 手術侵襲によるからだの変化と回復過程 ・手術中の看護 （テキストp97-138） 事前学習：別途指示する。 事後学習：授業内に示す。	
	4/27	*3～5限の3コマです。 <講義/演習>（久野、矢野、上富、川西、原村） ・術前看護技術 ①呼吸状態、腸蠕動音の観察 ②腹式呼吸、最大吸気持続法、咳嗽法 ③術前離床訓練、弾性ストッキングの着用援助 事前学習：②テキストp83-88、③テキストp89、93-94を読んでもくる。他、別途指示する。 事後学習：授業内に示す。	
	5/11	<講義>（矢野） ・手術からの回復過程と看護（術後急性期の看護） 術後の看護目標 術後合併症と看護 事前学習：テキストp139-201を読んでもくる。 事後学習：テキストp200演習課題に取り組む。 次回授業に向けての課題：本日配布する手術当日の経過記録表を読み取り、わからないことを書きだす。	
	5/18	<講義>（矢野） ・手術からの回復過程と看護（術後回復期の看護） 生命が安定し日常生活力を拡大していく段階の看護 退院に向けて新たな生活調整能力を獲得していく段階の看護	

5/25	事前学習：テキストp203-221を読んてくる。 事後学習：テキストp221演習課題に取り組む。 <演習>（矢野、久野、上富、川西、原村） ・手術を受ける対象の看護過程① 情報収集とアセスメント 事後課題：A氏の術前から手術当日までの情報をもとに、日常生活力アセスメントシートを記入する。 ＊3～5限の3コマです。
6/1	<演習>（矢野、久野、上富、川西、原村） ・手術を受ける対象の看護過程② アセスメントの統合 看護上の問題の抽出 事前学習：成人看護方法Ⅰで学習した「関連図」の書き方を復習してくる。 事後学習：A氏の看護計画を立案する。 <演習>（矢野、久野、上富、川西、原村） ・手術を受ける対象の看護過程③ 看護計画の立案（看護上の問題に対する看護計画、術後1日目の看護計画） 事前学習：別途指示する。 事後学習：授業内に示す。
6/8	<演習>（矢野、久野、上富、川西、原村） ・手術を受ける対象の看護過程④ 看護計画の実施（術後1日目9時の観察）と評価 事前学習：バイタルサインを確実に観察できるようにしておく。他、別途指示する。 事後学習：授業内に示す。
6/15	<演習>（矢野、久野、上富、川西、原村） ・手術を受ける対象の看護過程⑤ 看護計画の実施（術後1日目の清拭）と評価 事前学習：全身清拭の方法の復習。他、別途指示する。 事後学習：なし。
6/22	【中間筆記試験】 3限：【中間筆記試験】（60分） 周手術期看護 <演習>（矢野、久野、上富、川西、原村） 手術を受ける対象の看護過程⑥ 看護過程の記録の整理
6/29	4限：<演習>（矢野、久野、上富、川西、原村） 手術を受ける対象の看護過程 看護過程記録の整理と提出 生命の危機状態にある成人とその家族への看護 <講義>（矢野） ・生命の危機状態にある成人と家族の特徴、看護の特徴 ・呼吸管理、酸素療法、人工呼吸器の基本 ・一次救命処置 事前学習：なし 事後学習：授業内に示す。
7/6	<講義／演習>（久野、上富、川西、原村、矢野） ・術後／救急看護技術① 1) 膀胱カテーテル留置と管理 2) 気管吸引 事前学習：別途指示する。 事後学習：授業内に示す。
7/13	<講義／演習>（矢野、久野、上富、川西、原村） ・術後／救急看護技術② 4) 術後環境の整備（術後ベッドの作成）、ME機器の扱い 5) 一次救命処置（BLS） 6) 血管確保と点滴管理

	7/20 事前学習：5) 6/29の授業内容を復習しておく。 事後学習：授業内に示す。 <講義／演習> (矢野、久野、上富、川西、原村) ・術後／救急看護技術③ 7/13実施の4)～6) <講義> (非常勤講師；調整中) ・救急看護の実際 事前学習：6/29以降の授業内容を振り返り、講師に質問したいことを書きだしてくる。 事後学習：なし。 8/3 【期末試験】 3限 【期末筆記試験】 (30分) 生命の危機状態にある成人とその家族への看護 ※担当教員は全員、看護師として総合病院に勤務した経験があります。 これらの実務経験をもとに講義・演習を行います。 ※再テストは、8月下旬～9月上旬に1回限り行う予定です。 ※9月22日 (木) 10時～中間試験、期末試験の答案の返却および解説を行う予定です。
授業形態	学内実習
到達目標	1 急性期の健康問題を抱える成人とその家族の特徴について理解できる。 2 急性期の健康問題を抱える成人と家族に対する看護援助を行うために必要な専門知識を修得できる。 3 急性期の健康問題を抱える成人と家族に対する看護援助を行うための思考過程や判断力、表現力を修得できる。
評価方法	筆記試験 (70%)、演習記録・レポート・授業への参加状況 (30%) ※評価規準・基準は初回授業時に詳細を説明します。
教科書	明石恵子編：新体系看護学全書 経過別成人看護学② 周手術期看護 メジカルフレンド社
参考書・参考文献	授業内に随時紹介します。
履修条件	
科目等履修	否
履修上の留意点	既習の人間常態学、看護疾病論などの知識を活用して学修していきます。授業前に事前学修について通知しますので準備をして臨んでください。
備考・メッセージ	BCPレベルによって演習内容等が変更になる場合があります。

講義科目名称： 成人看護学概論 （2年次開講）

授業コード： 11175

英文科目名称： Nursing Care (Adults)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
◎久野暢子 矢野朋実			
専門分野	成人看護学	4セメスター	15時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	本科目はディプロマポリシー①、②、③、④を修得するための一科目である。 成人期にある人の特徴及び多様な健康問題について、家族などの小社会のありようと重ねて理解し、成人を対象とした看護に共通する基本概念を学ぶ。さらに、どのような健康の段階においても成人がより健康的な生活を送るための看護についてその役割と機能を学修する。		
授業計画	1-2回 【ライフサイクルにおける成人期の特徴と健康】 ・ 成人看護の対象である「成人」とは（発達課題、各期の健康問題を含む） ・ 成人を取り巻く社会環境と成人の生活（家族を含む） ・ 成人の健康の動向 など 3-4回 【成人を対象とした保険・医療・福祉対策】 ・ 健康増進に関する施策（生活習慣病対策、疾患対策、労働者の健康対策 など） 【成人への看護アプローチの基本】 ・ チームアプローチ、看護ケア提供システム、継続看護 ・ 看護実践における倫理（アドボカシー、意思決定支援） ・ 家族支援 ・ 健康のレベルと看護 【成人看護に関連する主要な概念（1）】 ・ ストレスとコーピング ・ 危機理論 ・ 自己効力 5-6回 【成人看護に関連する主要な概念（2）】 ・ エンパワメント ・ トランスセオレティカルモデル ・ 病みの軌跡 など 7-8回 【成人の健康とチームアプローチに関するグループ課題のプレゼンテーション】 ※ 筆記試験 60分間 ※担当教員は看護師として総合病院に勤務した経験があり、この実務経験をもとに講義・演習を行います。		
授業形態	講義		
到達目標	1 成人各期の特徴と健康上の課題を家族や社会との関係性において理解できる。 2 成人の生活に関連する健康障害と予防について理解できる。 3 成人に関わる保健の動向について理解できる。 4 成人への看護アプローチの基本と看護実践に関わる理論・モデルについて理解できる。		
評価方法	試験（90%）、プレゼンテーション・授業への参加状況（10%）。 ※評価規準・基準は授業中に適宜説明し、配付する。		
教科書	黒江ゆり子編：新体系看護学全書 成人看護学① 成人看護学概論・成人保健， メジカルフレンド社		
参考書・参考文献	随時紹介する。		
履修条件	-		
科目等履修	否		
履修上の留意点			
備考・メッセージ	授業は成人看護方法Ⅰに先行し、4セメの前半に2時限連続して行います。		

講義科目名称： 成人看護学概論 （1 年次開講）

授業コード： 11174

英文科目名称： Nursing Care (Adults)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	1	必修
担当教員			
◎久野暢子 矢野朋実			
添付ファイル			

授業の目的・概要	本科目はディプロマポリシーの①、②、③、④、⑤を修得するための一科目である。 成人期にある人の特徴及び多様な健康問題について、家族などの小社会のありようと重ねて理解し、成人を対象とした看護に共通する基本概念を学ぶ。さらに、どのような健康の段階においても成人がより健康的な生活を送るための看護についてその役割と機能を学修する。		
授業計画	1回 【ライフサイクルにおける成人期の特徴と健康-1】 ・ 本科目のガイダンス（講義） ・ ライフサイクルから見た成人 ・ 成人各期の健康問題 2回 【ライフサイクルにおける成人期の特徴と健康-2】（講義） ・ 成人を取り巻く社会環境と成人の生活（家族を含む） ・ 成人の健康の動向 3回 【成人を対象とした保険・医療・福祉対策】 【成人への看護アプローチの基本-1】（講義） ・ 健康増進に関する施策（生活習慣病対策、疾患対策、労働者の健康対策 など） ・ チームアプローチ、看護ケア提供システム、継続看護 ・ 看護実践における倫理（アドボカシー、意思決定支援） 4回 【成人への看護アプローチの基本-2】 【成人看護に関連する主要な概念-1】（講義） ・ 家族支援 ・ 健康のレベルと看護 【成人看護に関連する主要な概念】 ・ ストレスとコーピング 5回 【成人看護に関連する主要な概念-2】（講義） ・ 危機理論 ・ 自己効力 ・ エンパワメント ・ トランスセオレティカルモデル ・ 病みの軌跡 6回 【成人の健康とチームアプローチに関するグループ課題】（グループ演習） ・ 成人の健康とチームアプローチに関するグループ課題のグループワーク 7-8回 【成人の健康とチームアプローチに関するグループ課題のプレゼンテーション】（グループ演習：プレゼンテーション） ・ グループワークの成果発表 ※ 筆記試験 60分間 ※担当教員は看護師として総合病院に勤務した経験があり、この実務経験をもとに講義・演習を行います。		
授業形態	講義		
到達目標	1 成人各期の特徴と健康上の課題を家族や社会との関係性において理解できる。 2 成人の生活に関連する健康障害と予防について理解できる。 3 成人に関わる保健の動向について理解できる。 4 成人への看護アプローチの基本と看護実践に関わる理論・モデルについて理解できる。		
評価方法	試験（90%）、プレゼンテーション・授業への参加状況（10%）。 ※評価規準・基準は授業中に適宜説明し、配付する。		
教科書	黒江ゆり子編：新体系看護学全書 成人看護学① 成人看護学概論・成人保健， メジカルフレンド社		
参考書・参考文献	随時紹介する。		

履修条件	-
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 成人看護方法Ⅰ

授業コード： 11180

英文科目名称： Nursing Care (Adults) Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
◎久野暢子 矢野朋実			
専門分野	成人看護学	4セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	本科目はディプロマポリシー①、③、④を修得するための一科目である。 慢性的な経過を辿る健康問題を抱える成人が、医療や社会資源を活用しながら健康を回復し、その人や家族が自らのセルフケア機能を発揮しながら社会生活を営むことができるための援助について、必要な知識と援助方法を修得する。		
授業計画	1-8回 【無自覚的に進行する疾患を持つ成人とその家族への看護（2型糖尿病患者）】 ・ 2型糖尿病患者の特性と一般的看護 ・ 2型糖尿病患者事例における看護展開 ・ 2型糖尿病患者への看護で用いる看護技術 など 9-15回 【慢性悪性疾患を持つ成人とその家族への看護（白血病患者）】 ・ がん患者の特性と抗がん薬による化学療法時の看護（中心静脈カテーテル留置時の看護を含む） ・ 放射線治療と看護 ・ 急性白血病の特性と一般的看護 ・ 急性白血病事例における看護展開 ・ 造血幹細胞移植時の看護 ※筆記試験（60分間） ※担当教員は看護師として総合病院に勤務した経験があり、この実務経験をもとに講義・演習を行います。		
授業形態	学内実習		
到達目標	1 慢性的な経過を辿る健康障害をもつ成人とその家族の特徴について理解できる。 2 慢性的な経過を辿る健康障害をもつ成人とその家族に対する看護援助を行うために必要な専門知識を修得できる。 3 慢性的な経過を辿る健康障害をもつ成人とその家族への看護過程を展開する基礎的能力を養うことができる。		
評価方法	筆記試験（90%）、レポート・授業への参加状況（10%）		
教科書	黒江ゆり子：新体系看護学全書 経過別成人看護学③ 慢性期看護 メジカルフレンド社 日本糖尿病協会：糖尿病食事療法のための食品交換表 文光堂		
参考書・参考文献	随時紹介する		
履修条件	-		
科目等履修	否		
履修上の留意点	既習の人間常態学、看護疾病論などの知識を活用して学修していきます。授業前に事前学修について通知しますので準備をして臨んでください。		
備考・メッセージ	※授業は、成人看護学概論終了後、2時限連続して行います。		

講義科目名称： 臨地実習II（精神）

授業コード： 11260

英文科目名称： Nursing Practicum(Mental Health/Psychiatry)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3 年	3 単位	必修
担当教員			
◎葛島慎吾 河野義貴 川村道子			
専門科目	体験・統合科目	6セメスター	135時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	精神の健康に障害のある人が、より健康的な状態へと回復していくために必要な看護実践能力を修得する。		
授業計画	方 法：	1. 1グループ6～7名で病棟実習を行う。 2. 受け持ち患者を中心におきながら入院患者と関わる。 3. デイケアの利用者との交流を通して、入院治療を行っている受け持ち患者への看護の方向性を検討する。 4. 毎日関わりを記録し、振り返る。 5. グループでカンファレンスを持ち、体験の共有と共に、翌日の看護の方向性を明確にする。 6. 看護実践の内容や実習前と後の自分の変化を自己評価する。	
	実習場所	井上病院、高宮病院、谷口病院	
	実習期間	3週間	
	実習内容	1. 入院している対象を受け持ち、実践方法論に沿って看護過程を展開する。 2. 日常生活の援助とその関わりの過程をプロセスレコードに再構成し客観視する。 3. グループカンファレンスを通して他の学生の関わりの場面や看護の実際を知り、自分との共通性や相違性を知る。 4. 受け持ち患者以外の人とも交流の機会を持ち、関心を広げる。 5. 実習施設に併設されているデイケアでの実習で、精神の障害を持ちつつ地域で生活する人々と接する機会を持ち、ソーシャルサポートの現状と今後の課題を探る。 *担当教員は全て医療機関（病院）での勤務経験をもち、そこでの実務経験をもとに担当項目について話をします。	
	授業形態	臨地実習	
到達目標	1. 対象の生命力が、適切な看護により高められることを学ぶ。 2. 対象のそのときどきの心を感じ取り働きかけることを学ぶ。 3. 適切な働きかけによって、対象のもてる力が発揮されることを学ぶ。 4. 立場の変換がどのように行われているかという観点から、自己の看護実践を評価する。		
評価方法	実習目標の到達度（100%） 実習要項内に提示されている実習自己評価表に基づき学生自身が自己評価し、同じ評価表で担当教員が他者評価したものの突き合せ総合的に評価する。		
教科書			
参考書・参考文献	系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①, ② 医学書院		
履修条件	備考に示す		
科目等履修	否		
履修上の留意点			
備考・メッセージ	履修条件 ・4セメスターまでの必修科目をすべて履修していること ・5セメスターの必修科目がすべて修得見込みであること		

講義科目名称： 臨地実習II（在宅）

授業コード： 11280

英文科目名称： Nursing Practicum(Home Care)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3 年	3単位	必修
担当教員			
◎中角吉伸、川原瑞代、金子美千代、宮ゆうこ 他			
専門科目	体験・統合科目	6セメスター	135 時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	訪問看護ステーションを利用している在宅療養者を受け持ち、継続的な訪問看護を通して、在宅における看護過程を展開する。また、地域で生活する高齢者のその人らしい姿や生活のしづらさへの対応等を理解する。これらから地域包括ケアを担う関連機関、関係職種への理解を深めながら、看護の機能を考える。		
授業計画	方法	在宅看護過程の展開及び地域包括ケアの理解 ①訪問看護ステーションから紹介を受けた看護の必要性の高い1家族を受け持ち、継続的に3～5回の訪問看護を行う。 ②退院後、間もない利用者や退院調整中の患者などの事例について、退院調整カンファレンスやケアカンファレンス等に参加する。 ③関係機関や関係職種との連携の場に参加したり、同行訪問、見学等を行う。 ④地域で行われる高齢者の活動等への参加を通し、地域包括ケアへの理解を深める。 ⑤実習学生や実習施設のスタッフとのカンファレンスや意見交換を行う。	
	実習場所	宮崎市とその近郊の訪問看護ステーション、宮崎市青島地区社会福祉協議会 県内出身者は、出身地近郊の訪問看護ステーションで実習する場合もある。	
	実習期間	3週間 ・実習初日は、学内で実習オリエンテーションを行う。 ・中間、最終カンファレンス、学内日を設ける。 ・宮崎市青島地区社会福祉協議会の実習は、2日間行う。 ・訪問看護ステーションの実習は、8日間程度行う。 ・実習最終日は、学内で実習報告会を行う。	
	実習内容	訪問看護ステーションの活動（訪問看護他）、地域の高齢者等の活動の場への参加 1. 訪問看護ステーションにおける訪問看護（看護過程展開） 2. 関係機関や関係職種との連携の場への参加 3. 医療機関等からの退院後、訪問看護導入期の利用者や退院調整中の患者について、継続看護の場への参加又は事例学習 4. 地域の高齢者等の活動の場への参加 5. カンファレンス、報告会 *担当教員は、看護師、訪問看護師、保健師として、地域における看護に関する教育、研究及び訪問看護師との協働事業を行った実績や医療機関や福祉施設、行政等での実務経験をもとに指導を行います。	
授業形態	臨地実習		
到達目標	1．看護の必要性の高い1家族への継続的な訪問看護を通して、在宅における看護過程を展開する能力を高める。 2．訪問看護ステーションの活動の特徴について理解する。 3．在宅で療養する人への看護と医療機関で入院生活を送る人への看護の共通性と相異性について理解する。 4．継続看護のあり方について理解する。 5．在宅ケア関連職種の役割と機能について学び、看護との連携について理解する。 6．地域で生活する高齢者のその人らしい姿や生活のしづらさへの対応を理解する。 7．社会ニーズに応え、地域状況をふまえた地域包括ケアシステムの実際を学び、ネットワーク構築や協働の実現に向けた看護職の役割や機能を考察できる。		
評価方法	実習への参加状況、記録物、実習時及び実習後の教員との面談、自己評価等から到達度を評価する（100%） *評価規準・基準は、実習初日のオリエンテーション時に配付します。		
教科書	随時紹介します		
参考書・参考文献	随時紹介します		
履修条件	・4セメスターまでの必修科目の全修得。 ・5セメスターの全必修科目が修得見込み。		
科目等履修	否		
履修上の留意点	臨地実習Ⅱ実習要項参照		
備考・メッセージ			

講義科目名称： 看護教育

授業コード： 11390

英文科目名称： Nursing Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	1 単位	必修
担当教員			
◎勝野絵梨奈			
専門科目	体験・統合科目Ⅱ	7セメスター	15時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護学教育の歴史的変遷を理解し、看護師養成教育と看護学教育に関する法的基盤をふまえ、看護学教育の現状と課題を理解する。看護専門職として自律的に活動するために、その基盤となる看護学教育に関する基礎的な知識を修得する。さらに、自らが学んでいる看護学について教育的関心を持ち、看護学教育の将来の方向性をとらえて看護学を学ぶ途上にある自己の立脚点を考える。
授業計画	1ー2 回 【導入】 授業計画をもとに授業の全体像及び展開について、概略を把握する。 【1. 看護教育の概念】 ・専門職とは ・看護教育と看護学教育について 【2. 看護教育の歴史的変遷を理解し、現在の看護基礎教育の現状と課題を理解する。】 ・日本の看護教育の歴史的変遷について ・看護教育制度の現状と教育機関について ・看護教育制度を支える法及び関連法規について 保健師助産師看護師法 3 回 【3. 看護学教育課程論 看護基礎教育課程の目指す教育について】 ・高等教育における看護学教育について ・看護教育カリキュラムとその考え方について ・看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標について 4 回 【キャリア発達と形成について】 ・職業的自我の形成 ・キャリア・アンカー ・整いつつある看護の生涯教育 卒後教育 大学院教育 継続教育 専門看護師・認定看護師教育課程、その他の教育プログラム 5ー6 回 【4. 看護学教育方法 看護学の教授-学修過程 講義、演習、実習 教材・教具の活用 】 ・看護学における教授-学修過程について理解する。 授業の構成、発問の仕方、教材・教具について ・指導案作成方法の基礎と留意点 ・評価について 7 回 【看護学教育方法】 ・効果的な教育方法とは何かについて理解する。 看護技術教育におけるシミュレーション教育 看護技術教育におけるCAI教育 医療安全教育における教育方法について 医療安全教育において、医療事故を予防・回避するための教育方法の一つとしてインシデント分析（本講義ではSHELモデルを活用する）法があることを知る。事例分析を通して、医療安全への理解を深め今後の実践に活かす。 8 回 【看護学教育方法】 ・前回授業の事例課題の共有 個別ワーク→グループワーク⇒討議⇒全体共有を行う。 ・【まとめ】 担当教員は、看護師として大学病院に勤務。実務経験を看護教育の教材化に活かす等授業方法の工夫を図って講義を行います。
授業形態	講義
到達目標	1. 教育とは何か、また自律性を目指す主体的・自発的学習の意義と重要性を理解することができる。 2. 看護学教育の特殊性を理解し説明できる。 3. 看護学教育の歴史的変遷を理解し、現在の看護師養成教育と看護学教育に関する法的基盤をふまえ、看護学教育の現状と課題について理解できる。 4. 看護学における教授-学修過程について理解する。 5. 学習の成果に基づき、自らの生涯学習の方向性を探る手掛りを得ることができる。
評価方法	1. 評価対象と評価の配分 A；授業時・授業後の学修成果物（40%） B；課題レポート（60%） 2. 各評価対象に対する評価基準と基準について A;授業中・授業後の学修成果物として提出する＜ワークシート＞について(評価配分40%) 評価基準 1) 授業目標に則して理解した内容を記述している, 2) 既習内容を踏まえ自分の意見・考えを記述している, 3) 知識を断片的に羅列した記述となっている。 評価基準 a: 基準に十分達している, b: 基準に達している, c: 基準に最低限達している。 注) グループワークを行った単元においての評価には、グループワークへの参加度、グループワークでの学び

	についても言及しているか、の規準を追加し評価する。 B；課題レポート（評価配分60%） 到達目標を踏まえ課題を設定・提示する。 評価規準（4観点）・基準（5段階）から構成するルーブリックを活用する（事前配布）。
教科書	
参考書・参考文献	杉森みど里著「看護教育学 第7版」医学書院，2021. 目黒悟著「看護教育を創る 授業デザイン」メジカルフレンド社，2011.
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 看護技術スキルアップ演習

授業コード： 11400

英文科目名称： Advanced Nursing Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4 年	1 単位	選択
担当教員			
◎（専門分野部会長）専門科目教員			
専門科目	体験・統合科目	8セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	個別な対象に合わせて応用できるように看護基本技術の修得レベルを高め、専門職者としての自覚を持ち根拠に基づいた実践ができることを目指す
授業計画	1－3回 【導入】 本科目の到達目標と学習方法についてオリエンテーションを行い、各自の学習計画を立てる 1) 自己の看護基本技術の修得レベルの自己評価をもとに、演習課題を明確にする 2) 設定事例について、その患者のニーズに合わせた看護技術を提供できるよう演習を進める（自己学習・グループ学習） 4－13回 【演習と個別チェック】 1. 設定事例に必要な主な看護技術について修得レベルを高める。 1) 既習技術のポイントを想起しながら、対象にあわせて実施できるレベルをめざす 2) 支援者（教員・卒業生）から、現場に即した助言や体験を聞くことにより、実践場面をより生き生きとイメージしながら演習を行う 2. 設定事例への看護を行う：個別チェック（一人15分程度の予定） 1) 設定事例への看護に必要な物品等の準備を行う 2) 設定事例への看護を実践する 3) 自己評価と他者評価のつきあわせを行う 14－15回 【自己評価】 3. 演習を通して、看護技術の修得レベルを自己評価し、自己の課題を明確にする 担当教員は全て、総合病院での臨床経験を積み、この実務経験をもとに本科目の学習を支援します。
授業形態	演習
到達目標	1. 既習の看護基本技術の原理を想起でき、ポイントを確認しながら対象の状態に合わせて実践する。 2. 医療用機器や物品の構造・原理を理解し、操作上のポイントを押さえて安全に使用する。 3. 支援者（教員・卒業生）との討議を通して、現場での看護技術に関する体験や知識について理解を深め、臨床判断能力を高める。 4. 自己の看護技術の修得レベルを自己評価でき、自己の課題を明確にする。
評価方法	個別チェックの評価・自己評価と今後の課題の記録・演習への参加状態を統合して評価する（100%）
教科書	
参考書・参考文献	関連する既習のテキストすべて
履修条件	－
科目等履修	否
履修上の留意点	演習(第4回から第15回)は、12月末（臨地実習Ⅱ2クールが終了した後の2.5日間）に集中で行う。
備考・メッセージ	本学卒業生の先輩ナースから、現場での看護技術に関する体験や技術・知識について貴重な話を聞いたり、自己の看護技術の修得レベルを確認することができます。4月からの就職に向け、最後の総仕上げとなる大切な機会です。皆さんの積極的な受講を希望します。

授業コード： 11230

担当教員

◎就職対策委員長 1年生学年顧問リーダー

添付ファイル

授業の目的・概要	卒業後の自己像を描き、看護専門職者としての資質を向上させるキャリアプランについて考えることができる。
授業計画	1回 オリエンテーション 2回 キャリアプランとは キャリアとは何か キャリア形成のプロセスについて 3 - 4回 看護職とは ・専門職とは ・看護専門職とは ・看護専門職が活躍する場 5回 現代社会と医療人の役割 6-7回 宮崎県の保健医療の現状と看護職に期待されること ・本学に入学した看護学生として、本県の人々の暮らしや健康などのテーマを知る。また、本県の保健医療に関する理解を深め、看護職者として期待されていることについて理解する。 8回 自分のキャリアプラン 第2回目の講師は企業等での人材育成を担当した実務経験を有しており、その他の担当教員は看護職者としての実務経験を有しており、その経験・実績から講義を行います
授業形態	講義 グループワーク
到達目標	1. 自分の人生の目標、人生にとって何が大切かを自らに問い、自己理解を深める。 2. どのような場所に学び、どのような場所に就業するのか、自己の社会人としての将来像を描く。 3. 看護キャリアの形成に必要な情報や学び、体験についてイメージすることができる。
評価方法	レポート・プレゼンテーション・授業への参加度
教科書	なし
参考書・参考文献	適宜紹介する
履修条件	なし
科目等履修	不可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： ボランティア活動

授業コード： 11236 11237

英文科目名称： Volunteer Activity

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2, 3, 4 年	1	選択
担当教員			
◎橋口奈穂美 甲斐鈴恵 中村千穂子 高本佳代子			
専門分野	体験・統合科目 I	3、4、5、6、7 セメスタ	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	ボランティア活動の理念、意義、役割、実際の活動等について学び、ボランティア活動を通し、現代社会の課題や背景や取組みについて理解する。また、ボランティア活動への参加を通して地域への志向性を高めるとともに社会人、看護者としての基盤となる社会人基礎力の向上を養う。		
授業計画	1回 ボランティアとは何か 4月 ・オリエンテーション 【橋口、甲斐、中村、高本】 ・ボランティア活動の理念、意義、役割について ・資料（活動計画書A表・活動記録書B表・活動終了報告書C表・依頼文書D表）について 2回 ボランティアの現状と課題 ・住民参加のボランティアや保健医療福祉分野におけるボランティアの現状と課題 ・地域への愛着と社会活動への参加 【宮崎公立大学 川瀬隆千先生】※1 3回 ボランティア活動の基本原則 ・ボランティア活動の基礎知識 ・マナーと活動のための留意事項 ・ボランティア情報の検索とコンタクト 【宮崎市社会福祉協議会及び宮崎市民活動センターの担当者 予定】※2 4-13回 ボランティア情報の検索とコンタクト、活動計画の作成 ボランティア活動の実践 ・活動計画の作成 ・ボランティア活動の実践 ＜ボランティア活動実践＞ 休暇中または休日、授業の空き時間などに活動 ・活動総時間（実時間）は、15時間以上。 ・継続的に続けられるものが望ましいが、単発でも可 ・一人でも、仲間と一緒にでも可。家族援助活動は対象外。 ・趣味や特技を活用した活動なども可能 ・毎回「活動記録」を作成する ・15時間相当の活動が終了したら、「活動終了報告」を提出する 14回 発表準備 9月・1月 ・グループ分けを行い、ボランティア活動の経験と学びについてグループディスカッション 15回 報告会、活動評価と共有 9月・1月 ・報告会（プレゼンテーションとディスカッション） ・最終レポート作成 ※1 第2回は、大学生の地域活動への参加を通じたキャリア形成支援や社会心理学的アプローチによる、コミュニティづくりなどの実践が豊富である学外講師が担当します。 ※2 第3回は、市民活動の総合的支援施設において、ボランティア活動の発信、人材育成・交流促進等を行っている実務者が担当します。		
授業形態	演習		
到達目標	1. 内外の多様なボランティア活動の事例から、ボランティア活動の理念・意義や社会的役割を理解できる。 2. ボランティア活動団体や活動方法について理解できる。 3. ボランティア活動の基本原則を説明できる。 4. 地域の人々のつながりや相互扶助に接する体験を通し、チームの形成、リーダーシップやメンバーシップのあり方を学び、コーディネーション、マナー等について基本的能力を身に付けることができる。		
評価方法	ボランティア活動の実践（15時間以上）60% 資料（活動計画書A表・活動記録書B表・活動終了報告書C表）10% 最終報告会への取り組み 15% 最終レポート 15% 尚、評価観点や基準は講義の中で示します。		
教科書	なし		
参考書・参考文献	ボランティア活動先に関連する図書については授業で随時紹介する。		
履修条件	—		
科目等履修	否		
履修上の留意点	どんな活動をするのかは各自で考え、選び、交渉することになります。身近な地域の情報を得、関心ある領域、課題について取組んでいる団体等を調べてみましょう。「健康支援演習」（2セメスタ 必修）の学びを活用できる場を検討するのもよいでしょう。正規の時間外活動のため、さまざまな調整能力が求められます。また、異学年交流を通し、啓発・支援できるような関係を深めましょう。相談は随時、対応します。		
備考・メッセージ	・コロナ禍の影響により、可能なボランティア活動は制限されることが見込まれます。今年度、15時間の活動に満たない場合は、別途検討します。		

・時間割上偶数セメスタの履修登録も可能ですが、実習や就職活動等で履修は非常に難しいので、奇数セメスタで修得できるようにしてください。
--

講義科目名称： フィールド体験実習

授業コード： 11240

英文科目名称： Introduction to Human Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	1	必修
担当教員			
◎毛利聖子 山岸仁美 坂井謙次 他			
専門科目	看護統合	1 セメスター	45時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	乳幼児・高齢者や心身に障害をもって生活している人々との関わりを体験し、他者への関心と理解を深める。		
授業計画	方 法：	1. 各フィールドの状況に応じた体験学習に参加する。 2. 様々な健康状態の人がどのような場でどのような生活をしているか、自らの五感を働かせて観察する。 3. 看護学生として、他者に害を及ぼさないか確認して、可能な力を差し出し関わる。 4. 日々の実習を通して、自己の内面から突き上げてくる感情や思考および行動について話し合い、体験を記述する。 5. 学内において、体験を具体的に表現した内容から学びをまとめ、発表を通して全体共有する。 *フィールドには主担当教員の他に副担当教員が加わることがある	
	実習場所	老人福祉関係施設、障害者（児）福祉関係施設、病院、児童保護関係施設等とボランティア団体の約20施設	
	実習期間	1週間	
	実習内容	体験実習	
		*主担当教員は全て、総合病院での臨床経験を積み、看護教育に携わっている	
授業形態	臨地実習		
到達目標	1. 様々な健康状態の人々がどのように支えられて生活しているか、関わりを通して対象の置かれた立場から理解を深める。 2. 支える人々がどのような力を差し出しているかについて学ぶ。 3. 看護学生として対象への関心の注ぎ方を意識化し、自己の成長を促す学習課題を持つ。		
評価方法	実習への取り組みの姿勢と記録(50%)、グループワークへの取り組みの姿勢と発表内容(40%)、レポート(10%)		
教科書			
参考書・参考文献			
履修条件	－		
科目等履修	否		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： フィールド体験実習Ⅱ

授業コード： 11250

英文科目名称： Introduction to Human Care Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	必修
担当教員			
◎金子美千代（在宅看護学・公衆衛生看護学・老年看護学領域全教員）			
専門分野	体験・統合科目Ⅰ	3セメスター	45時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	在宅療養を必要とする人々の生活の場に出向く実習を通して、多様な療養環境のなかで生活する在宅療養者とその家族への理解を深める。また、在宅療養を可能とする社会資源の存在とその役割について知り、療養者と家族が選択した場や環境で、生活や療養を継続できる条件や支援を考える。		
授業計画	方法	実習施設の受け入れ学生数に沿ってグループを編成する。各施設の訪問看護の状況に応じて、訪問看護師との同伴訪問（見学実習）を行う。	
	実習場所	宮崎市内及び近郊の訪問看護ステーション（20-25ヶ所）	
	実習期間	1週間	
	実習内容	1. オリエンテーションを受け、訪問看護ステーションと訪問看護師の活動の特徴や役割を学ぶ。 2. 訪問看護師と同伴訪問（見学実習）を行い、在宅療養者の心身の状況と療養環境を大づかみに捉え、在宅療養へ至った経緯や思い、家族の思いなどを感じ取り、また予測する手がかりを増やししながら在宅療養者やその家族への理解を深める。 3. 在宅療養を支える人的・物的・制度的な社会資源の存在を整理する。 4. 「健康」「医療」「生活」「生き方」の観点から在宅療養者の特徴を捉える。 5. 体験したことをグループでまとめ、報告し合い他者の体験を共有する。 6. 在宅療養を希望する人々が住み慣れた地域や自宅で生活していくために必要な条件や支援について考える。 ＊詳細は「フィールド体験実習Ⅱ実習要項」に示す。 ＊看護師、保健師資格を持つ教員が、各教員の専門分野における教育・研究・地域貢献等の実績や医療機関、行政等での実務経験をもとに指導を行います。	
授業形態	臨地実習		
到達目標	1. 訪問看護ステーションと訪問看護師の活動の特徴や役割について理解できる。 2. 在宅療養者とその家族の特徴について理解できる。 3. 在宅療養を支える社会資源について理解できる。 4. 在宅療養を希望する人々とその家族が選択した場や環境で、生活や療養を継続していくために必要な条件や支援について考えることができる。		
評価方法	出席状況、実習態度、記録、グループワーク、カンファレンスの参加状況、自己評価等によって評価する。 ＊評価規準・基準は、実習オリエンテーション時に配付。		
教科書	随時紹介する		
参考書・参考文献			
履修条件	在宅看護学概論既修得、在宅看護方法Ⅰ修得見込み、フィールド体験実習Ⅰ既修得		
科目等履修	否		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： 家族看護学

授業コード： 11045

英文科目名称： Family Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	1	必修
担当教員			
◎久野、重久、矢野、橋口、壹岐、甲斐、大野 他			
専門分野	体験・統合科目Ⅱ	7セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	本科目は、ディプロマポリシー①、③、④を修得するための一科目である。 家族看護の展開に必要な基礎的知識について理解を深め、これまで学んできた看護を基盤としさまざまな看護の対象に求められる家族看護について考察し、看護者が果たす役割について考える。
授業計画	1-4回 【家族看護のための基本的な理解（基礎編）】 学習目標：家族看護学に関する基礎知識を再確認し、その理解を深める。 1回：A 看護と家族（家族看護の必要性）…講義 2回：B 家族の把握・理解・表現 …講義・個人ワーク 3回：C 家族理解のための理論 …講義 D 家族に変化をもたらす介入 …講義 4回：E 家族の健康問題と家族の変化、家族が持つ力 …個人ワーク 5-12回 【様々な看護の対象への家族看護の展開（応用編）】 学習目標：これまでの学習（講義・実習）から、さまざまな看護の対象に求められる家族看護について理解を深め考察する。 F 各看護領域の看護の対象（下記の①～④を中心に）への家族看護の展開 *1-4回までの学習をもとに各看護領域から提示された事例について、 家族看護の視点からグループで検討し考察する。 ① 成人看護領域事例のグループワークと事例の解説 ② 老年看護領域事例 〃 ③ 母性看護領域事例 〃 ④ 小児看護領域事例 〃 13-15回 【受け持ち事例への家族看護の展開（発展編）】 学習目標：臨地実習（Ⅰ～Ⅲ）で出会った事例等について、家族看護の視点からとらえ直してどのような家族看護が求められたのか考察し、そこにおける看護者の役割について考える。 1. 事例検討：グループワーク 臨地実習で出会った事例を取り上げ、その家族看護について検討する。 2. 課題演習：個人ワーク（課題レポート作成） 臨地実習で出会った事例を取り上げ、その家族看護について検討しレポートにまとめ提出する。 （レポートの内容によっては複数例とりあげ考察してもよい） *13回目の冒頭に基礎知識を問う小テスト（30分間）を行います。 *担当教員はすべて看護者として病院等に勤務した豊富な経験があり、この実務経験をもとに家族看護の学習を支援します。
授業形態	講義・演習（個人ワーク・グループワーク）
到達目標	1. 家族看護学に関する基礎知識を再確認し、その理解を深める。 2. さまざまな看護の対象に求められる家族看護について理解を深め考察する。 3. 臨地実習で出会った事例等について、家族看護の視点からとらえ直しどのような家族看護が求められたのかを考察し、そこにおける看護者の役割について考える。
評価方法	テスト30% 個人・グループワークへの取り組み 40% レポート 30% *評価規準・基準は最初の授業で配付します。
教科書	なし
参考書・参考文献	上別府圭子ほか：系統看護学講座 別巻 家族看護学，医学書院 鈴木和子・渡辺裕子著：家族看護学－理論と実践，日本看護協会出版会 他、家族看護学に関する図書等 随時紹介。

履修条件	
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	本科目は皆さんの看護のとらえ方や実践力に広がりや深まりが出てくる科目です。また、多くの教員が関わるため個別指導が受けやすい科目です。積極的な参加により、看護者としての自己を成長させていきましょう。

講義科目名称： 宇宙地球科学

授業コード： 10010

英文科目名称： Space and Earth Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	1	必修
担当教員			
◎小河 一敏			
普遍分野	自然界と看護	1 セメスター	3 0 時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	地球は誕生以来、他の惑星にはない特殊な環境で生成したため、特殊現象として生命が誕生してきた。以降、生命との相互浸透によって他の惑星とは異なる発展を遂げてきた。 この歴史性を踏まえて、人間生命の環境としての現在の地球の状態を大きく、ダイナミックに捉えられる学問的（弁証法的、認識論的、実体論的）な視点を修得する。 （カリキュラムポリシー1・4・5とディプロマポリシー3・6を参照。普遍分野 自然界と看護 の領域は「生命を守る」を主題としている。この為には、生体と環境の両側面の理解が必須であり、本科目は環境面を深めていく。）
授業計画	1－2回 【イントロダクション ―何故、宇宙地球科学か？―】 生命を守るために宇宙・地球を学ぶ意義を理解する。 ● 銀河系・銀河系のつながりと星宇宙の誕生から終焉までを概観し、宇宙の広がりや空間的・時間的に大きくつかむ。 ● 銀河系の中の太陽系の運動、太陽系の中の地球の運動（公転・自転）を学び、気候帯分化・季節変化などを理解する。 3－5回 【宇宙観・地球観の歴史 ―哲学から科学へ―】 学問は宇宙観・地球観を中心に歴史を積み重ねてきて、結果、世界は「運動する物」として統一されるという科学的世界観（弁証法的唯物論）に至った事を理解する。 ● 原始から古代オリエントに至る天体観測、古代ギリシャにおける地球の発見・天動説の誕生、古代ローマからイスラム・中世ヨーロッパにおける天動説の確立・発展、ルネサンス期の地動説の誕生を概観し、生活に基づいた素朴な世界像から学問的な世界像＝世界観への発展を捉える。 ● 地動説の確立、万有引力の発見による太陽系の把握、太陽系誕生論の誕生を概観し、学問的な世界観の内実が、機械的世界観から発展的世界観へと発展した事を理解する。 ● 以上の宇宙観・地球観の歴史を基礎として学問全体の歴史性を理解し、世界は「運動する物」として統一されるという科学的世界観（弁証法的唯物論）に至った事を理解する。 6－7回 【自然としての地球の歴史 ―生命現象体としての地球―】 地球の歴史は生命惑星（生命現象体）としての歴史であることを理解する。 ● 星宇宙としての現宇宙の生成のあり方から、太陽系誕生の特殊性、更に地球誕生の特殊性としての月の誕生を捉える。 ● 太陽系の一惑星としての一般性と月の影響という地球独自の特殊性を踏まえて、地球上における生命誕生の謎に迫る。 ● 大気大地の分離・海陸の分離・森林の形成など、生命進化の基盤となった地球環境の変遷を学ぶ。 8－11回 【現在の地球の姿 ―大気・水・生物・大地・内部の灼熱物質の体系的連関―】 人間生活に関わる自然現象について構造的に理解する。 ● 太陽・月の影響、大気、海陸、地殻、内部熱、放射線、多様な生物活動などを地球の歴史から理解し、気候帯、季節、降雨、雷、風、台風、海流、波、潮汐、火山活動、地震など生活に関わる自然現象について自然科学の成果から学び、地球が生命と相互浸透してきた歴史性が人間生命と地球環境とのつながりを捉える要となる事を理解する。 12－14回 【地球の変革 ―人間と自然との相互浸透―】 認識に基づいた労働による地球環境の変化を学ぶ。 ● 地球を変革し、加工する人間活動はこれまで、自然環境の原理とは無関係に行われてきたために、いくつもの問題を生んできた。かつて日本で生じた公害と現在世界で叫ばれる環境破壊の現状とそのしくみを知り、生命を守るための視点から対応指針を考え、持続的発展の方向性をつかむ。 15回 【総括 ―人間生命の環境とは？―】 講義全体を総括する。 ● 学生によるレポートの発表・質疑応答を通して、「人間生命の環境とは？」について理解を深める。 16回 【成績の講評】
授業形態	講義・演習
到達目標	1. 宇宙観・地球観の歴史の大きな流れを理解する。 2. 現在に至るまでの地球の歴史を科学的世界観に立ってつかみ取れる。 3. 現在の地球現象を一般性レベルで分かる能力をつける。
評価方法	【評価規準】教科書からの学習課題（40%）各授業単元の総括課題（25%）夏の総括課題及び発表（35%） 【評価基準】 S：他者の模範となり指導できるレベルに達している。 A：授業内容が定着し、地球環境と人間生命との関係を考えられる。その内容を他者に伝えられる。 B：授業内容がトータルに描かれ、地球環境と人間生命との関係を描ける。 C：授業内容の各単元同士のつながりがつかめ始め、地球環境と人間生命との関係が描け始める。 D：Cに達しないレベル。

教科書	『看護のための「いのちの歴史」の物語』本田克也他著、現代社 『看護学生、宇宙を学ぶ』小河一敏、アノック 『ナースが視る人体』講談社『ナースが視る病気』講談社
参考書・参考文献	『看護覚え書』ナイチンゲール著（訳本）、現代社 『看護学科・心理学科学生への”夢”講義』（1）現代社 『科学物語』ファーブル著、木鶏社 『弁証法はどういう科学か』三浦つとむ著、講談社
履修条件	－
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	世界中に看護系大学は数多くありますが、看護の専門性に結びつくあり方で、「宇宙地球科学」を説いている大学は、恐らく宮崎県立看護大学だけでしょう。おめでとうございます。皆さんは、「宇宙とは？地球とは？」という世界の根本を学び取り、そこから「生命とは？そして、人間とは？」と考えを深めた上で、看護へ向かっていく機会を得たのです。講義名の厳めしさに恐れることなく、飛び込んでみてください。必ず、新たな世界が眼前に広がっていくことを約束します。

講義科目名称： 生体と環境

授業コード： 10050

英文科目名称： Human Life and Environment

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	2	必修
担当教員			
◎小河一敏			
普遍分野	自然界と看護	2 セメスター	3 0 時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	ナイチンゲールは主著『看護覚え書』で、「生命の法則」として「われわれの身体と、神がそれを置かれたこの世界との関係について神が定めた法則」と説いた。つまり、「人間生命を守る要は、人間と環境との関係についての法則である」ということである。 「生体と環境」では、「健康な生活とは？」ということを『看護覚え書』の各論一つ一つを通して学び、さらに上記「生命の法則」の視点からとらえ返して体系化していく。 この学びを通して、人間と自然界との関係に即した物ごとの見かた・考えかたを学び、生命を守るために環境を整えていく能力を、セルフケアを中心に修得していく。 (教育目標1・2・5、カリキュラムポリシー前文および1・4・5、ディプロマポリシー3・6を参照。)		
授業計画	1 回 【生活における生体と環境のつながりを素描する ―自然観：自然界＝諸過程の複合体（弁証法性）―】 「生命科学論」及び「宇宙地球科学」を簡単に復習することにより、「生活における生体と環境のつながり」を「個別科学としての看護学の構造」（『科学的看護論』p.109）の「自然観」にそって素描する。 16. 赤ん坊の世話 2－7 回 【「健康の法則、すなわち看護の法則」を生活からつかむ ―『看護覚え書』各論―】 「生命は代謝（摂取・自己化・排出）によって維持されている」・「人間は頭脳の働きである認識によって生活を多様につくる」この二つをサーチライトにして「生体と環境のつながり」という視点から、『看護覚え書』各論の意味をとらえ、生活のなかで検証し、生活を改善していく。 1. 換気と保温 2. 住居の健康 10. 部屋と壁の清潔 11. 身体の清潔 8. ベッドと寝具類 9. 陽光 15-3. ロンドンの子供たち 5. 変化 6. 食事 7. 食物の選択 8－9 回 【「生命の法則」を生活からつかむ ―『看護覚え書』総論―】 『看護覚え書』序章・おわりにを、「健康の法則、すなわち看護の法則」の理解を基礎にして学び、「生命の法則」の実態をつかむ。 ● 生活過程とは何か ● 生命の法則とは何か 1 0－1 1 回 【「生命の法則」から「健康の法則、すなわち看護の法則」を体系化する ―人間観・生活観・健康観―】 『看護覚え書』の学びを体系化することで、「看護観」の土台となる「人間観・生活観・健康観」を築く。 ● 体系を貫く中心軸 ● 中心軸と各論のつながり・各論同士のつながり 1 2－1 5 回 【《家庭衛生》の観点から理解を深める ―研修・発表・討論―】 カリキュラムを踏まえて大学4年間を展望し「生体と環境」の位置づけを確認する。その上で、班ごとにテーマを決めて主体的に研修し、成果を発表し討論することで理解を深める。 ● 旧年の反省・新年の目標 ● 総括発表討論会開催 1 6 回 【総括】 自己の班の発表内容と他班の発表内容を踏まえて学びを総括する。 ● 健康な清潔とは		
授業形態	講義・演習		
到達目標	1. 「自然観」を土台に『看護覚え書』にある「健康の法則、すなわち看護の法則」を生活からつかむ。 2. 『看護覚え書』序章・おわりにから「健康の法則、すなわち看護の法則」をとらえ返し、「生命の法則」をつかむ。 3. 『看護覚え書』の学び（1.2.）を体系化し、「看護観」の土台となる「人間観・生活感・健康観」をつかむ。		
評価方法	【評価規準】教科書・ワークノートに基づく学習課題（60%）最終総括発表討論および最終総括課題（40%） 【評価基準】 S：他者の模範となり指導できるレベルに達している。 A：「生活の体系像」が定着し、自らの生活を健康にコントロールできる。その内容を他者に伝えられる。 B：「生活の体系像」が描かれ、安定的に自らの生活を健康に整えていくこと（セルフケア）ができる。 C：「健康の法則」同士のつながりがつかめ始め、生活を健康に整え始めている。 D：Cに達しないレベル。		

教科書	『看護覚え書』現代社 『看護覚え書』に学ぶ生活科学ワークノート 小河一敏著、アノック 『看護学生、宇宙を学ぶ』小河一敏著、アノック 『ナースが視る人体』講談社『ナースが視る病気』講談社
参考書・参考文献	『看護学科・心理学科学生への”夢”講義』（1）現代社 『看護のための「いのちの歴史」の物語』本田克也他著、現代社 『科学的看護論』日本看護協会出版界 『弁証法はどういう科学か』講談社新書
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	本科目は「生命科学論」（生体面）・「宇宙地球科学」（環境面）の内容を基礎とする。
備考・メッセージ	「ナイチンゲールの文章は難しい」という声を多くのナースから頂いてきました。『看護覚え書』を開いてみると、「はじめに」はそう大変でもないのですが、「序章」は難しすぎて普通まずわかりません。とてもとても大切な「病気とは」「看護とは」「健康の法則・看護の法則」「生命の法則」が説かれているというのに。でも、心配しないでください。『看護覚え書』の各論一つ一つを丁寧に自己の生活に重ねて理解し、生活改善を実践していく努力を重ねると、2か月もたったころには「なんだこういうことだったのか」と皆さん納得できるようになります。先輩たちが皆そうでした。こうして、現実の生活の事実を自らの五感覚器官を通して味わいながら学んだ教えは、皆さんの看護人生を無限に発展させる核となる力となっていくでしょう。ぜひ楽しんで学んでください。

講義科目名称： 統計学入門

授業コード： 10061

英文科目名称： Principles of Statistics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	1	必修
担当教員			
◎中尾裕之			
普遍分野、普遍科目	自然界と看護	2 セメスター	3 0 時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	物事を効率的に正しく判断するための基礎となる統計学について，エビデンスを生み出すためのデータの取り扱い方，基本的な統計手法，統計的な考え方を学ぶ。		
授業計画	01回 統計とは いろいろな統計 02-03回 グラフの適切な見方 グラフの使い分け グラフの読み取り グラフを見るとき，作るときに気をつけること 04-05回 変数のタイプと平均・割合 質的変数と量的変数 平均値と割合 05-06回 データの中心とばらつき データの中心を表す指標 データのばらつきを表す指標 07-08回 分布 正規分布 ゆがんだ分布 影響を受ける指標 09-10回 変数どうしの関係 相関関係と因果関係 クロス集計表 11-13回 調査対象の偏りと統計数値の誤差 バイアスと偶然誤差 選択バイアス 無作為抽出 14-15回 推定と検定 推定の考え方 検定の考え方と解釈 16回 試験		
授業形態	講義		
到達目標	①データを適切に取り扱うことができる。 ②基本的な統計量について説明できる。 ③推定や検定結果を解釈できる。 ④示されたデータや分析結果を批判的に吟味できる。		
評価方法	講義への参加度（40%），授業内外での学習成果物（20%），試験（40%） ※評価規準・基準は最初の講義で配布		
教科書	神林博史著：『1歩前からはじめる統計の読み方・考え方』ミネルヴァ書房		
参考書・参考文献	適宜紹介する。		
履修条件			
科目等履修	否		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： 科学入門

授業コード： 10195

英文科目名称： Principles of Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	1	選択
担当教員			
◎小河一敏			
普遍分野	自然界と看護	2 セメスター	1 5 時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	● 科学とは事実に基づいた学問であることを学ぶ ● 物事を科学的に捉える力を育む (カリキュラムポリシー1・4・5とディプロマポリシー3・6を参照)
授業計画	1 回 【イントロダクション 科学とはどういう学問か】 ・何故、人間は学ぶ(勉強する)のか ・学問：「学んで問う」とはどういうことか ・科学とはどういう学問か 高等学校までの様々な科目の学び、これまでの「自然界と看護」での学びを振り返りながら、科学について大よそのイメージを描く。 2－3 回 【学問の歴史の大きな流れ 哲学から科学への分化、更に統合へ】 ● 学問はどのようにして始まったのか ● 「世界全体についての学問(哲学)から個別分野の学問(科学)が分かれていく流れ」と「全分野の統一を保ち続けようとした営み」 ● 「現実の物事の性質を掴んでいく方向性」と「原理から物事の意味を説いていく方向性」とへの分裂・闘争を経て統一に至る流れ これまで「自然界と看護」で学んできた宇宙観・地球観・生命観の歴史を振り返りながら、学問「学んで問う」という営みが、単なる「知を愛する」という段階から「知の軸:Wissenschaft」を中心とした体系化という段階に至った歴史を大きくつかむ。 特に、学問の曙の時代、古代ギリシャにおける学問の姿(＝現実の物事すべてを自らの五感覚器官を通して学んで、その意味を対話を通して問うていく努力)を知ることによって、科学の初歩的姿勢を分かってくる。 4－6 回 【科学的抽象法：物事を科学的に捉える力を育む 事実を見つめ、意味を問い、系統立てていく】 ● 一つの物事についてのいろんな見方を知ろう ● 異なる見方(対立する意見)はなぜ生まれたかを考えよう ● 異なる見方(対立する意見)を統一してみよう 「陽光は浴びるべきか、避けるべきか」「発汗作用は促進すべきか、抑制すべきか」「部屋の中で湿気を放つものを干すべきか、干してはならないのか」など様々なことが『看護覚え書』に説かれている。 これら相対立する見解が、なぜ生まれてきたか考えるプロセスを通して、背景にある物事の実態(事実)を掴んでいく。それらの見解が、事実のどういう側面から生まれてきたかを把握することによって、現象として変化していく事実を貫いている性質(論理)を掴んでいく。 ● ある物を他の物と比べてみよう ● 比べる物を変えてみよう ● 共通性と相違性を一緒に取り上げよう 「チョーク一本」を取り上げても、比べる物によって取り上げる特徴は異なってくる。これを整理することで必要に応じた詳しさと対象をとらえられる。この方法を科学的抽象法という。「人間一般」をつかむプロセスを辿ることで科学的抽象法を修得する。 以上を通して、現実の事実を系統立てて理解していく力を育む。 7 回 【総括 科学とは何か】 これまでの学びを総括しレポートする。 8 回 【レポート総合講評】
授業形態	講義
到達目標	● 科学は、分科した学問であることを大きな流れとして理解できる。 ● 科学は事実から導いた性質(論理)を体系化した認識であることを理解できる。 ● 科学的抽象法：事実から性質(論理)を導く方法の基本を理解できる。 ● 事実・論理・現象・表象・一般・具体・構造・本質などの意味を理解できる。
評価方法	【評価規準】講義での質問、意見の提示など取り組み姿勢と各単元のレポート(60%)、最終レポート(40%)により総合的に評価する。 【評価基準】 S：他者の模範となり指導できるレベルに達している。 A：授業内容が定着し、科学体系化の過程が理解できる。その内容を他者に伝えられる。 B：授業内容がトータルに描かれ、科学とはどういう学問かが描ける。 C：授業内容つかめ始め、科学的抽象法に基づいて考えられる。 D：Cに達しないレベル。
教科書	『看護学原論講義』現代社 『看護学生、宇宙を学ぶ』小河一敏著、アノック 『看護覚え書』現代社 『ナースが視る人体』講談社 『ナースが視る病気』講談社

	『科学的看護論』日本看護協会出版界
参考書・参考文献	『弁証法はどういう科学か』 講談社新書
履修条件	「宇宙地球科学」・「生命科学論」双方をB以上の成績で合格していること。
科目等履修	可
履修上の留意点	「科学入門」開始時点（第2セメスター後半開始時点）における「生体と環境」の課題を全て提出していること。
備考・メッセージ	「科学入門」は、看護学を理論的に学ぶための基盤を築く授業です。『看護学原論講義』現代社の最も難しい第5講と第6講「看護のための人間論」を理解できるように指導します。〈自然界と看護〉の必修科目群を基盤とします。〈自然界と看護〉領域で最も難しい授業です。履修される方は、それだけの努力をする覚悟をもってください。ただし、学び終えたとき、ご自身の頭脳の実力が2倍以上にレベルアップしたと自覚できるでしょう。

講義科目名称： 情報科学演習 I

授業コード： 10110 10111

英文科目名称： Informatics I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	1	必修
担当教員			
◎長坂 猛			
普遍分野	人間社会と看護	1 セメスター	3 0 時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	データ収集・情報化・発信というプロセスを学び、情報のとらえかたについて考察する。		
授業計画	1－2回 【基本演習】 学内外のネットワーク接続と利用の注意・ネットワーク接続・文字入力・ファイル操作・印刷・メール&ブラウザの利用法 3－15回 【効果的な文書作成】 見やすい文書レイアウトと情報量、プリントのセンス 【情報の検索&情報発信】 情報をどのように検索するか 文献を検索する方法 自己紹介ページの作成と情報発信 流通する情報をどのようにとらえるべきか 情報とプライバシー 【データの収集と整理】 作表とグラフ作成の基本 文書ファイルとの連携 【プレゼンテーション】 リサーチと効果的な発表 著作権とパブリックドメイン 16回 【課題演習】 データ分析とプレゼンを意識したレポート		
授業形態	演習		
到達目標	メール・情報検索（文献検索を含む）・ワープロ・表計算ソフトの基本的な使用方法を身につける。ソフトウェアの利用や時事を通して、著作権やプライバシーなどについて考察を深める。		
評価方法	課題レポート提出 成績評価＝参加姿勢（出席による）30%＋課題の提出 70% 課題で重視する点：(1)課題の作成に演習内容が反映されているか、(2)分析や表現に工夫がなされているか。		
教科書			
参考書・参考文献	資料は配付する予定であるが、下記のような参考書があると、今後も便利である（演習では使用しない）。今すぐ使えるかんたんWord&Excel&PowerPoint2019, 技術評論社, ISBN978-4-297-10267-8 よくわからない場合は、授業中に問い合わせてください。		
履修条件	－		
科目等履修	可		
履修上の留意点	演習中の情報処理室は手狭になるので、参考書・ボールペン・プリント及び指示された教材以外の荷物を持ち込まないこと。情報処理室の利用規程を遵守（じゅんしゅ：決まりをまもる）すること。基本操作の説明では、集中して方法を聞き、自分独自のやりかたですすめないこと。		
備考・メッセージ			

講義科目名称： 情報科学演習II

授業コード： 10120

英文科目名称： Informatics II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	1	選択
担当教員			
◎長坂 猛			
普遍科目	人間社会と看護	4 セメスター	3 0 時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	情報に関する基本的な知識と技法を学び、学習の場や医療の現場で、ソフトウェアやネットワークを問題解決のツールとして役立てられるようにすること。
授業計画	1－3回 【概論および復習】 WordとExcel の連携 報告レポートの構成 Excelの基本操作 4－15回 【データ集計と解析】 パレート図の作成・度数分布の特徴・zスコア 誤差表現・変動係数・ジニ係数 移動平均によるバンドパスフィルター 指数化・変化率・寄与率 t検定・χ^2検定・分散分析 相関・回帰直線の信頼区間 Rを用いた計算と描画 【プレゼンテーション】 スライド作成、画像編集など 16回 【試験（もしくは課題演習）】
授業形態	演習
到達目標	(1) よく利用する機材やシステムなどの基本的な機能について知る。 (2) ソフトウェア間の連携を意識して、資料化やアウトプットのスタイルを向上させる。 (3) データ集計の技法やシミュレーションを通して、分析の視点を養う。
評価方法	授業および課題への取り組みによって評価する。 成績評価＝参加姿勢（出席による）30%＋課題の提出70% 課題で重視する点：(1)課題の作成に演習内容が反映されているか、(2)分析や表現に工夫がなされているか
教科書	特に指定しない
参考書・参考文献	新・涙なしの統計学（新世社）／D. ロウントリー 著／ISBN 4-88384-035-2／1,600円 ダメな統計学／アレックス・ラインハート／（無料ダウンロードできる） http://id.fnshr.info/2014/12/28/stats-done-wrong-ja-pdf/
履修条件	－
科目等履修	可
履修上の留意点	保健師免許を取得する者は選択することが望ましい。 本科目は保健師免許を取得する約30名を対象としています。履修希望者が情報処理室の席数を超える場合は、先着順となります。
備考・メッセージ	

講義科目名称： ライフスポーツ I

授業コード： 10130

英文科目名称： Life and Sports I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	1	必修
担当教員			
◎串間敦郎、宮元章次			
普遍分野	人間社会と看護	1 セメスター	3 0 時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	生涯にわたっての健康と体力の保持・増進には、適度の運動が必要である。そのためには、日常生活の中に運動やスポーツを習慣づける事が重要で、その具体的方法等の知識も必要となってくる。そこで、本授業では生涯運動を継続するのに適した、少人数でプレイ可能な種目を中心とした中から1種目を選択し、そのスポーツを楽しめる技術、ゲーム方法等を修得する。		
授業計画	1 回 【オリエンテーション・体力診断テスト1】 ①本授業の目的及び実施方法等の説明 ②選択可能な種目の説明（感染対策を考慮した種目） ・硬式テニス、バドミントン、卓球、ゴルフ、バレーボール（ミニ） ・その他ニュースポーツ等を実施の予定 （ゴルフの後半は学外の練習場を利用し実施する。） ③各自が興味のある種目について調査を行う。 ③体力診断テストの説明及び実施一班ごとに実施 「診断テスト」の内容 形態、瞬発力、筋力、反応時間、敏捷性、柔軟性、巧緻性の測定 2 回 【体力診断テスト2】 ・1 回と2 回は連続の時間で実施 1 回で終了していない測定種目の実施 3－1 4 回 【選択した種目毎に実技を実施】 ・種目毎に実技授業を行う。 - 各回の授業では、必ず技術練習を行うことで技術の向上を図り、その後ゲーム等を実施する。 ・3 回目の最初に、体力診断テストの結果を返し、今後行うべき生活習慣等について説明する。 1 5 回 【技術向上度の確認及びまとめ】 種目毎に技術の到達度を確認する。その後、種目毎に実技のまとめを行う。		
授業形態	実技（新型コロナウイルスの感染状況次第では、遠隔授業となる場合がある。）		
到達目標	・各種目を楽しめる知識・技術を習得する。 ・実践時にコミュニティ形成を意識した取り組みができる。 ・体力の向上を意識した取り組みができる。		
評価方法	技術点（30％）と平常点〔参加・意欲・協力(50％)、技術の向上度(20％)〕を合わせて評価する。		
教科書			
参考書・参考文献	図書館に所蔵されているスポーツ関連の書物		
履修条件	－		
科目等履修	不可		
履修上の留意点	選択した種目のルールと技術のポイントは、授業の展開に併せて事前に調べておくこと。種目の担当は、串間、宮元が分担する。		
備考・メッセージ			

講義科目名称： 健康スポーツ科学

授業コード： 10140

英文科目名称： Health and Sports Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	1	必修
担当教員			
◎串間敦郎、田所則子			
普遍分野	人間社会と看護	2 セメスター	3 0 時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	現代社会において「健康」は、獲得するものになってきている。慢性的な運動不足による生理機能の低下や肥満は糖尿病、心臓病などの生活習慣病の発症と大きな関係がある。そこで、本授業では健康・体力の保持増進に関する知識とその具体的方法について学修し、多様な対象者に適した運動処方を作成し、実践できること、そして多様な対象者に合わせたスポーツを体験しその指導ができることを目的として実施する。		
授業計画	1 回 【講義】 「健康体力医学の基礎と運動」 生体の適応や発育発達、疾病と運動処方、体力医学の理論的基礎と運動科学の方法と実際について 2－1 3 回 【演習】 体力や姿勢の測定と評価について及び健康・体力づくりの運動について班ごとに学習する。 各25人ずつの4グループに分かれ、以下の項目について実習する。 ■ A カテゴリー（測定・評価） ・姿勢評価 ・姿勢矯正運動等 ・身体運動（ウォーキング）の運動学的評価法 ・筋の出力様式（筋電計） ・有酸素運動と無酸素運動（エアロバイク） ■ B カテゴリー（健康・体力づくり） ・ストレッチング ・エアロビクスダンス ・マシンエクササイズ（ノーチラスマシン、フリーウエイト） ・ニュースポーツ（グランドゴルフ、フリーテニス、ミニバレー） Aは串間が、Bは田所が担当し、1週毎にA、B交代で受講する。但しAにおいても、マシンエクササイズは実施する。また、10、11回の授業では、体力診断テスト及びマシンエクササイズのMAX測定を実施する。 1 4 回 【運動プログラム発表会】 各班で対象者を特定し、その対象にあった運動プログラム作成し発表する。（各班5分程度） 1 5 回 【講義】 授業のまとめ、提出レポートについて		
授業形態	演習（新型コロナウイルスの感染状況次第では、遠隔授業となる場合がある。）		
到達目標	・健康の保持増進に必要な運動の重要性を理解する。 ・対象に合わせた運動処方を作成できる。 ・体力の向上を意識した取り組みができる。		
評価方法	測定した各自のデータを基に、健康・体力について自己評価等を行ったレポート（70%） 班毎に作成した運動プログラム（10%）、参加・意欲・協力（20%）		
教科書			
参考書・参考文献	『健康・体力づくりハンドブック』 大修館書店 『フィットネスQ&A』 南江堂 『スポーツバイオメカニクス入門』 杏林書院		
履修条件	—		
科目等履修	不可		
履修上の留意点	・演習を欠席し補講も受講しなかった場合は、単位を認めない。 ・授業に必要な資料は毎時間配付する。		
備考・メッセージ			

講義科目名称： ライフスポーツⅡ

授業コード： 10150

英文科目名称： Life and Sports Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	1	選択
担当教員			
◎串間敦郎、田所則子			
普遍科目	人間社会と看護	3 セメスター	3 0 時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	生涯にわたっての健康と体力の保持・増進には、適度の運動が必要である。そのためには、日常生活の中に運動やスポーツを習慣づける事が重要で、その具体的方法等の知識も必要となってくる。 そこで、本授業では、「ライフスポーツⅠ」から発展させ、教員主導ではなく選択した種目について、各自が各回の計画を立て評価を行い、それに沿って主体的にスポーツ活動を行うことで、スポーツ活動での自立を図る。
授業計画	1 回 【オリエンテーション及び種目の選択と計画作成】 ①本授業の目的及び実施方法等の説明 ②選択希望種目について各自が選択する。 「バドミントン」「卓球」「バレーボール」「サッカー」「硬式テニス」（軟式も希望があれば） 「ゴルフ」（後半は集中） 「フィットネス」 （エアロビ、ヒップホップ、ピラティス等と体づくりのトレーニングやエアロバイク等） ③希望した種目について、事前にリサーチを実施する。 技術、ルール、練習方法等 ④希望した種目について次回からの計画（学修カード）の作成 2－1 4 回 【選択した種目毎に実技を実施】 各回の授業の最後では、必ず自己評価を行い、次回の計画の検討を行う。 教員は技術的な指導は行うが、運営管理は極力行わない方針である。 （但し、ゴルフの初心者、フィットネスは除く） また、ゴルフの後半の授業は、学外の練習場及びショートコースを利用する。 1 5 回 【評価】 自己評価の実施とまとめ
授業形態	実技（新型コロナウイルスの感染状況次第では、遠隔授業となる場合がある。）
到達目標	・各種目を楽しめる技術を自己研鑽で習得する。 ・体力の向上を意識した取り組みができる。 ・コミュニティ形成を意識した取り組みができる。
評価方法	平常点〔参加・意欲・協力(50%)、技術の向上度(20%)〕に加えて学習カードの内容（30%）で総合的に評価する。
教科書	
参考書・参考文献	図書館に所蔵されているスポーツ関連の書物
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	種目の担当は、串間、田所が分担する。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 指導論

授業コード： 10421

英文科目名称： Introduction to Creative Teaching

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	選択
担当教員			
◎竹内元 (科目調整担当教員 大館真晴)			
普遍分野	個の尊重と看護	4セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	教育の実際を多角的に分析しながら、指導の特質や関係構造を理解する。		
授業計画	01-07回	【現代的課題と指導の方法】 学校教育の現代的な課題を題材に、実践記録を読み、生活指導の特質と構造を理解する。さまざまな事例検討を通して、指導を支える条件を考察するとともに、教育方法学の基本概念を理解する。	
	08-13回	【指導の関係と過程】 地域生活指導における「自立」支援の実践と訪問看護における「自律」支援の実践の比較を通して、指導の方法における関係性を理解する。看護実践の事例検討や分析を通して、指導のプロセスと視点を理解する。	
	13-15回	【指導の構造と条件】 教育と看護の違いに着目しながら、指導の構造と条件を理解する。	
授業形態	講義		
到達目標	様々な事例を体験・分析することを通して、指導の技術と方法の違いを理解するとともに、他者にはたらきかける視点を獲得する。		
評価方法	レポートと講義における応答において、講義内容の理解度とともに、指導のあり方を探究しようとする態度を評価します。 レポート（80％）、参加度（20％）		
教科書	参考文献等は、講義の中で紹介いたします。		
参考書・参考文献			
履修条件	－		
科目等履修	可		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： 人権論

授業コード： 10180

英文科目名称： Human Rights

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	選択
担当教員			
◎毛利聖子 佐藤信人 他特別講師			
普遍分野	個の尊重と看護	1セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	人権の成立・発展の歴史をふまえ、今日の社会における人権の問題を考察する。		
授業計画	1回～2回	【導入 人権とは何か 人権思想の成立と発展の歴史】 なぜ人権論を学ぶのか？ 看護と人権はどのようにかわるのだろうか？ （＊科目責任者が医療現場における看護師としての実務経験をもとに、人権を学ぶ意義について話します。） 人権思想の歴史について概観	
	3－5回	【日常生活の中の人権問題 被害者と人権】 日常生活の中で突然の事故・事件に巻き込まれた被害者の人権、報道被害による人権被害について像を描く ・事故被害・犯罪被害・報道被害等 被害者支援の発展 ・「交通事故被害における人権」（特別講師） （＊特別講師：笹森義幸さん（宮崎犯罪被害者支援センター、交通事故被害者遺族自助グループ あおぞらの会代表）突然の事故に巻き込まれた被害者家族としての実体験をもとに、被害者遺族として感じ考えてきたことや人間尊重の大切さについて話をさせていただきます。） ・加害者の人権 被害者と加害者をめぐる対話	
	6-8回	【人権をめぐるたたかい 公害と人権 ハンセン病】 ・水俣病（当事者のVTRと支援をしてきた医師についてのVTR） ・ハンセン病について その歴史的経緯 ・「ハンセン病と人権」（特別講師） （＊特別講師：上野正子さん（鹿屋市国立ハンセン病療養所 星塚敬愛園）これまで、数多くの教育機関でハンセンに関する病啓発事業として、ご自身の体験を元に講演をされてきた経験から、ハンセン病と人権について話をさせていただきます。）	
	9回	【薬害】 薬害被害の実態を通し人間がよりよく生きていくための支援やそれを支える力について考える ＊特別講師：全国薬害被害者団体連絡協議会による当事者講演	
	10回	【障がい者と人権】 「障がいのある人の差別と人権について考える」（特別講師） （＊特別講師：山之内俊夫さん（障がい者自立応援センターYAH！DO宮崎 事務局長）頸髄損傷である自己の体験をもとに、これまでの闘病生活も含めて感じてきたことや、これまで多くの障がい者と共に自立に向けての組織を立ち上げ支援されてきた経験から「障がい者と人権」について話しをさせていただきます。）	
	11－12回	【人権と法・制度】（佐藤信人） 法や制度は、どのように人権を護り、あるいは護らなかったのか。真の人権とは何か自ら考える。	
	13回	【今日的課題】 感染症と人権 ＊「コロナウイルス感染症と人権」	
	14-15回	課題レポートについて説明 【課題の発表】 夏期課題（自己学習）で取り組んだことを発表 感染状況によっては、変更があり得る。 ＊科目責任者は、看護師として総合病院に勤務。それらの中の実務経験を教材に活かし、医療現場に於いて患者の人権を護る立場で生活調整をしていく専門家として学生が関心を持って学べるように教材を工夫し、主体的に学べるように展開します。	
授業形態	講義		
到達目標	1. 人権の歴史をふまえて、人権とは何か、人間尊重の重要性を理解する。 2. 日常生活の中の人権問題を主体的にとらえ、人権意識を高めて、自ら生きかつ生かされていることを自覚し、実践する主体の形成をめざす。 3. 人権の発展と社会の発展とが密接につながっていることを理解する。		
評価方法	授業への参加姿勢（10%）、毎回の授業後のレポート（70%）最終課題レポート（10%）、夏季課題（自己学習）の取り組み及び発表（10%）により、総合的に評価します。評価規準・基準に関しては、最初の授業で配布。		
教科書	随時資料配布		

参考書・参考文献	
履修条件	ー
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 英語I (A) (C)

授業コード： 10200 10202

英文科目名称： English I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
◎川北直子			
普遍分野	個の尊重と看護（外国語科目）	1セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	1. 日常的な英語表現の復習・基礎固めをする。 2. 英語でコミュニケーションすることの楽しさを体験する。 3. 異なる文化的背景で生活する人々について理解する
授業計画	1回 【外国語科目オリエンテーション】 ・外国語科目全体のオリエンテーション ・国際交流プログラムについてのオリエンテーション ・自己学習課題の導入 2回 【自己紹介】 【自己学習課題への導入】 ・多聴用素材を用いた自己学習課題に取り組む ・自己紹介スピーチ（オンラインの場合は録画） 3回 【自己紹介】 【大学生活に必要な表現】 ・自己紹介の共有 ・看護大学での生活・学習に必要な表現の導入 4回 【大学生活に必要な表現】 【日本での生活について説明する】 ・Vocabulary Quiz ・日本・宮崎での生活について説明する練習 ・必要な語彙・表現を習得する 5-6回 【日本・宮崎の生活・文化について発信する】 ・日本・宮崎の生活・文化を紹介し、看護大学を案内しよう ・必要な語彙・表現を習得する ・Vocabulary Quiz 7-8回 【もし留学生をホストすることになったら…】 ・「留学生を自分がホストするなら」という状況を想像して、具体的で楽しいプランを考える ・スピーチに必要な語彙・表現を学習する ・Vocabulary Quiz 9回 【Presentation: My hosting plan】 ・発表 10-11回 【日常生活基本表現の習得】 ・日常生活に必要な基本表現を習得し、理解・表現する練習を行う ・Vocabulary Quiz 12-13回 【Life history についての基本表現の習得と対話練習】 ・Life historyの理解・表現に必要な語彙・表現パターンを習得する ・Life historyを聞き出すインタビュー練習 ・プレゼンテーションの練習 ・Vocabulary Quiz 14-15回 【Presentation: My life history】 ・発表 ・互いのlife historyを聴いて、新たな発見をする 16回 【自己学習課題】 リスニング課題の最終提出
授業形態	演習
到達目標	1. 自然な速さの英語を聴くことに慣れる。 2. 日常生活に関わる基本的な語彙力を身につける。 3. 身近な事柄について英語で表現することに慣れる。 4. 異文化理解学習を通して、自己と他者との違いを意識する
評価方法	試験（発表）（①20%, ②30%）、Quiz(20%)、リスニング課題(20%)、その他の学習成果物と授業への積極的な参加(10%)、
教科書	プリントを配布する。
参考書・参考文献	英和辞典・和英辞典（電子辞書可、携帯の辞書使用については授業中に導入する）
履修条件	—
科目等履修	不可
履修上の留意点	注）英語Ⅰの授業は4クラスに分けます。クラス編成は、初回授業日の前日までに掲示します。毎回の授業参加に必要な自主学習を課すので、授業に主体的に参加できるよう必ず準備してください。

講義科目名称： 英語 I (B) (D)

授業コード： 10201 10203

英文科目名称： English I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
◎ Joel Hensley			
普遍分野	個の尊重と看護（外国語科目）	1セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	1. 日常的な英語表現の復習・基礎固めをする 2. 英語でコミュニケーションすることの楽しさを体験する The purpose of this class is to enjoy using English to communicate in order to review and improve basic skills.		
授業計画	1回 外国語科目オリエンテーション Orientation to the language program and language lab 2回 ・外国語科目全体のオリエンテーション ・LL教室の利用法オリエンテーション（機器の使い方、LL準備室の資料について） 授業・自己紹介 Our class plan and how to do the weekly homework 3-9回 ・英語 I のオリエンテーション ・定期的な課題方法のオリエンテーション ・自己紹介 日常コミュニケーション Making natural conversation 10回 ・沢山話す・聞くことに基づいて日常生活の必要な表現と語彙を覚え、英語でコミュニケーションをとることを練習行う ・話す・聞くことを中心にする ・日常生活に関する会話の中、英語で自分の考えを理解してもらうことに慣れていく 口頭試験 Speaking test 11回 非言語コミュニケーション Nonverbal communication ・非言語コミュニケーションを触れながら、国際的なじえ ・国際的なジェスチャーと身振り手振りを試しながら、適切なボディランゲージについて考える ・自分の距離感、近接について考えた上、より良いコミュニケーションスタイルに慣れていく 12-15回 生活過程インタビュー Life process interview ・日常生活における習慣やパターンについて相手をインタビューして、相違点を見出していく ・日常生活上の英語表現を活かす ・生活過程を英語で説明を行う		
授業形態	演習		
到達目標	1. 安定したリスニングの力をつける 2. 日常生活に関わる基本的な語彙力を身につける 3. 身近な事柄について英語で表現することに慣れる 1. Become comfortable with, and improve listening skills 2. Increase vocabulary related to daily life 3. Get used to communicating about familiar topics		
評価方法	提出課題（25%）、最終試験（25%）、授業内外での学習成果物と授業への貢献度（25%）、発表（25%）		
教科書	授業の資料を配布するので、ファイルやフォルダーを取得してください		
参考書・参考文献	毎回の授業参加に必要な自主学習を課すので、授業に主体的に参加できるよう必ず準備してください		
履修条件	—		
科目等履修	可		
履修上の留意点	・英語 I の授業は2グループに分かれて行い、必要に応じて4グループに分ける ・クラス編成は、初回授業日の前日までに掲示する		
備考・メッセージ			

講義科目名称： 英語II (A) (C)

授業コード： 10210 10212

英文科目名称： English II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	必修
担当教員			
◎川北直子			
普遍分野	個の尊重と看護（外国語科目）	2セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	1. 英語 I での学習をふまえて、日常生活レベルの基本的なコミュニケーション能力を身につける。 2. スピーキング、リスニング、ライティング、リーディングなど全ての技能を総合的に身につける。 3. 異文化への関心を持つ
授業計画	1-2回 【導入・My life history】 ・コースの概要説明、オリエンテーション ・お互いをよりよく理解しあうための英語表現練習 3-8回 【Presentation project ①：自己の考えをわかりやすく伝えよう】 ・プレゼンテーションのテーマに沿った語彙学習及び修得した語彙を使っでのコミュニケーション練習 ・グループでのproposal presentationを通して、目的に合った表現を身につける *テーマは授業中に指示します。 9-15回 【Presentation project ②：異文化理解をもとに、役に立つ情報を提供しよう】 ・テーマに沿った語彙学習 ・異文化理解学習 ・リサーチを土台に、日本で生活を始める外国人の方々に役立つ情報とは何かを考える。 (トピック：異文化での生活様式、習慣、儀礼、家族の生活、コミュニケーションの特徴など) ・group presentationを通して、聞き手を意識した表現を身につける
授業形態	演習
到達目標	1. 日常生活語彙・よく使われる表現の知識を増やす。 2. 生活習慣・ライフスタイルについて英語で描写する力を身につける。 3. 文化的背景の異なる相手の立場に立って、必要な情報とは何か考えられる。 4. 目的に合った発表を組み立てられる。
評価方法	授業内外での学習成果物(40%)、プレゼンテーション(30% X 2)
教科書	プリントを配布する。
参考書・参考文献	英和辞典・和英辞典（電子辞書可、携帯の辞書については、授業中指示する）
履修条件	英語I既修得
科目等履修	不可
履修上の留意点	※授業は4クラスに分けて少人数で行います。毎回の授業参加に必要な自主学習を課すので、授業に主体的に参加できるよう必ず準備してください
備考・メッセージ	

講義科目名称： 英語 II (B) (D)

授業コード： 10211 10213

英文科目名称： English II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	必修
担当教員			
◎ Joel Hensley			
普遍分野	個の尊重と看護（外国語科目）	2セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	1. 英語 I での学習をふまえて、日常生活レベルの基本的なコミュニケーション能力を身につける 2. スピーキング、リスニング、ライティング、リーディングなど全ての技能を総合的に身につける 1. The purpose of this class is to improve your communication skills for everyday life based on what was covered in English I. 2. It will improve all four language skill areas: speaking, listening, reading, and writing.		
授業計画	1回 導入 Introduction to class ・コースの概要説明、オリエンテーション ・授業方法の紹介 2回 国際英語 Introduction to class flow and the weekly homework ・授業の流れへの紹介 ・定期課題の紹介 3-7回 生活プロジェクト Lifestyle project 日常生活語彙の習得／それらを用いたコミュニケーション練習 ・テーマに沿いながらの語彙学習及び修得した語彙を使つてのコミュニケーション練習（トピック：文化、習慣、家族） ・話す・聞くことを中心にする ・日常生活に関する会話の中、英語で自分の考えを理解してもらうことに慣れていく 8回 生活トーク 口頭発表 9-14回 文化とコミュニケーション Culture and communication 健康・看護に関連のある基本的な語彙の習得／それらを用いたコミュニケーション練習 ・テーマに沿いながらの語彙学習 ・資料（リーディング・リスニング）を土台に、会話を中心としたコミュニケーション練習（トピック：食事、健康など） 15回 グループ発表 Group culture presentation ・異文化における日常生活に関して少人数のグループで発表する		
授業形態	演習		
到達目標	1. 日常生活語彙・よく使われる表現の知識を増やす 2. 生活習慣・ライフスタイルについて英語で描写する力を身につける 3. 事実をふまえて自分の考えを表現し、他者との違いを意識する 1. Increase your knowledge of daily life vocabulary and expressions 2. Improve your ability to express yourself in English on daily customs and lifestyle 3. Express your opinion based on facts, and be conscious of others' differences		
評価方法	25% 提出課題 25% 口頭試験 25% 発表 25% 授業内外での学習成果物と授業への貢献度		
教科書	授業の資料を配布するので、このクラス専用のファイルやフォルダーをもってください		
参考書・参考文献	毎回の授業参加に必要な自主学習を課すので、授業に主体的に参加できるよう必ず準備してください		
履修条件	英語 I 既修得		
科目等履修	可		
履修上の留意点	※その他、学習内容に関連のあるリーディング／ライティング課題に取り組む ※授業は4クラスに分けて少人数で行います。毎回の授業参加に必要な自主学習を課すので、授業に主体的に参加できるよう必ず準備してください。		
備考・メッセージ			

講義科目名称： 英語 III (A) (C)

授業コード： 10220 10222

英文科目名称： English III

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	必修
担当教員			
◎ Joel Hensley			
普遍科目	個の尊重と看護（外国語科目）	3セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	話し言葉や書き言葉における表現の違いの理解を深め、それを自己表現につなげていく The purpose of this class is to improve your communication skills by understanding the differences between spoken and written English.		
授業計画	1回	導入・テスト コースの説明・クラス分けテスト (詳細なシラバスは、各クラスで配布する)	
	2-7回	生活調査とプレゼンテーション Lifestyle survey and presentation 生活過程に関する記録調査を行う ・生活過程に関連するトピックに関する記録調査を作成し、調査を行う ・グループで調査結果を分析し、プレゼンテーションを作成する	
	8-15回	半構造化インタビューとその報告 Semi-structured individual interview 半構造化インタビューに基づいてより深く相手のことを理解し、その結果を報告する 1. グループ分けを行い、テーマ・質問内容を計画する 2. インタビュー質問作成 3. 半構造化インタビューを行う 4. 結果まとめ・報告準備 5. 報告	
授業形態	演習		
到達目標	1. 日常生活レベルの語彙をそれぞれのレベルに合わせて増やしていく 2. 情報収集に基づく議論の組み立て、およびそれらを分かりやすくかつ説得力ある形で英語によって表現することを学ぶ 1. Increase various vocabulary used in daily life 2. Discuss data collected and learn to express them in an easy and persuasive manner		
評価方法	30% 交流グループインタビュー発表 30% 個人インタビュー報告 40% 提出課題の質と講義への貢献度		
教科書	授業の資料を配布するので、ファイルやフォルダーを取得してください		
参考書・参考文献	毎回の授業参加に必要な自主学習を課すので、授業に主体的に参加できるよう必ず準備してください		
履修条件	英語II既修得		
科目等履修	可		
履修上の留意点	※授業は4クラスに分けて少人数で行います。毎回の授業参加に必要な自主学習を課すので、授業に主体的に参加できるよう必ず準備してください。		
備考・メッセージ			

講義科目名称： 英語III(B)(D)

授業コード： 10221 10223

英文科目名称： English III

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	必修
担当教員			
◎川北直子			
普遍科目	個の尊重と看護（外国語科目）	3セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	1. 話し言葉や書き言葉、表現する相手によって異なる表現方法について理解を深め、それを自己表現につなげていく。 2. アカデミックスキルと英語表現の習得を融合した学習を行う。
授業計画	1 回 【導入・テスト】 コースの説明・クラス分けテスト (詳細なシラバスは、2 回目に各クラスで配布する) 2-3 Project ① Presentation movie 1. 'Fun (and safe) things to do while stuck at home during coronavirus outbreak' オーディエンスの興味をひく 3 分間の動画プレゼンテーションを作成する 2. 動画視聴・コメント 4-9 Project ② Questionnaire survey & presentation 看護大生を対象とした口頭アンケート調査と報告】：デザイン・調査・分析 1. テーマを決定する 2. 調査計画（英語）作成 3-4. 調査 5. 記録・集計・まとめ 6. 発表準備 10 Presentation 11-15 Project ③ Introduction to Miyazaki Prefectural Nursing University 私たちの大学について紹介しよう】：プレゼンテーションのための学習 情報収集および資料作成／英語プレゼンテーションのための準備と練習 1. 導入：構成・必要な情報・語彙について 2. 原稿作成 3. 発表準備 16 Presentation ・グループ発表 ・フィードバック
授業形態	演習
到達目標	1. 日常生活レベルの語彙をそれぞれのレベルに合わせて増やしていく。 2. 情報収集に基づき、図表を示しながら英語で分かりやすく説明できるようになる。 3. 他者に関心を持ち、相手の立場に立って質問を引き出すことができる。
評価方法	プレゼンテーションプロジェクト(①30% ②40%)， 特別プロジェクト（グループ課題への貢献：15%，提出課題：15%）
教科書	随時、資料を配布する
参考書・参考文献	英和辞典・和英辞典（電子辞書可、携帯の辞書については授業中に指示する）
履修条件	英語II既修得
科目等履修	不可
履修上の留意点	※授業は4クラスに分けて少人数で行います。毎回の授業参加に必要な自主学習を課すので、授業に主体的に参加できるよう必ず準備してください。 ※「発表」は「試験」と同じ扱いとします。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 英語 IV (A) (C)

授業コード： 10230 10232

英文科目名称： English IV

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
◎ Joel Hensley			
普遍科目	個の尊重と看護（外国語科目）	4セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	1. 英語IIIまでの学習を土台とし、語彙・表現能力を引き続き身につける 2. 異文化を生活背景とする人に関心を持ち、生活観・価値観を理解するとはどういうことか考える			
授業計画	1回	導入 コースの説明と導入：看護学生のための異文化理解とは		
	2回	講義体験 担当教員による模擬講義体験		
	3-4回	準備学習①② 講義理解のための事前学習：文化的背景についての予備調査①②		
	5回	特別講義①② 異文化理解のための英語講義体験①②		
	6回	確認・まとめ①② 講義①②の内容確認、まとめ		
	7-8回	準備学習③④ 講義理解のための事前学習：文化的背景についての予備調査③		
	9回	特別講義③④ 異文化理解のための英語講義体験③④		
	10回	確認・まとめ③④ 講義③④内容確認、まとめ		
	11-12回	準備学習⑤⑥ 講義理解のための事前学習：文化的背景についての予備調査⑤⑥		
	13回	特別講義⑤⑥ 異文化理解のための英語講義体験⑤⑥		
	14回	確認・まとめ⑤⑥ 講義⑤⑥内容確認、まとめ		
	15回	総まとめ 全体の振り返りとディスカッション		
	16回	テスト		
	授業形態	演習		
	到達目標	1. 相手の文化的背景を知るために必要な視点を学び、相手の表現を正しく理解し、必要な情報を引き出す 2. 適切な情報を収集するために必要な準備とは何か学ぶ 3. 入手した情報を英語で発信できるようになる。それに伴い語彙の幅も広げていく。		
	評価方法	提出課題の質と講義への貢献度(60%)、最終テスト(40%)		
教科書	随時、プリントを配布する			
参考書・参考文献	英和辞典・和英辞典（電子辞書可、携帯の辞書は不可）			
履修条件	英語III既修得			
科目等履修	可			
履修上の留意点	授業は4クラス、特別講義日は2クラスに分けて行います。積極的な参加が必要です。			
備考・メッセージ				

講義科目名称： 英語IV(B)(D)

授業コード： 10231 10233

英文科目名称： EnglishIV

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
◎川北直子			
普遍科目	個の尊重と看護（外国語科目）	4セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	1. 英語IIIまでの学習を土台とし、語彙・表現能力を引き続き身につける。 2. 異文化を生活背景とする人に関心を持ち、看護大生として生活観・価値観を理解するとはどういうことか考える。
授業計画	1回 【導入】 コースの説明と導入：看護学生のための異文化理解とは 2回 【講義体験】 担当教員による模擬講義体験 3-4回 【準備学習①②】 講義理解のための事前学習：文化的背景についての予備調査①② 5回 【特別講義①②】 異文化理解のための英語講義体験①② 6回 【確認・まとめ①②】 講義①②の内容確認、まとめ 7-8回 【準備学習③④】 講義理解のための事前学習：文化的背景についての予備調査③ 9回 【特別講義③④】 異文化理解のための英語講義体験③④ 10回 【確認・まとめ③④】 講義③④内容確認、まとめ 11-12回 準備学習⑤⑥ 講義理解のための事前学習：文化的背景についての予備調査⑤⑥ 13回 【特別講義⑤⑥】 異文化理解のための英語講義体験⑤⑥ 14回 【確認・まとめ⑤⑥】 講義⑤⑥内容確認、まとめ 15回 【総まとめ】 全体の振り返りとディスカッション 16回 【テスト】
授業形態	演習
到達目標	1. 看護大生として相手の文化的背景を理解するために必要な視点を学び、相手の表現を正しく理解し、必要な情報を引き出す。 2. 適切な情報を収集するために必要な準備とは何か学ぶ。 3. 入手した情報を英語で発信できるようになる。それに伴い語彙の幅も広げていく。
評価方法	提出課題・発表の質・授業への貢献度(10%×6=60%)、最終試験(40%)
教科書	随時、プリントを配布する
参考書・参考文献	英和辞典・和英辞典（電子辞書可、携帯の辞書は許可されたものに限る）
履修条件	英語III既修得
科目等履修	不可
履修上の留意点	授業は4クラス、特別講義日は2クラスに分けて行います。積極的な参加が必要です。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 看護英語

授業コード： 10240

英文科目名称： English for Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3, 4年	1	選択
担当教員			
◎ Joel Hensley			
添付ファイル			

授業の目的・概要	目的 1. 会話練習を通して、対象の生活様式・文化を配慮したコミュニケーションについて考える 2. 病院・施設でよく用いられる基本的な定型表現、看護技術・知識に関する基本的な英語表現を学ぶ 到達目標 1. 生活過程に関するトピックを英語で会話の練習を重ねる 2. 病院・施設での定型表現を覚えて使うことができる 3. これまでに学んだ基本的な看護技術・知識を英語で伝えることができる 4. 日本語が話せない対象に、生活・文化などを配慮しながらコミュニケーションができる		
授業計画	1回 導入 コースの説明・オリエンテーション 2-5回 様々な文化的背景を意識した対象との関わり方や必要な表現を学ぶ 2. 異文化間コミュニケーションに必要な意識・文化的背景の相違を知る 3. 異文化間看護場面での自己紹介・状況説明の際に必要な意識・表現を学ぶ 6-8回 対象を理解するためのコミュニケーションに必要な基本表現を学ぶ プレゼンテーション 1 これまでの異文化間看護に関する学習内容を盛り込んだ、看護師と対象・対象の家族のコミュニケーションを想定したロールプレイを発表する 9-12回 異文化間看護場面における治療・処置の過程の説明に必要な知識と表現を学ぶ 8. 非言語コミュニケーション：身ぶりや対人距離的感觉など、対象に不快感を与えないために知っておくべき文化的特徴について学ぶ 9. 許可・希望の確認： 対象の文化的制約などを確認し、必要な許可を求めたり、対象の希望を確認する練習を行う 13-15回 10. 過程説明： 治療・処置の過程において必要な説明を加えるために必要な知識と表現例を学ぶ プレゼンテーション 2 対象についての病状と生活・文化的背景を設定し、看護動作を行いながら必要な説明・確認を行う場面を想定した発表を行う		
授業形態			
到達目標			
評価方法	授業中の積極的な参加 (25%) 課題と小テスト (25%) プレゼンテーション 1 (25%) プレゼンテーション 2 (25%)		
教科書	プリントを配布する		
参考書・参考文献	英和辞典・和英辞典 (アルク英辞郎 on the web がおすすめ)		
履修条件			
科目等履修			
履修上の留意点			
備考・メッセージ	自発的な参加を必要とします。そのための予習・復習にも積極的に取り組むこと		

講義科目名称： 英語講読（ER）

授業コード： 10260

英文科目名称： Extensive Reading

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	選択
担当教員			
◎川北直子			
普遍分野	個の尊重と看護（外国語科目）		1セメスター
			30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	1. 英語で「読書する」訓練を集中的に行い、英語の基礎力を底上げし、reading, writing, listening, speaking全般の技能の向上につなげる。 2. 読んだ本について、人に伝える練習をする。
授業計画	1 回 【オリエンテーション／テスト】 ・語彙力、読解力を中心とした英語力を各自が把握した上で、英語読書の仕方、洋書の選び方を学ぶ。 ・導入用の本を1冊選んで、実際に英語読書を体験し、リアクションレポートの書き方を学ぶ。 2－14回 【Interactive Reading Community(IRC)を使った英語読書交流と教室内での読書交流】 ・各自のレベル・関心にあわせて毎回「読みやすい」本を選び、読書後リアクションレポートを作成・投稿する。また、受講者同士でコメントを送りあうことで、読書交流をはかる。最低64,000語の読破を目標とする。 15回 【最終レポート作成・投稿】 各自の英語読書・レポートをふり返し、他の読者のレポートと自分のレポートを比較分析し、読みの質をさらに深める。 16回 【アセスメントテスト】
授業形態	演習
到達目標	1. 比較的平易な読み物を速く大量に読むことによりsight vocabulary（瞬間的に理解できる語彙）を増やす。 2. 和訳ではなく、全体の流れを把握する力を身につける。 3. 読書交流を通して、「読み」「表現」への意欲を高める。
評価方法	読書交流への貢献度とReaction reportの投稿(80%+読書量に応じて最大15%)、最終レポート(5%)
教科書	プリントを配布する。
参考書・参考文献	英和辞典・和英辞典（電子辞書可、携帯の辞書については、授業中に指示する）
履修条件	
科目等履修	不可
履修上の留意点	英語が苦手な人のための講義です。 受講生が多い場合、授業は2クラスに分けて行います。 細かい指示は授業中およびオンライン（講義のページ）で行います。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 英語海外研修

授業コード： 10300 10301

英文科目名称： English for Study Abroad

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中（前期／後期）	1, 2, 3, 4年	1	選択
担当教員			
◎川北直子			
普遍分野	個の尊重と看護（外国語科目）	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	1. 目的に沿った研修計画を立て、自立した海外研修に必要な準備とは何がを考える。 1. 実際に、異なった文化や社会を体験し、英語や異文化理解に向けたさらなる学習への意欲につなげる。 2. 英語の必要性を実感し、運用能力を向上させる。
授業計画	1 回 【オリエンテーション】 ・ 授業内容、履修条件の説明，日程調整 ・ 個別相談 2 回 【「自分にあった海外研修を企画する」とは？】 ・ 海外旅行で知っておくべき一般的な手続きや知識を身につける。 ・ 海外研修のパターンについて学び、希望する内容・予算・研修地の候補をあげ、どのように形にしていくなかを考える。 3－4 回 【自己の安全管理・健康管理に向けた現地情報収集】 ・ 外務省渡航安全情報を利用し、希望する研修地の安全情報・感染情報を各自で調べ、自己の安全と健康を確保しながら現地での研修を楽しむための計画を練り、事前準備を整える。 ・ 海外旅行保険について学習し、必要な手続きを行う。 5－6 回 【研修の充実へ向けた情報収集と計画】 ・ 研修目的を十分に果たすため、現地情報や旅行企画商品情報を収集し、どれが研修目的や予算に合っているか比較し、選定していく。また、どのような準備や工夫が必要なのかを考える。 7－8 回 【出発直前の確認 海外旅行のための英会話】 ・ 計画書・緊急連絡先を含むワークシート・研修届・保護者の同意書の提出。 ・ 海外旅行に必要な英語表現を習得し、会話練習をする。 ・ 英語日記を書くスピードをあげる練習。 ・ 出発まで、個別相談・確認を行う。 ・ 大学のプログラムに参加する履修生は、別途プログラム事前学習会に出席する。 9－15 回 【研修（各自）】 ・ 原則として、2週間以上の現地滞在による海外研修を行う。 【研修後】 ・ 現地での日記（英語）と体験記（日本語、学内WEB公開）を提出する
授業形態	演習
到達目標	1. 海外への旅行、研修に向けての準備を自立して行うために必要な知識をつける。 2. 研修先の現地情報を自立して収集し、安全管理・健康管理を自立して行うことができるようになる。 3. 海外への旅行、研修に必要な英語運用能力を養う。
評価方法	事前学習に基づく提出物（ワークシート）（30%）、事前学習への意欲的な取組（20%）、研修後の提出物（50%）
教科書	
参考書・参考文献	・ 研修希望地域についての旅行ガイドブック ・ 旅行会社の企画パンフレット等
履修条件	—
科目等履修	不可
履修上の留意点	・ 4月に事前講義の日程を決めます。3月に研修予定の人も4月に1度出席すること。 ・ この科目は実質的に欠席を認めません。やむを得ず授業日に欠席しなければならないときには、必ず個別に補講を受けること。 ・ これは、Independent Study Program です。研修計画は指導の下各自で行い、現地研修に引率はつきません。両親、保護者の了解を得た上で、事前に英語科の教員と受講相談すること。 ・ 大学（国際交流委員会）主催のプログラム参加者も履修できます。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 韓国語I

授業コード： 10310

英文科目名称： Korean I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	選択
担当教員			
◎韓 壽燕 (分野調整担当教員 川北直子)			
普遍分野	個の尊重と看護 (外国語科目)	1セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	韓国語を学んでいく過程を通じ、韓国のことばのみならず人や文化にも興味を持ち積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢とスキルを身につけることを本授業の目的とする。 進んではこの授業での経験が様々な異文化を持つ他人への興味と積極的なコミュニケーションにつながる事を期待する。		
授業計画	01回 【オリエンテーション】 ・授業概要説明 ・韓国語で初めてのあいさつに挑戦 ・自分の名前をハングルで書いてみることでハングルの仕組みを知る 02-06回 【韓国語の文字と発音】 ・韓国語の発音とその音を表記するハングル文字を学ぶ。 ・人名・地名など日本語の固有名詞のハングル表記 ・基本のあいさつ ・漢数字 1 ～ 1 0 07回 【文字と発音まとめ】 *「文字と発音」の復習 *「文字と発音」まとめテスト 筆記：韓国語の発音と文字に関する基本的な知識、基本のあいさつ 口頭：既習のハングル単語カード読み 08- 9 回 【自己紹介】 ・初めての人とあいさつする ・自己紹介ができる 10-11回 【家族紹介】 ・家族について話す ・家族の紹介ができる 12-13回 【場所を訊く】 ・場所を訊く ・確認する 14-15回 【モノの有無・位置】 ・モノの有無や位置について話す 16回 【期末試験】 *自己紹介スピーチ 初対面のあいさつ、名前、所属、趣味などを含む自己紹介		
授業形態	講義、ペアワーク、グループワーク		
到達目標	・韓国語の発音と文字を覚え、看板・メニューなどハングルで書いてあるものが読める ・自分の名前や日本の地名などの固有名詞がハングルで書ける ・韓国語の基本的なあいさつを交わすことができる ・韓国語で自分や家族のことについての簡単な質問に答えられる。 ・モデル会話の背景にある韓国文化・韓国事情を知り、自ら興味を持つようになる。 ・簡単な自己紹介が韓国語でできる。		
評価方法	<授業への参加度・課題>45% 授業への参加15%、 課題(15回分)30% <中間試験>30% ①筆記試験20% 発音と文字に関する基礎知識、基本のあいさつ（選択式） ②口頭試験10% 単語読み(既習のハングルを正しく読む) <期末試験>25% 自己紹介スピーチ 評価基準 ①自己紹介として適切な表情や態度、声量など声量でスピーチが出来ているか ②内容がはっきりと伝わっているか ③文章、発音などが韓国語として自然で流暢であるか		
教科書	『パラッセ韓国語会話入門』金京子（2014）朝日出版社		
参考書・参考文献	『さらさら韓国語』野間秀樹・金珍娥・中島仁・須賀井義教（2010）同学社		
履修条件	第1回目の公開授業に出席した者のみ受講可		
科目等履修	否		
履修上の留意点			

備考・メッセージ	外国語の学習は積み重ねが肝心です。欠席しないよう心かけ、授業中の活動や課題などに積極的に取り組みましょう。
----------	---

講義科目名称： 韓国語Ⅱ

授業コード： 10311

英文科目名称： KoreanⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	選択
担当教員			
◎韓 壽燕 (分野調整担当教員 川北直子)			
普遍分野	個の尊重と看護 (外国語科目)	2セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	韓国語を学んでいく過程を通じ、韓国語のみならず韓国の人や文化にも興味を持ち、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢とスキルを身につけることを本授業の目的とする。 進んでは、この授業での経験が様々な異文化を持つ他人への興味と積極的なコミュニケーションにつながる事を期待する。		
授業計画	1回	【夏休みのことを話す】 ・夏休みのことを話す ・韓国関連の各自興味のある分野（音楽・アイドル・料理など）を調べてきてグループ内で披露 ・文化体験授業のテーマを決める	
	2回	【趣味】 会話練習 ・趣味について話す ・好き嫌いを言う	
	3回	【職業・夢】 会話練習 ・職業や夢について話す ・相手の意向を聞く	
	4回	【買い物】 会話練習 ・買い物をする ・値段を聞き取る ・モノを比較する ロールプレイ準備1（グループ）	
	5回	【注文】 会話練習 ・注文する ・計算する ロールプレイ準備2（グループ）	
	6回	【会話テスト1】 会話テスト：趣味・夢についての質問に答える ロールプレイ準備3	
	7回	【買い物・注文ロールプレイ】 ロールプレイ ・模擬店の形式で買い物、注文、お金のやり取りを体験する	
	8回	【誕生日】 漢数詞・日付・曜日の言い方を覚える 会話練習 ・誕生日について話す ・他人と比較する	
	9回	【時間】 固有数字・時間の言い方を覚える 会話練習 ・日程や予定について話す	
	10回	【道を訊く】 会話練習 ・道を訊く ・道案内をする	
	11回	【会話テスト2】 会話テスト：誕生日・自宅の場所についての質問に答える 文化体験実習準備	
	12回	【文化体験】 夏休みの宿題として持ち寄った興味ある分野について、第1回目の授業でクラスで決めた韓国文化のテーマ（例：食・ファッション・音楽・映画など）を体験	
	13回	【経験】 会話練習 ・冬休みのことを話す ・ショッピングについて話す ・希望を言う	
	14回	【味】 会話練習 ・味について話す ・理由をたずねる	

	15回 【天気】 会話練習 ・天気について話す ・自然現象をいう 16回 【期末試験】 スピーチ：冬休みのことを感想を交えて述べる
授業形態	講義、ペアワーク、ロールプレイ、文化体験実習
到達目標	・趣味、好きな事、誕生日、住んでいるところなど日常の身近なことについて韓国語で簡単な会話のやり取りができる ・モデル会話の背景にある韓国文化・韓国事情を知り、自ら積極的に興味を持つようになる。 ・文化体験授業を通じ、異文化への興味を深める ・ロールプレイを通じ、韓国語を使つての注文や買い物の場面でのやり取りに自信がつく。 ・自分の経験したこと、その感想を韓国語でまとめて述べられる。
評価方法	<授業への参加度・課題> 40% 授業への参加16% 課題(12回分)24% <ロールプレイ> 準備、ロールプレイ (5%) <文化体験実習> 準備、実習、感想文 (10%) <会話試験1> 趣味・将来の夢についての質問に、自分のことを韓国語で答える (15%) <会話試験2> 誕生日・今住んでいるところや出身地のことについての質問に、自分のことを韓国語で答える (15%) <スピーチ>15% 冬休みの間にしたことについて感想を交えて述べる ※口頭試験の評価基準 ①質問が正確に聞きとれていて、的確な内容の答えをしているか ②質問が聞き取れなかったり確認したいとき聞き返すことができているか ③適切なスピード、声の大きさ、発音で話している内容が十分に伝わっているか ④スピーチの場合は、スピーチに適切な内容にまとめられ、聞き取れる韓国語で発表できているか
教科書	『パランセ韓国語会話入門』金京子(2014)朝日出版社
参考書・参考文献	『さらさら韓国語』野間秀樹・金珍娥・中島仁・須賀井義教(2010)同学社
履修条件	「韓国語Ⅰ」を履修していること、もしくはそれに準ずる韓国語の予備知識があること
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	外国語の学習は積み重ねが肝心です。欠席しないよう心かけ、授業中の活動や課題などに積極的に取り組みましょう

講義科目名称： 中国語I

授業コード： 10320

英文科目名称： Chinese I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	選択
担当教員			
◎関 黎明 (分野調整担当教員 川北直子)			
普遍分野	個の尊重と看護 (外国語科目)	1セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	中国語 I は初めて中国語を学習する学生を対象として、ゼロから勉強を始める講義である。基礎の発音を重視しつつ、少しずつ語彙を増やし、基礎の会話の土台を作った上で、簡単な日常会話程度の語学力をマスターすることを目的とする。これによって初歩的なコミュニケーション能力を身につけると同時に、中国・中国文化に対する理解を深め、中国語を学ぶ意欲が一層アップすることを期待する。
授業計画	中国語 I 01回 【オリエンテーション】 中国語とはどんな言葉なのか、中国語の歴史、漢字の移り変わり、現代中国語の特徴などを日本語や英語などの外国語と比較しながら解き明かす。 02-06回 【発音の基礎】 発音 中国語のピンイン (アルファベット・ローマ字) の発音、音節の仕組み、声調および表記法。 簡単な挨拶、数字の言い方。 07-14回 【会話と文法】 第1課 ”是” の文 第2課 名前の言い方 第3課 形容詞の文 第4課 誕生日と電話番号の言い方 15回 【総まとめ】 習った内容のまとめ・復習 16回 【期末試験】 口頭試験あるいは筆記試験
授業形態	講義
到達目標	以下の項目をマスターできることを目標とする ・正しい中国語のピンイン (アルファベット・ローマ字) の発音 ・日常的な挨拶、簡単な日常会話 ・簡単な自己紹介、家族の紹介
評価方法	平素の小テスト40%、定期試験及び実力テスト60%、計100%
教科書	新版『中国語 10 課』方 如偉・王 智新・鐙屋 一 著 白水社
参考書・参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 相原茂 編著 朝日出版社
履修条件	—
科目等履修	否
履修上の留意点	毎回の授業は必ず教科書とプリント及び必要な学習道具を持参して参加してください。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 中国語Ⅱ

授業コード： 10321

英文科目名称： ChineseⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	選択
担当教員			
◎関 黎明 (分野調整担当教員 川北直子)			
普遍分野	個の尊重と看護 (外国語科目)	2セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	中国語Ⅱは中国語Ⅰの基礎を習った上で、実施する講義である。授業中色々なテーマを設けて楽しく自由会話を練習することができ、すぐ使える実用的なコミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。これによって中国語会話の勉強を通じて中国文化の背景や中国の現状を知り、学生の異文化への理解ができ、物事の見方の視野や社会生活必須な常識がもっと広げられることを期待する。
授業計画	中国語Ⅱ 01回 【復習】 中国語Ⅰで習った内容をもう一度確認する。 02-14回 【会話と文法】 第5課 動詞の文・時間の表現 第6課 所有・所在の表現 第7課 値段を尋ねる 第8課 状況を尋ねる・趣味の表現 第9課 経験文の表現 第10課 レストランで注文する 15回 【総まとめ】 習った内容のまとめ・復習 16回 【期末試験】 口頭試験あるいは筆記試験
授業形態	講義
到達目標	以下の項目をマスターできることを目標とする ・自分の願望と趣味の表現 ・行きたい場所を尋ねる ・ショッピング
評価方法	平素の小テスト40%、定期試験及び実力テスト60%、計100%
教科書	新版『中国語10課』方 如偉・王 智新・鎧屋 一 著 白水社
参考書・参考文献	『初めての中国語学習辞典』 相原 茂 編著 朝日出版社
履修条件	中国語Ⅰを履修したものとする。
科目等履修	否
履修上の留意点	毎回の授業は必ず教科書とプリント及び必要な学習道具を持参して参加してください。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 日本語表現法I

授業コード： 10360

英文科目名称： Japanese Communication I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
◎大館真晴			
普遍分野	文化と看護	1セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	母語によるコミュニケーション能力は、理解力・論理的思考力・伝達力などを総合的に必要とし、全て、物事を行うときの基本となる能力である。本講義では日本語によるコミュニケーション能力（読む力・書く力）の養成を目的とする。		
授業計画	1 回 【考えを文字化すること①】 自分の考えを文字化するとはどういうことか、その行為の要点を学びます。 レポート・報告とは他者にとある物事の経緯や様態を伝えることです。 第1回目の講義では、課題レポートの作成を通して、そのことを学びます。 課題レポートの解説は第3回目以降の講義をとおして行います。 【課題】 レポート作成、メールで指示をだします。 2 回 【考えを文字化すること②】 第1回目引き続き、自分の考えを文字化するとはどういうことか、その行為の要点を学びます。 第2回目の講義では、課題レポートの作成を通して、以下のことを学びます。 課題レポートの解説は第3回目以降の講義をとおして行います。 1. 調べて書くということ 2. 目的によって異なる文章区分の理解 2. 読み手が期待する文章を書く訓練 【課題】 レポート作成、メールで指示をだします。 3 回 【事実と意見の区別】 1. 「事実」と「意見」の書き分け 2. 「判断」と「客観性」についての理解 【課題】授業の復習と予習をすること 4 回 【適切な語の選び方】 1. 曖昧さを避けた表現の習得 2. 感情表現を避ける技術の習得 【課題】授業の復習と予習をすること 5 回 【読み手が理解しやすい文】 1. 正しくしく伝わる文の基本法則 2. 読み手に負担をかけない視点のとり方 【課題】授業の復習と予習をすること 6 回 【読み手の期待に添って展開する文章】 1. 文と文を上手につなげる技術の習得 2. 読み手を引きつけながら展開する文章作法の習得 【課題】授業の復習と予習をすること 7 回 【文体の統一】 1. 理論的な文書に求められる文体の習得 2. 文末表現以外でなければならない文体の統一 【課題】授業の復習と予習をすること 8 回 【読点の打ち方】 1. 読点の役割の理解 2. 読み誤りがないように読点を利用する技術の習得 【課題】授業の復習と予習をすること 9－12 回 【レポート・論文の書き方】 1. 基本的な「型」の習得 2. 基本的な「型」を使った実践訓練 【課題】授業の復習と予習をすること 13－14 回 【履歴書・エントリーシートの書き方】 15 回 1. 自分をアピールする表現の習得 【課題】授業の復習と予習をすること 【Eメール・手紙の書き方】 1. 確実に伝える文章技術の習得 2. 的確な通信方法を選択する能力の養成 【課題】授業の復習と予習をすること		
授業形態	講義		

到達目標	1. 文章構成能力の養成 2. 適切な用語の選択と、正確な語法を用いる能力の養成 3. 合理的で適切な手段を選択する能力の開発などを行う 上記のを行いつつ、日本語表現力とともに、論理的思考能力・問題解決能力を磨くことを最終目標とする。
評価方法	授業内外での学習成果物（40%） 中間レポート（10%） 課題レポート（50%）
教科書	『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』三省堂（2013年）
参考書・参考文献	なし
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 日本語表現法II

授業コード： 10370 10371

英文科目名称： Japanese Communication II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	必修
担当教員			
◎大館真晴			
普遍分野	文化と看護	2セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	母語によるコミュニケーション能力は、理解力・論理的思考力・伝達力などを必要とし、現代人が社会生活を営むうえで必要不可欠な基本的能力となっている。本講義では、日本語によるコミュニケーション能力（話す力・聞く力）の養成と考察を目的とする。
授業計画	1回 【導入】 オリエンテーション、自己紹介の実践 【課題】シラバスを読んでもくること 2回 【発声・発音・姿勢・朗読】 日本語の発声、アクセントを学び、人前で話すときの姿勢や話すスピードを学ぶ 【課題】授業の復習と予習をすること 3回 【スピーチ】 スピーチ原稿を作成し、1分間スピーチを行う 【課題】授業の復習と予習をすること 4回 【敬語(1)】 敬語の知識を身につける 【課題】授業の復習と予習をすること 5回 【敬語(2)】 敬語を用いたコミュニケーション練習 【課題】授業の復習と予習をすること 6回 【話し方の技術 メモの取り方】 会議やディスカッションの場における話し方の技術やメモの取り方を学ぶ 【課題】授業の復習と予習をすること 7回 【事実の報告・内容の構成】 話題に対する的確な資料の取りあげ方を学ぶ 【課題】授業の復習と予習をすること 8回 【事実の報告・実践・資料の作り方】 プレゼンテーションにおける、図表の的確な使用方法を学ぶ 【課題】授業の復習と予習をすること 9回 【プレゼンテーション・内容の構成】 プレゼンテーションでの、論の組み立て方や進行について学ぶ 【課題】授業の復習と予習をすること 10－13回 【プレゼンテーション・実践】 グループごとにプレゼンテーションの実践練習を行う 【課題】授業の復習と予習をすること 14－15回 【ディベート・実践】 グループごとにディベートの実践練習を行う 【課題】授業の復習と予習をすること
授業形態	講義
到達目標	1. 発声・身体表現の訓練 2. 与えられた時間内に表現できるコーディネート能力の養成 3. ディスカッションでの聞き取り・発言能力、および調整能力の養成 以上のことを行いつつ、日本語の表現力とともに、論理的思考能力・問題解決能力を磨くことを最終目標とする。
評価方法	授業内での学習成果物（40%）中間課題レポート（20%）最終プレゼンテーション(40%)
教科書	学生のためのプレゼンテーション・トレーニング（実教出版）2015
参考書・参考文献	なし
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 日本の文学と日本人の心

授業コード： 10380

英文科目名称： Japanese Literature and Thoughts

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	選択
担当教員			
◎大館真晴			
普遍分野	文化と看護	1セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	古代から現代に至る様々な日本文学作品を分析し、日本人の持つ自然観・死生観・宗教観などについて理解を深める。
授業計画	1 回 【日本人の心と文学】 日本文学に親しむ。 2－5 回 【結婚・出産に関わる文学作品】 結婚・出産に関わる古今の文学作品を学び、日本人の恋愛観や生命観を理解する。 6－9 回 【死・病気に関わる文学作品】 挽歌や病気に関わる文学作品を学び、日本人の死生観や病気に対する考え方を知る。 10－12 回 【家族・友人を思う文学作品】 家族や友人を思い表現した文学作品を学び、日本人の持つ家族観や人間観を知る。 13－14 回 【絵本に親しむ】 旅や故郷を詠んだ文学作品を学び、日本人の郷土や旅に対する考え方を知る。 ※フリーアナウンサーの横山美和特別講師が担当し、絵本の魅力や読み聞かせの技術を学ぶ。 15 回 【まとめ】 総括
授業形態	講義
到達目標	1. 表現された言葉を読み込むことで、表現者の心を理解できる力を身につける 2. 広く日本人に親しまれてきた文学作品を考察することで、日本人の持つ思想・文化について理解を深める。 3. 短歌・俳句の実作や絵本の読み聞かせ等を学び、日本語表現能力の向上を目指す。
評価方法	授業内外での学習成果物（50%） 課題レポート（50%）
教科書	なし（授業時に、必要に応じてプリントを配布します）。
参考書・参考文献	
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	授業は隔週で2コマ連続で行いますので、できるだけ欠席しないようにしてください。
備考・メッセージ	授業日は基本的に木曜3限に行いますが、時に変則的になる場合がありますので、掲示板をよく確認しておいてください。

講義科目名称： 宮崎の文化

授業コード： 10400

英文科目名称： The Culture of Miyazaki

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	必修
担当教員			
◎大館真晴			
普遍分野	文化と看護	2セメスター	15時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	古今の宮崎に関する文化を学び、郷土や社会に貢献する意義を考える。		
授業計画	1 回	【宮崎県の歴史文化を知る】 オリエンテーション、宮崎県の歴史を知る。	
	2 回	【宮崎県の民俗文化を知る】 宮崎県の神楽や祭礼などの民俗文化を知る。	
	3－4 回	【宮崎県を舞台とした文学作品を知る】 宮崎県に伝わる昔話や伝説などを知る。	
	5 回	【宮崎県の偉人を知る】 若山牧水、高木兼寛、小村寿太郎などの宮崎県ゆかりの偉人を知る。	
	6 回	【宮崎県の現代文化を知る】 宮崎県のマスメディアのありようや、宮崎県の現代文化を知る。	
	7 回	【宮崎県の食文化を知る】 宮崎県にみられる特有の食文化などを知る。	
	8 回	【まとめ】 受講生同士でディスカッションを行い、宮崎という地域の特色や県民性について理解を深める。	
	授業形態	講義	
到達目標	1. 古今の宮崎に関する文化を知る。 2. 宮崎の代表的な先人について理解を深める。 3. 社会と人間、時代と人間の関わりを洞察する力を身につける。 4. 郷土に対する関心を高め、郷土と自分との関わりを考える。		
評価方法	授業内外での学習成果物（50％）、課題レポート（50％）		
教科書			
参考書・参考文献			
履修条件	－		
科目等履修	可		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： 音楽論

授業コード： 10410

英文科目名称： Principles of Music Theory

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	1	選択
担当教員			
◎後藤祐子 (分野調整担当教員 大館真晴)			
普遍分野	文化と看護	1セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	・音や音楽が、人間が生きていくうえで大切なコミュニケーション手段であることを理解する。 ・音や音楽を使って表現し、創造する過程で、人間が生きていくための心的なエネルギーが満たされることに気付く。 ・音や音楽による表現活動の中に人間の心身の発達が映し出されることを理解する。また、自らが音楽表現を体験することを通して人間を深く理解する可能性に気付く。
授業計画	1 回 【音や音楽の力】 授業内容のオリエンテーションを行う。また音や音楽の特性や五感に働きかける力について考える。 2回～7回 【音や音楽の多感覚性を知る】 音や音楽の多感覚性とは何かを知り、音楽の持つ情緒的、社会的、心理的な機能について考える。 また音や音楽の多感覚性について、映像や体験を通して考える。 8・9回 【音楽療法の実際～子ども・成人領域】 音楽を使った療法的アプローチについて理解する。歌あそびや季節の歌唱を用いたワークを通して、実際に音楽表現について体験し、発達との繋がりを考える。 10・11回 【音楽療法の実際～高齢者・精神科領域～】 音楽を使った療法的アプローチについて理解し、事例より音楽を通して人を理解することを知る。 また、グループメンバーと共に音楽を創造する体験を行う。他者を感じながら、他者と協同し音楽を創造する。その事を通して表現することの楽しさを体験できるようにする。 12・13回 【音楽療法の実際～緩和ケアにおける音楽の活用～】 音楽を使った療法的アプローチについて理解し、音や音楽を使ったレクリエーションの体験をする。また、音や音楽を用いた音楽作品の創作を行い、音楽による気分の発散や気持ちの共有について考える。 1 4 回 【音楽の力と看護】 看護における音楽の活用や、音楽からみえる健康の理解について考える。また、グループワークを通して音楽を使ったコミュニケーションを体験し多様な表現のあり方について知る。 1 5 回 【まとめ】 1回～14回を振り返り、音や音楽の役割について学んだことを確認する。
授業形態	講義
到達目標	・音や音楽の持つ特性について理解する。 ・音や音楽を使った様々な表現手段を体験しながら、セルフケア能力を高め、芸術が生活の豊かさに繋がっていることを認識する。
評価方法	グループワークへの参加の状況および授業シート30%、最終レポート70%
教科書	なし
参考書・参考文献	『音と人をつなぐ コ・ミュージックセラピー』中島恵子・山下恵子 2002 春秋社 『音楽療法ハンドブック～看護と福祉領域のための～』監修 日野原重明 未来プロジェクト
履修条件	—
科目等履修	否
履修上の留意点	・毎回、理論とそれに基づいた実践を行うので、動きやすい服装での出席が望ましい。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 高等教育コンソーシアム宮崎 コーディネート 授業コード： 10450
科目

英文科目名称： Consortium Miyazaki Coordinate class

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1, 2, 3, 4	1	選択
担当教員			
高等教育コンソーシアム宮崎コーディネート科目調整教員			
普遍分野	文化と看護	2468セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	
授業計画	－
授業形態	講義
到達目標	
評価方法	コーディネート科目の成績評価は次の通りです。 ・授業への積極的な参加 30 点 ・小テストの配点 各回の評点 A：5点、B：4点、C：3点 (12回、但し 県知事・宮崎市長等特別講師の分は除く) ★出席回数が12回未満の学生は、出席不足の理由から単位取得はできません。 ※ 遅刻は30分以内として出席を認めるが、その場合、遅刻3回の場合 1 回の欠課、遅刻 6 回の場合 2 回の欠課、遅刻 9 回の場合は 3 回の欠課扱いとする。 ※ (出席については厳粛に対応します)
教科書	
参考書・参考文献	
履修条件	－
科目等履修	－
履修上の留意点	
備考・メッセージ	－

講義科目名称： 看護疾病論II

授業コード： 10470

英文科目名称： Understanding Diseases for Nursing Care I I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	2 単位	必修
担当教員			
◎山岡深雪 他			
専門基礎科目	看護人間学総論	3セメスター	60時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	「病気は回復過程」という考え方にもとづき、人間の健康状態を判断するために必要な専門知識と看護することにつながる病気の見つけ方を修得する。
授業計画	1 回 【課題学習】 1. ガイダンスー看護する立場から病気をみつめるとはー 2ー8回 2. 「内部環境を維持する働きの障害」についての知識を得て、回復のための条件を理解する。 糖代謝の乱れと生活過程（糖尿病） 【山岡】 血糖値の異常による血管変性と全身への影響（糖尿病） 【山岡】 不要物の選別機能の衰え（腎不全） 【矢野】 腎臓の発育と腎機能障害（ネフローゼ症候群） 【甲斐】 栄養の偏り・有害物質の摂取と慢性肝炎へのプロセス 【川村】 肝硬変・肝不全へのプロセスと生活調整 【川村】 ＜中間評価・まとめ＞ 9ー14回 3. 「外界の刺激を受け止める働きの障害」についての知識を得て、回復のための条件を理解する。 皮膚におきる慢性炎症（アトピー性皮膚炎） 【甲斐】 難聴 【中角】 内耳に起さる衰え群の病気と生活調整（メニエール病） 【山岡】 水晶体の衰えと生活過程（白内障） 【山岸】 視覚障害と人間の持てる力 【甲斐】 ＜中間評価・まとめ＞ 15ー24回 4. 「人間を統合する脳の働きの障害」についての知識を得て、回復のための条件を理解する。 脳血管が閉塞するプロセスと回復過程（脳梗塞） 【山岡】 脳血管の破綻と全身に及ぼす影響（脳出血） 【山岡】 脳の血流自動調整と高次精神活動障害（せん妄） 【津田】 神経変性による運動の抑制（パーキンソン病） 【久野】 ＜中間評価・まとめ＞ 脳の働きの弱まりによる記憶力障害（認知症） 【重久】 摂食障害 【川村】 物質に依存していきることによる脳の障害（アディクション） 【川村】 気分障害 【川村】 ＜中間評価・まとめ＞ 25ー29回 4. 「行動範囲を拡大する働き・生活をつくりだす働きの障害」についての知識を得て、回復のための条件を理解する。 内因性・代謝性の運動障害（関節リウマチ） 【久野】 神経・筋のつながりの障害（筋萎縮性側索硬化症） 【山岸】 日常生活と脊柱のつくりかえ（椎間板ヘルニア） 【山岡】 骨折治癒過程 【毛利】 末梢と脳をつなぐ刺激伝導系の障害（脊髄損傷） 【山岡】 30回 まとめ 自己の看護者としての疾病理解の特徴を認識し、課題を設定する【山岡】 試験 ＊オムニバス形式の授業です。担当教員は全員、看護師としての実務経験をもっています。各疾病に関する看護経験や患者経験をもつ教員が、授業を担当し、本科目での学習を支援します。
授業形態	講義
到達目標	1. 「内部環境を維持する働き」「外界の刺激を受け止める働き」「人間を統合する働き」「行動範囲を拡大し、生活をつくりだす働き」に起さる病気について学び、“poisoning”と“decay”のプロセスに自然治癒力がどのように働くのかを知る。 2. 人間を生活者として全人的に見つめ、健康な状態が異常状態に至る過程を発達段階や生活過程との関連でとらえ、その変化に注目する。 3. 生命力を脅かすものを発見し整える方向性を考える学習の繰り返しにより、思考過程の定着を目指す。科学的根拠を持って援助の方向性を見出せるようになる。
評価方法	中間評価・試験（100%）他、授業の参加状況、課題学習のレポート提出状況をあわせて評価する。
教科書	『看護のための疾病論 ナースが視る病気』 講談社 『看護のための人間論 ナースが視る人体』 講談社
参考書・参考文献	その他随時提示する

履修条件	—
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	この講義は、専門基礎科目で学んだ知識を活用しながら学修します。 特に、各回の授業内容に関連する人間常態学の知識を復習し、授業に臨みましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	2単位	必修
担当教員			
◎田中 美智子			
専門基礎分野	看護人間学I	1セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護の基礎となる人体の基本構造と機能についての知識を習得する。すべての生命体は外界からの刺激を受け止め、外界とのやりとりを通して個体の維持を行うとともに、種を存続させていくこと、人間が「生きていく」および「よく・うまく・たくましく生きていく」ための脳の構造と機能を学び、動物としての人間が人間らしく存在するために必要な「運動」と「休息」についても学ぶ。		
授業計画	1回	【生命現象：生きているということ】 1回目：構造と機能とは、解剖学的用語、体表の名称の理解、生体の構成、恒常性維持、フィードバック <目標> 1. 構造と機能の関係を理解する。 2. 解剖学的用語や体表の名称について理解する。 3. 人体の構成とそれぞれの特徴について説明できる。それらが互いにどのように関連しているかを考える。 4. 恒常性維持（ホメオスタシス）とは何かについて考える。恒常性維持がなぜ大切かについて理解し、具体例を挙げることができる。 5. フィードバックシステムについて理解する。	
	2-3回	【外界からの刺激を受ける：感覚】 2回目：感覚の一般的性質、体性感覚 3回目：特殊感覚 <目標> 1. 感覚の種類がわかる。感覚の一般的性質が説明できる。 2. 皮膚の感覚の種類と各受容器がわかる。刺激が受容されて感覚野に到達する経路が説明できる。 3. 視覚、聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚がどこで受容（受容器はどこか）され、どのような経路で中枢に伝わっていくかについて理解する。	
	4-7回	【からだの働きを整える：神経性調節】 4回目：神経系の概要① 5回目：動く・言葉を話す 6回目：辺縁系の働き、記憶・創造 7回目：末梢神経（自律神経系含む） <目標> 1. 神経系の構成と働きの概要を理解する。 2. 脳がどのように守られているのかを理解する。 3. 運動にはどのようなしくみが関与しているかを理解する。 4. 言葉を話すメカニズムについて理解する。 5. 前頭前野の働きについて理解する。 6. 記憶の過程について理解する。 7. 末梢神経系の分類が説明できる。脳神経と脊髄神経の構成や働きが説明できる。自律神経系の特徴が説明できる。	
	8-9回	【からだの働きを整える：液性調節】 8回目：内分泌の概要、恒常性維持のためのホルモン 9回目：ストレスに関するホルモン、成長に関わるホルモン <目標> 1. ホルモンとは何か。何でできているか。どのように作用し、どのように調節されているかを説明できる。 2. ホルモンの働きについて理解する。 1) 特に血糖が1日を通してどのように調節されるか説明できる。 2) ストレスに対してどんなホルモンがどのようににかかわっているかを説明できる。 3) 成長に対してどんなホルモンがどのようににかかわっているかを説明できる。	
	10回	【生命の連続性に関わる種の保存】 10回目：生殖＜性周期とホルモン、卵子や精子、受精＞ <目標> 1. 性の決定と分化について知る。 2. 男性と助成の生殖器の構造と機能について理解する。 3. 性周期とホルモンの関連について説明できる。	
	11回	【生体リズム】 11回目：睡眠・覚醒サイクル、睡眠の特徴 <目標> 1. 睡眠について理解する。	

	12-15回 2. 生体リズムについて知る。 【動くということ：からだの支持と運動】 1 2回目：運動系の概要 1 3回目：骨・関節・筋肉① 1 4回目：骨・関節・筋肉② 1 5回目：骨・関節・筋肉③ <目標> 1. 大脳皮質から筋肉までの経路が説明できる。 2. 骨の働きについて説明できる。骨の分類と骨の構造について知る。全身の骨の名称と位置関係について説明できる。 3. 関節の構造と働きについて理解する。 4. 筋肉の分類を説明でき、運動に関与する筋肉の種類と特徴について理解する。 5. 筋肉の名称と位置関係について説明できる。 6. 主な関節を動かす運動について理解し、主な運動についてはどの筋肉が働いているか説明できる。 7. 筋肉の構造を踏まえて興奮収縮連関について理解する。
授業形態	講義
到達目標	知識・理解：人体の構造と機能（感覚、神経系、運動系、内分泌系など）の知識を具体的に述べるができる。 思考・判断・表現：指定されたレポートを作成することで、人体の構造と機能に関するメカニズムについて表現することがきでる。 関心・意欲・態度：これまで受けている講義内容を結び付け、人に生じる健康問題に関心を持つ。
評価方法	定期試験(50%)，小テスト（予習・まとめ）(20%)、授業外レポート（15%）ならびにCBT(15%)による総合評価を行う。
教科書	「人体の構造と機能① 解剖生理学」メヂカルフレンド社 「カラー人体解剖学」西村書店
参考書・参考文献	「新看護生理学テキスト」南江堂 「医療職をめざす人の解剖学はじめての一步」日本医事新報社 「生きているしくみがわかる生理学」医学書院 「系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能 [1]」医学書院 「QUICK 生理学解剖学」羊土社 「解剖生理学クリアブック」医学書院 「看護のための人間論 ナースが見る人体」講談社
履修条件	—
科目等履修	否
履修上の留意点	学習内容及び方法は変更の可能性があります。 Appointmentをメールでとって質問に来ること。メールでの質問も可。 初回の講義で評価方法も含めて具体的に説明。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	1 単位	必修
担当教員			
◎田中 美智子			
専門基礎分野	看護人間学I	2セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	人間常態学 I-1に引き続き、看護の基礎となる人体の基本構造と機能についての知識を習得する。人間は外部環境から生体に必要なものを取り入れ、体内で使った老廃物や不要物を排泄している。そのため人体には細胞をとりまく内部の状態（内部環境）をできるだけ恒常に保つ仕組みが備わっている。この内部環境の恒常性維持を中心に、物質の運搬とその経路、及び物質の摂取と排泄について学ぶ。		
授業計画	1回	【内部環境の維持①：体温】 1 回目：体温調節 <目標> 1. 体温とは何かについて説明できる。 2. 熱産生と熱放散のしくみを理解する。 3. 体温調節のしくみが説明できる。	
	2-4回	【物質の摂取と排泄①：消化吸収】 2 回目：消化吸収①<消化管の概要> 3 回目：消化吸収②<口腔～大腸、排便反射> 4 回目：消化吸収③<肝胆膵の役割> <目標> 1. 消化吸収とは何かについて説明できる。 2. 消化器系に属する器官の位置関係が説明できる。 3. 消化には機械的消化、化学的消化、生物学的消化があることを知り、それぞれについて説明できる。 4. 各消化管でどのような消化が行われているかを具体的に説明できる。 5. 消化管の付属器官の肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能について説明できる。 6. 排便のしくみについて説明できる。	
	5-7回	【物質の摂取と排泄②：呼吸】 5 回目：呼吸①<呼吸器の構造、呼吸運動> 6 回目：呼吸②<換気、ガス交換、ガス運搬> 7 回目：呼吸③<呼吸調節、肺機能検査> <目標> 1. 呼吸器官の構造の特徴について説明できる。 2. 呼吸運動のしくみについて理解する。 3. 肺胞と血液間のガス交換について学び、血液内の酸素や二酸化炭素を一定に維持するしくみを理解する。 4. 血液による酸素と二酸化炭素の運搬について理解する。 5. 呼吸調節について、受容器－中枢－効果器のそれぞれを説明できる。	
	8-9回	【内部環境の恒常性②：体液の調節】 8 回目：体液の調節 9 回目：体液のpHの調節 <目標> 1. 体温の異常について理解する。 2. 体液の組成と分布について理解する。 3. 体液の移動が理解でき、毛細血管の体液の移動について説明できる。 4. 体液の調節について理解し、障害が生じたときの生体の反応を知る。 5. 酸塩基平衡とは何かについて説明できる。 6. 酸塩基平衡が障害されたときの調節のしくみについて理解する。	
	10-11回	【物質の運搬とその経路①：血液】 1 0 回目：血液①<赤血球> 1 1 回目：血液②<白血球・血小板・血液型> <目標> 1. 血液の働き、構成成分について説明できる。 2. 血液の生成から寿命までの過程について理解する。 3. 赤血球が破壊された後の処理過程を説明できる。 4. 白血球の作用（生体防御）について説明できる。 5. 血管が損傷したときの止血作用について理解する。 6. 血液型とは何かについて説明でき、輸血や妊娠時にどのような影響があるかについて理解する。	
	12-14回	【物質の運搬とその経路②：循環器】 1 2 回目：心臓<構造、働き：心周期、心電図>> 1 3 回目：血管<動脈、血圧、静脈還流> 1 4 回目：循環調節 <目標> 1. 心臓の構造と心臓内の血液の流れについて説明できる	

	2. 刺激伝導系や心電図の成り立ちについて理解する。 3. 心周期と心機能の指標について理解する。 4. 血管の種類と構造について理解する。 5. 主な血管の名称が言え、どの部分に位置するか図示できる。 6. 血圧とは何かについて説明できる。 7. 静脈還流について説明できる。 8. 循環系の調節機構について説明できる。 9. リンパの特徴について説明できる。 【物質の運搬と排泄③：排泄系】 1 5 回目：排泄系：尿の生成とその調節・排尿 ＜目標＞ 1. 腎臓、尿管、膀胱及び尿道の位置関係がわかる。 2. 尿を生成する部分の構造とそのしくみについて説明できる。 3. 体液の調節について理解する。 4. 尿を貯留し、排尿を行う部分の構造と排尿のしくみについて説明できる。 まとめ 試験
授業形態	演習
到達目標	知識・理解：人体の構造と機能（体温調節、体液、血液、循環、呼吸、消化吸收、排泄系など）の知識を具体的に述べることができる。 思考・判断・表現：指定されたレポートを作成することで、人体の構造と機能に関するメカニズムについて表現することがきでる。 関心・意欲・態度：これまで受けている講義内容を結び付け、人に生じる健康問題に関心を持つ。
評価方法	定期試験（50%）、小テスト・まとめ（20%）、予習・講義外課題レポート（15%）、CBT（15%）による総合評価を行う。詳しくは講義の最初に説明を行います。
教科書	「人体の構造と機能①解剖生理学」メヂカルフレンド社 「カラー人体解剖学」西村書店
参考書・参考文献	「新看護生理学テキスト」南江堂 「系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能 [1]」医学書院 「医療職をめざす人の解剖学ははじめの一步」日本医事新報社 「生きているしくみがわかる生理学」医学書院 「QUICK 生理学解剖学」羊土社 「解剖生理学クリアブック」医学書院 「ナースが視る人体」講談社
履修条件	—
科目等履修	否
履修上の留意点	Appointmentをメールでとって質問に来ること。メールでの質問も可。初回講義で評価などについては説明。講義の順番は変更することがありうる。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 人間常態学I-3

授業コード： 10520

英文科目名称： Anatomy and Physiology I-3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	1単位	必修
担当教員			
◎田中美智子			
専門基礎科目	看護人間学I	7セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	人間の健康状態を的確に把握するためには、胎生期・幼年期～老年期に至る人体の正常な状態の変化を理解し、看護学の立場から正常と異常の変化課程を考察できるようにしなければならない。そのためには、各事例を通して、正常な人体の構造と機能を統合した形で理解する。
授業計画	1回 【講義内容のオリエンテーション】 事例をもとに、正常な機能と構造について見直す。 講義の進め方、重点的に行う項目などを決定する。 以下の項目からいくつかの事例をもとに、構造と機能について学習する。 事例を用いて学ぶ 2～14回 調節系：内分泌および神経の事例を用いて、正常な構造と機能から病態の理解 物質の摂取と排泄：呼吸器、排泄および消化吸収の事例を用いて、正常な構造と機能から病態の理解 物質の運搬：循環器および血液の事例を用いて、正常な構造と機能から病態の理解 運動器系：運動器の事例を用いて、正常な構造と機能から病態の理解 15回 生殖器系：生殖器の事例を用いて、正常な構造と機能から病態の理解 薬害被害者の声を聞く講義 薬害被害者からの直接の話を聞き、薬害被害について考える。
授業形態	演習
到達目標	知識・理解：人体の構造と機能の知識を具体的に述べることができる。 思考・判断・表現：事例を検討することで、その事例に生じている問題を人体の構造と機能の分野から捉え直し、必要なケアを創造することができる。 関心・意欲・態度：これまで受けている講義内容を結び付け、人に生じる健康問題に関心を持つ。
評価方法	授業への参加状態・授業内レポート(15%)、項目毎の課題（45%）、講義レポート(40%)による総合評価を行う
教科書	カラー人体解剖学：西村書店 新看護生理学テキスト：南江堂
参考書・参考文献	解剖生理学：医学書院 人体の構造と機能①解剖生理学：メヂカルフレンド社 「QUICK 生理学解剖学」羊土社
履修条件	人間常態学I-1及び人間常態学I-2を履修していること
科目等履修	否
履修上の留意点	学習内容及び方法、順番は変更の可能性があります。 Teamsに提示した事例を見て、講義前までに分からない言葉などを調べておくこと。実習で体験した事例などについて説明できるように整理しておくこと。
備考・メッセージ	初回講義で、講義内容や成績評価などについては説明します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	2 単位	必修
担当教員			
◎菅野幸子			
専門基礎分野	看護人間学I	2セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	人は生きるために、絶えず外界から必要な物質を取り入れて、体内で代謝して変化させ、最終代謝産物を排出している。この栄養素の【摂取－自己化－排出】の過程を物質の変化でとらえ、栄養素の摂取と栄養素の体内利用（代謝）は生命現象の根元であることを理解する。		
授業計画	1回	【代謝学概論 ー代謝学で何を学ぶか、なぜ学ぶかー】 ・代謝学は生命現象を物質で説明する科学であり、すべての専門基礎科目の学習に必要な基礎知識である。 ・正常な身体の見方として、身体がどのような物質でできているか、食べてとり入れた栄養素(物質)が体内でどのように代謝されて生命活動に必要な物質に変換され、機能しているかを、代謝学では学ぶ。	
	2回	【概論 1.細胞と生体構成物質】 ・すべての生物は細胞から構成されており、細胞は生命の基本単位である。 ・細胞を中心に階層性でとらえる。 個体－器官系－器官－組織－細胞－細胞小器官－高分子－低分子－原子 ・細胞の構造と機能について理解する。 ・生体構成物質（糖質、脂質、タンパク質、核酸）の化学構造を理解する。物質の分類と物質名を学ぶ。	
	3回	【概論 2. 栄養素の消化と吸収】 ・栄養素の消化と吸収の過程を、消化管を通過していく物質の変化をイメージしながら理解する。 ・消化酵素による管腔内消化と膜消化、吸収のしくみを理解する。 ・ビタミン、ミネラルの吸収と、吸収に影響を与える要因について理解する。	
	4回	【概論 3. 栄養素の代謝】 ・人体における栄養素の代謝を【摂取－自己化－排出】の流れでとらえるとともに、栄養素代謝の相互関係について理解する。 ・身体のすべての細胞の中でおこなわれている、栄養素の代謝(生体構成物質の合成・分解とそれに伴ったエネルギーの消費・産生)について理解する。 ・生体におけるエネルギーはATPであることを理解する。	
	5-6回	【4. 糖質】 ・糖質の構造と機能、代謝を学ぶ。 ・全身の細胞のよいエネルギー源、貯蔵多糖としてのグリコーゲン、血糖の調節などについて理解する。	
	7回	【5. 脂質】 ・脂質の構造と機能、代謝を学ぶ。 ・中性脂肪の代謝と役割（エネルギーの生成と貯蔵）、ケトン体、コレステロールの代謝と胆汁酸、PG等の生成、血漿リポタンパク質の動態などについて理解する。	
	8回	【6. 核酸】 ・核酸（DNA、RNA）の構造と機能を学ぶ。 ・遺伝のしくみ、タンパク質合成について理解する。 ・血友病の遺伝形式、伴性劣性遺伝について理解する。	
	9回	【7. アミノ酸・タンパク質の構造】 ・アミノ酸、タンパク質の種類と構造を学ぶ。 ・タンパク質の高次構造と機能を学び、インスリン、ヘモグロビンの機能について理解を深める。	
	10回	【7. アミノ酸・タンパク質の代謝】 ・人体におけるタンパク質の動態、肝でアンモニアを尿素に変換して排出、アミノ酸の先天性代謝異常症、ヘムの代謝と黄疸、クレアチン、尿酸などNを含む物質の代謝などについて理解する。	
	11回	【8. 酵素】 ・酵素の性質と働きについて学ぶ。 ・酵素は生体での化学反応を触媒して生命維持に必要な速度で反応（代謝）を進める。 ・酵素はタンパク質である。 ・酵素反応、基質特異性、活性に影響を与える要因、酵素阻害剤、アイソザイム、逸脱酵素などについて理解する。	
	12回	【9. ビタミン】 ・ビタミンの種類と働きについて学ぶ。 ・水溶性ビタミンと脂溶性ビタミンの特徴、各ビタミンの名前と作用、欠乏症について理解する。	
	13回	【10. 血液凝固と線溶】 ・止血のしくみを理解する。 ・血液凝固と線溶のしくみをタンパク質、酵素反応から理解する。 ・血液凝固阻止剤の機序について理解する。	
	14回	【人体における栄養素の代謝】	

	・生体を物質のレベルから、細胞・臓器・個体と階層性で捉え、各レベルの代謝の特徴について理解する。 ・摂食時、空腹時、飢餓時に、複数の臓器が協調的に機能して代謝をおこない、生命を維持しているしくみを理解する。 ・生化学検査値が示す身体の状態 【代謝学まとめ】 人体における栄養素の代謝について、全体を俯瞰して捉えなおし、自分がわかったこと、わかっていないことを明確にしていこう 【試験】
授業形態	講義
到達目標	1. 生体を物質(分子)のレベルから、細胞、臓器、個体と階層性でとらえる。食べてとり入れた栄養素(物質)がどのように代謝されて、生命活動に必要な機能をしているか説明できる。 2. 生体成分を、糖質・脂質・タンパク質・核酸に分類できる。 3. 細胞の中で栄養素を代謝(合成と分解)して、絶えず生体成分やエネルギーを作り、生きている。糖質、脂質、タンパク質の構造を基盤に、この代謝過程を理解し、説明できる。栄養素代謝の相互変換を食事・運動などの生活状況と関連づけて説明できる。 4. 核酸の構造をもとに、遺伝のしくみ、タンパク質合成について説明できる。 5. 代謝を司る酵素について、酵素反応の特徴と機能を説明できる。ビタミンの種類と作用、欠乏症について説明できる。 6. 摂食時・空腹時・飢餓時に、ホルモンの調節下に、複数の臓器が協調的に代謝を行い、生命を維持するしくみを説明できる。 7. 代謝学の知識を臨床検査値や疾病の理解につなげ、身体の状態のアセスメントに活用できる。 他
評価方法	筆記試験(60点以上、80%)、課題(提出は必須、20%)
教科書	「わかりやすい生化学―疾病と代謝・栄養の理解のために―第5版」 スーヴェルヒロカワ
参考書・参考文献	「人間常態学Ⅱ―1(代謝学)講義テキスト」:開講時に配布
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	授業予定の講義テキスト・教科書部分を読んで予習し、授業に主体的に参加してください。
備考・メッセージ	「食えることはいのちのしくみ」です。食べた栄養素が体内でどのように代謝されて、機能しているか、科学的根拠に基づいて思考できる力をつけたいと思います。自分の身体の中での物質の変化をイメージしながら、「人はよく生きるようにつくられている、正常な身体のしくみは本当にすごい!」と感じられますように。

講義科目名称： 人間常態学II-2

授業コード： 10540

英文科目名称： Biochemistry and Nutrition II-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	1 単位	必修
担当教員			
◎菅野幸子			
専門基礎科目	看護人間学I	3 セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	「人間にとっての栄養とは」を講義する。人間常態学Ⅱ－1(代謝学)で学んだ「なぜ食べないといけないのか」「各栄養素の摂取過剰、摂取不足は生体にどのように影響を与えるか」の科学的根拠を基盤に、私たちは健康を維持・増進、疾病を予防して、充実した豊かな生涯を送るために、どのような食物をどれだけ食べ、どのような食生活をすればよいか、人間栄養学の考え方や知識を生活に即して実践的に学ぶ。自らの食生活を営む力を養い、食情報を受発信できる力を身につけ、他者への栄養をとおした支援に活用できる力をつけることを目的とする。		
授業計画	1-4回 【人間栄養学概論】 人間栄養学を学ぶ目的を明らかにしよう 1. 人間にとっての栄養とは 2. 食育 3. 栄養・食生活の変遷と近年の問題点 4. 生活習慣と健康 5-8回 【栄養の営みと食物】 食物のパワーともっと知ろう 5. 食品に含まれる栄養素の人体での働き 6. 食品の機能、成分、栄養価、食品群 7. 健康的な食事 主食・主菜・副菜・もう1品 8. 食行動 おやつ行動 食べるきっかけ 9. 調理 食事づくり お弁当箱ダイエット法 10. 食品に含まれる栄養成分とその役割 9-10回 【「何をどれだけどのように食べたらよいか」】 基準を知って健康づくりに活用しよう 11. 人体のエネルギー代謝 12. 食事摂取基準 13. 四群点数法 14. 食生活指針と食事バランスガイド 11回 【健康を考えた料理】 発表して、共有しよう ・課題で取り組んだ成果をグループで共有し、気づいたこと、よかった点などの意見をまとめる。 ・発表して、全体で共有する。 12-15回 【他者への栄養をとおした支援】 自分自身や周囲の人々を支えられる援助者になろう 15. 栄養アセスメント：栄養状態を評価する方法 16. 栄養教育 行動変容への支援 17. 栄養管理：チーム医療、NST、高齢者の栄養 16回 【試験】 筆記試験		
授業形態	講義		
到達目標	1. 「人間にとっての栄養とは」を学び、生命体と生活体の両側面から健康を支える栄養のあり方を考える。 2. 栄養の営みと食物、食行動、調理および食事摂取基準・食生活指針等を学び、自らの食生活に活かす体験を重ねる。 3. 栄養と健康の関連を理解し、栄養状態の改善に向けての方策について考える。 4. 地域社会や病院等で行われている栄養教育・栄養管理の方法と実際について理解する。		
評価方法	最終筆記試験（60点以上必須、60%）、課題（40%）		
教科書			
参考書・参考文献	「人間常態学Ⅱ－2（人間栄養学）講義テキスト」：開講時に配布		
履修条件	—		
科目等履修	可		
履修上の留意点	対面でできる時と遠隔になる時で、授業の順番を入れ替えることがあります。		
備考・メッセージ	栄養・食は健康な生活の基盤であり、“おいしく食べること”が大切です。普段なにげなく食べている自分の食事を振りかえりながら、自分が一生健康に幸せに暮らすために、どのように食べたらよいか、考え、実践できる力をつけていきましょう。		

講義科目名称： 人間常態学III（生体と薬物）

授業コード： 10550

英文科目名称： Pharmacology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	2 単位	必修
担当教員			
◎池田龍二（科目調整担当教員 菅野幸子）			
専門基礎科目	看護人間学I	4セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	医療の中で、薬物治療の占める割合は高い。患者を適切に看護するには、薬物の作用機序、副作用などの薬物治療についての知識は重要である。これらの知識を基に、薬の反応や副作用を患者から早く情報を得、治療に貢献することが大切である。看護師は、看護の立場から薬を飲む患者の病態の把握はもちろん、用いられた薬についても正しく理解し、薬が処方された意図を理解し、患者が前向きに薬物治療を受けられるように援助しなければならない。講義では薬物の作用機序や薬物動態などの基礎的知識、ならびに関係法規など、医薬品の基本的知識を理解させる。
授業計画	教科書による講義であるが疾患と薬を関連づけて話す。 必要に応じて配付資料に基づく講義を行うこともある。 以下に講義の目安を示す。 【1 総論】 1－2回 1-1 薬物治療の目指すもの 1-2 薬はどのように作用するのか 1-3 薬はどのように体内をめぐるのか 1-4 薬効に影響する因子 1-5 薬物中毒（薬害）はなぜおこるのか 1-6 薬の管理と新薬の誕生 【2 各論】 3回 2-1 抗感染症薬 4回 2-2 抗がん薬 5－6回 2-4 末梢神経系に作用する薬 7－8回 2-5 中枢神経系に作用する薬 9－10回 2-6 心臓・血管系に作用する薬 11－12回 2-7 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬 13－14回 2-8 物質代謝に作用する薬 15回 2-9 皮膚科および眼科で使う薬 2-10 消毒薬
授業形態	講義
到達目標	
評価方法	試験(100%)
教科書	「系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復（3）薬理学」医学書院
参考書・参考文献	
履修条件	—
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 人間常態学Ⅳ（応用）

授業コード： 10560

英文科目名称： Seminar in Physiology, Biochemistry and Nutrition

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4 年	1 単位	選択
担当教員			
◎菅野幸子			
専門基礎科目	看護人間学I	8 セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	人間常態学Ⅱ（代謝学・栄養学）で学んだ知識を俯瞰して捉えなおす。正常な身体のしくみ（常態）を基盤に、それが破綻した病態につなげて理解を深める。人間常態学の知識を科学的根拠として看護実践に活用できる思考過程を身につける。
授業計画	1回 【オリエンテーション】【生体物質と代謝】 - これまでの代謝学、栄養学での学修を振り返り、本科目の学修内容や学ぶ目的を明確にする。代謝学は生命現象を物質で説明する科学である。 - 生体はどのような物質でできているか。低分子物質の構造の特徴を捉え、生体成分を糖質、脂質、タンパク質、核酸に分類できるようになる。 - 栄養素の【摂取-自己化-排出】の過程を物質でイメージし、身体の機能とつなげて理解する。 2-3回 【代謝：摂取】 - 栄養素の消化と吸収のしくみを、消化管を通過していく物質の変化をイメージしながら理解する。 - 吸収された栄養素は血液を介して全身の細胞に運ばれる（循環）。消化管への血液供給、リンパ管の走行、血液の成分、血球の生成過程などを理解する。 - 血清タンパク質の検査値を疾患とつなげて理解する。〔骨髄腫、ネフローゼ、肝硬変〕 4回 【代謝：自己化】 - 身体のすべての細胞の中でおこなわれている栄養素の代謝、すなわち、常に生体構成物質の合成・分解と、それに伴ったエネルギーの消費・産生がおこなわれていることを理解する。 - 代謝を司る酵素やビタミンの働きなどについて理解する。 - 栄養素代謝の相互変換を食事・運動などの生活状況と関連づけながら理解する。 - 摂食時・空腹時・飢餓時に、複数の臓器が協調的に代謝を行い、生命を維持するしくみを理解する。 5-7回 【代謝：排出】 - 腎臓の構造と働き、尿の生成、体液の調節、酸・塩基平衡について理解する。〔慢性腎不全、透析〕 8回 【内分泌系（総論）】 - ホルモンとは - 内分泌器官、ホルモンの名前・分類・作用・分泌の調節、機能亢進症・低下症などについて理解する。 9-10回 【内分泌系（各論）】 - 中枢内分泌器官(視床下部と脳下垂体)から分泌されるホルモン - 個体維持、種族維持(生殖)に関与するホルモン 11回 【栄養・食事療法】 - 食事摂取基準の活用、食事療法のポイントと献立例 12-15回 【代謝・栄養の知識を基盤に、常態をふまえ、疾患、薬につなげて理解する】 〔糖尿病〕糖質の代謝と血糖値の維持、食事療法、運動の効果、血糖降下薬 〔肥満、脂質異常症〕リポタンパク質の代謝、動脈硬化、メタボ 〔肝硬変〕肝臓の働き、ビリルビン代謝 〔脳梗塞〕止血、血液凝固・線溶のしくみ 血栓溶解薬、抗血小板凝集薬・抗凝固薬 16回 【試験】
授業形態	講義・演習
到達目標	1. 栄養素の【摂取-自己化-排出】の過程を物質レベルで理解する。 人体を階層性でとらえ、栄養素を代謝して生きている正常な身体のしくみについて、説明できる。 2. 常態(正常な身体のしくみ)を根拠に、それが破綻した病態や臨床検査値が示す身体の状態について説明できる。 3. ホルモンの特性(分類・分泌調節・作用など)の理解を基盤に、ホルモンの個体維持、種族維持における働きや疾患について説明できる。
評価方法	学修への取り組み・課題(50%)、期末筆記試験(50%)、
教科書	
参考書・参考文献	「人間常態学Ⅳ講義テキスト」：開講時に配布 「看護の生理学 人間をみる看護の視点」 薄井坦子、瀬江千史著 現代社
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	人間常態学Ⅱで配布した講義テキスト、実習書・実習レポートなどを持参してください。 授業予定の講義テキスト部分を読み、書き込みをして予習し、授業に主体的に参加してください。

備考・メッセージ	臨地実習を終えたみなさんは、人はよく生きるようにつくられていて、うまく機能させて健康に生きていけるように、正常な身体のしくみ（常態）を描くことの大切さを感じているのではないのでしょうか。その視点で、もう一度、これまでに学んだ代謝学・栄養学の知識をぎゅぎゅと濃縮して捉えなおし、看護実践に活かせる学びにしていきたいと思います。国試対策にもなりますので、科目を選択しない場合も聴講をおすすめします。
----------	---

講義科目名称： 人間病態学I（生体と変化）

授業コード： 10580

英文科目名称： Pathology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	2 単位	必修
担当教員			
◎川口真紀子、江藤敏治（科目調整担当教員 島内千恵子）			
専門基礎科目	看護人間学I	3セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	様々な疾病のなりたち、そこで実際に起こっている細胞、組織の変化を学習し、現在それらがどのように理解されているかを学習する。
授業計画	（総論） 1 回 【病理学とは】 医療における病理学、剖検の意義を学習する。（川口） 2 回 【細胞・組織障害、再生と修復】 細胞・組織に障害が加わった時に生じる変化について学習する。 細胞、組織の再生と修復について学習する。（川口） 3 回 【循環障害】 血液・リンパの循環異常時の生体・組織の変化について学習する。 諸臓器における循環障害による疾患を理解する。（川口） 4 回 【生命の危機】 生命に危機をもたらす特殊な病態を学習する。（川口） 5－6 回 【炎症】 炎症の概念と種類について学習する。 諸臓器における炎症による疾患を理解する。（川口） 7 回 【免疫とアレルギー】 免疫の異常によって生じる疾患について学習する。（川口） 8 回 【感染症】 感染症を引き起こす病原体とそれらに対する生体反応を学習する。（川口） 9 回 【代謝障害】 糖質・脂質・たんぱく質代謝異常の病態・疾患を理解する。（川口） 1 0 回 【老化と老年病】 老化によって生じる生体の変化について学習する。（川口） 1 1 回 【新生児の病理】 正常・異常分娩及びそれらによる新生児の異常について学習する。（川口） 1 2 回 【先天異常】 先天異常の発生要因・病態について学習する。（川口） 13－14回 【腫瘍】 腫瘍の概念・種類・発生に関して学習する。 諸臓器における腫瘍を理解する。（川口） 1 5 回 病理学と臨床のつながり（江藤） 1 6 回 試験 ※病院で看護師・医師として実務経験のある教員が、講義します。
授業形態	講義
到達目標	1. 医療における病理学、剖検の意義を理解する。 2. 細胞・組織に障害が加わった時に生じる変化について理解する。 3. 血液・リンパの循環に異常が生じた時の生体、組織の変化について理解する。 4. 細胞、組織の再生と修復について理解する。 5. 炎症の概念と種類について理解する。 6. 免疫の異常によって生じる疾患について理解する。 7. 腫瘍の概念・種類・発生に関して理解する。 8. 先天異常の発生要因について理解する。 9. 老化によって生じる生体の変化について理解する。 10. 循環器系、造血器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系、腎・泌尿器系、生殖器系、神経系のそれぞれの臓器の代表的疾患とその病理発生（何故その病気になるのか、その結果どのような事が生じるのか）を理解する。
評価方法	授業中の取り組み姿勢・小テスト（30％），筆記試験（70％）
教科書	渡辺照男編「カラーで学べる病理学」第5版（ヌーヴェルヒロカワ）
参考書・参考文献	Kumar V et al., Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease, 9th edition (SAUNDERS) 浅野重之著、『基礎からわかる病理学』（ナツメ社）

履修条件	—
科目等履修	否
履修上の留意点	全身の疾病を極めて限られた時間で講義することは困難である。各回の講義の前にあらかじめ教科書、参考図書で学習しておくこと。特に、総論を大切にし、理解すること。様々な実用的知識も学理で結びつけなければ脈絡のない寄せ集めに終わってしまうであろう。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 人間病態学Ⅱ-1（感染と免疫）

授業コード： 10590

英文科目名称： Microbiology and Immunology-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	2単位	必修
担当教員			
◎川越靖之、島内千恵子			
専門基礎分野	看護人間学I	2セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	患者と看護者双方の感染を防止するために、微生物、感染症、免疫について、看護者として必要な基本的知識を修得する。免疫については、感染防御の面とともに、腫瘍免疫、アレルギー、自己免疫疾患、移植を理解するために看護者として必要な基本的知識を修得する。
授業計画	1 回 【微生物とは】 微生物学の歴史、微生物について学ぶ意義、細菌とウイルスの違い 2 回 【細菌の形態と構造】 球菌・桿菌、グラム染色、細胞壁、芽胞、夾膜、鞭毛、線毛 3 回 【細菌の生理と遺伝】 酸素、栄養素、水分、温度と細菌の生育、遺伝子の伝達 4－5 回 【自然界における微生物の分布と人体の常在細菌叢】 土壌、水中、空気中の微生物、自然界における微生物の役割、人体各部位の常在細菌叢とその役割（有用性、有害性） 6－7 回 【感染・感染症の機構と種類】 感染とは、宿主－寄生体関係、日和見感染、感染の成り行き 感染の3要素（感染源、感染経路、感受性の宿主） 感染症の種類・現状 8－10 回 【免疫と生体防御機構】 免疫とは 自然免疫と獲得免疫 液性免疫と細胞性免疫 能動免疫と受動免疫 免疫応答の成立機序 感染防御免疫と腫瘍免疫 11 回 【移植、免疫異常】 拒絶反応、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全 12 回 【感染症の検査】 検体採取時の注意、臨床微生物検査 13 回 【感染症の予防・対策】 予防接種 14 回 【感染症の予防・対策】 滅菌と消毒 15 回 【感染症の予防・対策】 化学療法 16 回 【試験】 ※病院で医師・看護師としての実務経験のある教員が、微生物、感染症、免疫関する看護者として必要な基本的知識について講義します。
授業形態	講義
到達目標	1. 微生物とはどのようなものか、細菌とウイルスの違いを理解する。 2. 細菌の形態、構造、生理、遺伝について理解する。 3. 自然界における微生物の分布とその役割（有用性、有害性）、人体の常在細菌叢と役割（有用性、有害性）について理解する。 4. 感染とは何か、宿主－寄生体関係、日和見感染、感染の3要素、感染症の種類・現状について理解する。 5. 免疫とはどのようなものか、自然免疫と獲得免疫、液性免疫と細胞性免疫、能動免疫と受動免疫 感染防御免疫と腫瘍免疫等について理解する。 6. アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全などの免疫異常、移植免疫について理解する。 7. 予防接種、滅菌と消毒、化学療法などの感染症の予防対策、治療について理解する。
評価方法	授業への取り組み姿勢・参加度（20％），筆記試験（80％）
教科書	『わかる！身につく！病原体・感染・免疫』改訂3版，藤本秀士編，南山堂，2017 『スタンダード微生物学－保健微生物学・感染症学』（第2版），土肥義胤他編，文光堂，2008
参考書・参考文献	『戸田新細菌学』（第34版），吉田眞一他編，南山堂，2013 『現代微生物学入門』（第4版），南嶋洋一他，南山堂，2002 『好きになる免疫学』萩原 清文著，多田 富雄監修，講談社，2001 『院内感染』，富家恵海子，河出書房新社（又は河出文庫），1990 その他、授業の際に紹介する。
履修条件	—
科目等履修	否

履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 人間病態学Ⅱ-2（感染と免疫 各論）

授業コード： 10600

英文科目名称： Microbiology and Immunology-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	1 単位	必修
担当教員			
◎島内千恵子、川越靖之			
専門基礎科目	看護人間学I	3セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	患者と看護者双方の感染を防止し、感染症患者を看護するために、代表的な病原微生物および寄生虫の性質について、看護者として必要な基本的知識を修得する。
授業計画	各種病原微生物および寄生虫の系統的分類、形態、存在する場所、侵入部位及び排泄部位、感染経路、抵抗性、病原性、潜伏期間、臨床症状、感染予防対策、診断、治療など 1－7回 【細菌】 ブドウ球菌、連鎖球菌、肺炎球菌、腸球菌、 髄膜炎菌、淋菌 緑膿菌等ブドウ糖非発酵菌、百日咳菌、レジオネラ 腸内細菌科（大腸菌、赤痢菌、サルモネラなど） ビブリオ科（腸炎ビブリオなど）、インフルエンザ菌、 バクテロイデス、 炭疽菌、セレウス菌、破傷風菌、ボツリヌス菌、クロストリジウム デフィシレ、ウエルシュ菌 乳酸桿菌 ヘリコバクター、カンピロバクター ジフテリア菌、結核菌、癩菌など 8 回 【スピロヘータ、クラミジア、マイコプラズマ、リケッチアなど】 梅毒トレポネーマ、クラミジア、マイコプラズマ肺炎、発疹チフス、つつが虫病など 9-13回 【ウイルス】 ヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、 インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、ムンプスウイルス、 狂犬病ウイルス、エンテロウイルス、風疹ウイルス、 フラビウイルス（デングウイルス・日本脳炎ウイルス・西ナイルウイルスなど） レトロウイルス（HIV、HTLV-1）、肝炎ウイルス コロナウイルス、エボラウイルス他 14－15回 【プリオン、原虫、真菌、寄生虫】 クリプトスポリジウム、トキソプラズマ、マラリアなど カンジダ、アスペルギルス、クリプトコックスなど 線虫（回虫、蟯虫、アニサキスなど）、吸虫、条虫 1 6 回 【試験】 ※病院で医師・看護師としての実務経験のある教員が、看護者として必要な病原微生物および寄生虫による感染に関する基本的知識について講義します。
授業形態	講義
到達目標	細菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、ウイルス、真菌、原虫などの病原微生物および寄生虫の系統的分類、形態、存在する場所、侵入部位及び排泄部位、感染経路、抵抗性、病原性、潜伏期間、臨床症状、感染予防対策、診断、治療等について、看護者として必要な基本的事項を理解する。
評価方法	授業への取り組み姿勢・参加度・課題レポート（20％）、筆記試験(80％)
教科書	『わかる！身につく！病原体・感染・免疫』改訂3版、藤本秀士編、南山堂、2017 『スタンダード微生物学－保健微生物学・感染症学』（第2版）、土肥義胤他編、文光堂、2008
参考書・参考文献	『戸田新細菌学』（第34版）、吉田眞一他編、南山堂、2013 『現代微生物学入門』（第4版）、南嶋洋一他、南山堂、2002 その他、授業の際に紹介する。
履修条件	—
科目等履修	否
履修上の留意点	人間病態学Ⅱ-1（感染と免疫 総論）の理解が前提となるので、復習しておくこと。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 人間常態学・病態学実習

授業コード： 10570

英文科目名称： LaboratoryinPhysiologyBiochemistryMicrobiologyPath

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	1	必修
担当教員			
◎菅野幸子、田中美智子、島内千恵子、川越靖之、邊木園幸、林恵里子			
専門基礎分野	看護人間学 I	3セメスター	45時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	人間常態学・病態学に関する実習を体験し、人体の構造ならびに人間の生理的反応や生命現象、人と共存しているが感染症の原因ともなる微生物について理解を深め、看護の専門性につなげる。
授業計画	01回 実習オリエンテーション 01-05回 【代謝と栄養】（担当：菅野、林） 1. 糖質の定性反応 2. デンプンの酵素加水分解 3. 肝グリコーゲンの抽出と精製 4. DNAの抽出と精製 5. 血液凝固・線溶 06-09回 【病態と感染】（担当：島内、川越、邊木園） 1. 病理組織標本の顕微鏡観察 2. 細菌のグラム染色標本の顕微鏡観察 3. 手洗い・手指消毒前後の手指細菌の検出、手指衛生の効果 4. 鼻腔からのブドウ球菌等の検出 5. 手指・鼻腔以外の人体の部位及び環境からの細菌の検出と常在菌の役割 ※病院での実務経験のある担当教員の指導のもと、人間病態学、感染看護学の基礎となる実習を行う。 10-15回 【生活と生理機能】（担当：田中、林） 1～3. 生理学系実習（2項目は全員、2項目はどちらかの選択） *運動時の循環反応： 運動時の循環反応を検討する *体温調節：体温の測定、冷水刺激による体温調節と循環反応 *循環機能：心電図測定ならびに解析 *感覚：2点弁別法・味覚 4. 人体の構造と機能（講義） 解剖標本示説実習の事前ガイダンスを含む 5. 解剖標本示説実習： 宮崎大学医学部解剖学教室と連携し人体構造に関する知識を学ぶ 6. 総括 *実習項目は状況によって変更することがあります。
授業形態	学内実習
到達目標	1 【病態と感染】通常目に見えない人体の細胞や微生物を、顕微鏡で観察し、手指・鼻腔その他の人体の部位や環境に存在する微生物を培養によって検出する。微生物の存在を実感し、常在菌の役割を理解し、手指衛生などの感染対策への理解を深める。 2 【代謝と栄養】定性試験、酵素反応、生体物質の分離・精製などの実験を行い、生体成分や栄養素の代謝について理解を深める。常態の知識を基盤に、病態や臨床検査値を理解する思考過程を身につける。 3 【生活と生理機能】生活活動における様々な条件で生理機能を測定する実習を行い、自ら体感するとともに、観察と計測を通して、健康な成人の生理的反応やその基盤となる正常な身体のしくみについて理解する。さらに解剖標本示説実習を通して人体の肉眼的構造を理解し、人体構造に関する知識を身につけるとともに、実習を通してご遺体への畏敬の念を学ぶ。
評価方法	実習への取り組み、実習レポート※評価規準・基準は各学習課題の最初の授業で提示する。 3つの学習課題で、それぞれが60点以上/100点満点であることを必須とする（1つでも60点以下の場合は不可となる）。成績は、実習回数の割合を計算に入れ、3つの学習課題の合計点数で評価する。
教科書	・藤本秀士編『わかる！身につく！病原体・感染・免疫』改訂3版，南山堂，2017 ・土肥義胤他編『スタンダード微生物学－保健微生物学・感染症学』（第2版），文光堂，2008
参考書・参考文献	・実習書や資料等を授業内で配布する。 ・講義で使用したテキスト（解剖生理学、カラー人体解剖学）
履修条件	－
科目等履修	不可
履修上の留意点	・実習の実施日や順番は変更することがあります。各担当教員からの連絡に注意してください。 ・実習グループ（1G6人、5人など）は各学習課題で異なります。 ・欠席などの連絡は直接、各学習課題の担当教員にしてください。 ・前日までに実習書をよく読んで、結果の予想をたて、当日の実習を行ってください。
備考・メッセージ	主体的に、自分の頭と手を100%働かせて、生命現象をみて、学びとってください。

講義科目名称： 疾病論・治療論I

授業コード： 10631

英文科目名称： Disease and Treatment I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	1 単位	必修
担当教員			
◎藏元恵里子			
専門基礎科目（分野）	看護人間学I	4 セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	人間の健康現象を把握し、より良い状態へと整えるために医療の現場ではどのように診断・治療が行なわれているのか、医師の専門的な知識・技術と判断過程について理解を深め、医療との協働における看護の役割を考える。
授業計画	1－15回 疾病論治療論 I 【1】外科領域 消化器系・呼吸器系・乳腺系・各種癌疾患の診断と治療】 【2】内科領域 循環器・呼吸器・消化器・内分泌代謝・血液・自己免疫疾患の診断と治療】 【3】救急医療】 各項目は下記の通りです (順不同・詳細スケジュールは1回目の講義時に配布します) ・乳がんの診断と治療 ・肺がんの診断と治療 ・食道がん・胃癌の診断と治療 ・大腸がんの診断と治療 ・肝臓がん・すい臓がんの診断と治療 ・整形外科疾患の診断と治療 ・血液疾患の診断と治療 ・水・電解質・酸塩基平衡 ・腎臓病の診断と治療～腎生検から透析療法まで ・自己免疫疾患～膠原病の診断と治療 ・自己免疫疾患～関節リウマチの診断と治療 ・循環器疾患の診断と治療 ・救急医学の実際 ・薬品取り扱い 特別講師 (県立宮崎病院、宮崎大学医学部附属病院、宮崎生協病院、けいめい記念病院、市民の森病院、千代田病院の先生方)
授業形態	講義形式
到達目標	さまざまな専門領域の疾患を持つ患者への診断・治療の実際を知り、医師の専門的な判断過程と診断・治療方法について理解を深める。
評価方法	各回講義レポート(30%)、筆記テスト(70%)による総合評価を行う。
教科書	図書館の蔵書を利用する その他、講義スライドについての資料を配布します
参考書・参考文献	
履修条件	—
科目等履修	否
履修上の留意点	1回目の講義で基本スケジュール表を配布しますが、緊急手術などによりスケジュールに変動が生じる可能性があります。特別講師の先生方には看護大学学生のために非常に忙しい臨床の時間を割いて講義に来ていただいています。医療現場最前線の先生方の講義です。積極的な受講姿勢を期待します。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 精神保健学

授業コード： 10650

英文科目名称： Mental Health Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	1単位	必修
担当教員			
◎藏元恵里子			
専門基礎分野	看護人間学II	2 セメスター	15時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	社会の中で生きる人々が置かれている状況や属している集団の条件を理解し、精神の健康を保持・増進する活動について学ぶ。また、人の体と心に現れる様々な病態は表裏一体で、心理要因を軽減することが体に現れている病態を直接軽減することにもつながる。本講義では精神発達の基本について学ぶとともに、看護者にとって必要なコミュニケーションスキルや健康行動理論について学習する。		
授業計画	1 回 【導入・精神保健の動向】 精神保健学で何を学ぶのか 精神保健対策のあゆみ精神障がい者の推移について理解する。 2 回 【現代社会の特徴と社会病理】 社会の中で生きる人々が置かれている状況や属している集団の条件を理解し、精神の健康を保持・増進する活動について学ぶ 3 回 【ストレスとその対処】 ストレスとは何か、その対処法 生活の仕方や社会関係の変化により、精神が揺れ動くことをイメージし、その中でどのような精神の働きがあればよいのかを考える。 4 回 【ライフサイクルとストレス】 ライフサイクルにおける精神の発達と精神保健としての心の危機管理 人間の精神発達のプロセスを踏まえて、その時々精神が健康に保たれることの必要性を確認する 5-6 回 【精神の健康が保たれないことによる生活や身体の変化】 精神症状論と状態像を理解し、代表的な精神疾患と看護職者の基本的対応について学習する 物質依存にまつわる精神の健康 抑うつ状態に陥るまでの生活とその回復を促す生活調整 自傷・自殺に至らないための生活の仕方と精神の健康 愛着障害、児童虐待、発達障害、統合失調症、気分障害、神経症性障害、ストレス関連障害、認知症 7 回 【精神保健としての自己理解】 精神保健における自己理解の必要性を考える 自己肯定につながる愛着形成について学ぶ 8 回 最終試験 科目責任者：看護師として大学病院や民間病院での実務経験をもとに、精神医療に関する看護経験をふまえた講義を展開し、本科目での学習を支援します。		
授業形態	講義		
到達目標	1. 人間の健康にとって、精神の働きが重要であることを理解できる。 2. ライフサイクルを通して精神の危機状態を知り、精神保健としての心のありようを理解できる。 3. 大きなストレスに追い込まれた時に、人間の精神と身体がどのように変化するのか理解できる。 4. 精神の健康を保つための具体的方法について理解できる。 5. 心の健康を保持・増進するため自己理解の必要性を理解する。		
評価方法	各回講義レポート（30%、授業への参加状態を考慮）、最終試験（70%）による総合評価を行う。		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 第6版、医学書院 「生涯人間発達論 第3版：人間への深い理解と愛情を育むために」服部祥子、医学書院、2020		
参考書・参考文献			
履修条件	—		
科目等履修	否		
履修上の留意点			
備考・メッセージ	初回の講義で評価方法も含めて具体的に説明します。		

講義科目名称： 疾病論・治療論Ⅱ

授業コード： 10680

英文科目名称： Disease and Treatment Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	必修
担当教員			
◎川村道子			
専門基礎分野	看護人間学Ⅱ	3セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	精神の病の典型例について、医療の現場ではどのように診断・治療が行われているのかを学び、精神の病がいかなる生活過程で生じるのか、またどのような職種がどのように働きかけて回復過程を辿るのかを学ぶ。		
授業計画	01回 【導入】 ガイダンス 社会生活を送るための精神の働きが病に追い込まれた際にどのようなことが生じるかをイメージし、人間の精神が病むこととはどういうことなのかを考える。 02-08回 【典型的な精神の病について、医学的な立場から疾病をどう捉え治療するか(治療の歴史と変遷をふまえて)特徴を知り、診断・治療について、その発症と回復の過程を、患者の生活と重ねて描く】 【特別講師】 ・気分障害（うつ病・躁病・双極性障害） ・認知症 ・統合失調症 ・不安障害（恐怖性不安障害・パニック障害など） ・摂食障害 ・広汎性発達障害 ・アディクション 09-14回 【精神の病からの回復を促すための様々な療法を理解する】 【特別講師】 作業療法の理論と実際 心理療法の理論と実際 音楽療法の理論と実際 認知行動療法の理論と実際 ピアサポート・当事者研究の理論と実際 ソーシャルスキルトレーニングの理論と実際 15回 【精神の病の発症と回復の過程を、患者の生活と重ねて描く】 ・患者や家族はどのような体験をしているのかを描く ・患者側の視点から、生活の不自由さを捉える ・生活をどのように整えることが回復を促進するのかをイメージする *オムニバス形式の講義であるが、全て講師が精神科病院あるいは地域での精神障がい者支援施設に在職しており、実務経験をもとに精神の病の診断・治療について講義をします。 *科目責任者は、看護師として大学病院や民間病院での実務経験をもとに、精神科病院の医療現場における多職種連携について講義をします。		
授業形態	講義		
到達目標	1. 主な精神の病の特徴について理解できる。 2. 精神の病が生じる過程を理解する。特に、どのような生活を送ることによって、どこがどのように変化して精神の病になっていくのかを、生活の積み重ね（生活過程）から見つめることができる。 3. 典型的な精神疾患の他の精神障害の特徴について理解できる。 4. 精神の病に対して行われるさまざまな治療について理解できる。 5. 治療は、病になった過程を健康な方向に辿らせるだけではなく、再び病にならないように行われることを理解できる。		
評価方法	テスト（60％） 授業への参加状況（40％） ■ 講義で取り扱った精神の病それぞれについて①病の成り立ち②診断③治療の基本知識、周辺職種が病からの回復を促す為に行っている様々な療法の理論と実際の理解度をテストによって評価します。 ■ 科目責任者が配布するワークシートを事前学習や講義の振り返りに活用しながら受講してもらいます。ワークシートは全ての講義終了時に提出します。これによって授業への参加状況を評価とします。		
教科書	系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①, ② 第5版（第2刷） 医学書院		
参考書・参考文献			
履修条件			
科目等履修	可		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： 保健学Ⅰ

授業コード： 10700

英文科目名称： Health ScienceⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	2 単位	必修
担当教員			
◎中尾裕之・中村千穂子			
専門基礎科目	看護人間学III	3セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	公衆衛生や予防の概念，公衆衛生の考え方が生まれてきた歴史について学ぶ。また，疫学の考え方，集団の健康状態を表す健康指標や把握する方法，人口統計やさまざまな統計資料から健康課題を見出す方法について学ぶ。		
授業計画	1-3回	【公衆衛生の概念】 ・公衆衛生の目的，対象，方法 ・健康の概念 ・予防の概念 ・公衆衛生の歴史 ・国際協力（中村）	
	4-9回	【疫学概論】 ・疫学の概念 ・健康指標 ・相対リスクとオッズ比 ・疫学的因果関係（中尾）	
	10-15回	【保健統計】 ・人口静態統計と生命表 ・人口動態統計 ・厚生統計 ・母子保健指標 ・e-Stat（中尾）	
	16回	【試験】	
授業形態	講義		
到達目標	①公衆衛生の概念について説明できる。 ②予防の概念について説明できる。 ③健康障害と相対リスクについて説明できる。 ④疫学的因果関係の推定について説明できる。 ⑤人口統計，疾病構造，保健・医療・福祉に関する基本的統計や指標について説明できる。		
評価方法	講義への参加度（40%），授業内外での学習成果物(20%)，試験（40%） ※評価規準・基準は最初の講義で配布		
教科書	医療情報学研究所編：『公衆衛生がみえる』メディックメディア		
参考書・参考文献	厚生統計協会：『国民衛生の動向』		
履修条件			
科目等履修	否		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： 保健学Ⅱ

授業コード： 10710

英文科目名称： Health Science Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	2 単位	必修
担当教員			
◎中尾裕之			
専門基礎科目	看護人間学III	7セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	根拠に基づいた看護を実践するための基礎となる疫学について学ぶ。		
授業計画	1-15回	【疫学】 ・スクリーニング ・年齢調整 ・疫学研究方法 ・曝露効果の指標	
	16回	【試験】	
授業形態	講義		
到達目標	①スクリーニングの概念と方法について説明できる。 ②年齢調整の概念と方法について説明できる。 ③代表的な疫学研究方法について説明できる。 ④相対リスクと寄与リスクについて説明できる。		
評価方法	講義への参加度（40%），授業内外での学習成果物(20%)，試験（40%） ※評価規準・基準は最初の講義で配布		
教科書	医療情報学研究所編：『公衆衛生がみえる』メディックメディア		
参考書・参考文献			
履修条件	保健学Ⅰ 既取得		
科目等履修	否		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： 看護ネットワーク論

授業コード： 10720

英文科目名称： Community Health Networking

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	1 単位	必修
担当教員			
◎中村千穂子 小野美奈子 佐藤信人			
専門基礎科目	看護人間学III	7セメスター	15時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	健康上の問題を有する人々が、既存の制度を利用しながら回復のための新たな社会関係を形成していく過程や、地域の人々が自分自身でより健康的な生活が送れるように、ネットワークを活用していく過程を学ぶことを通して、人々が健康的に生活していくためのネットワークの必要性和看護職者の役割について理解する。
授業計画	1－2回 【ネットワークの概念と看護における必要性】 ・ネットワークの概念について理解する。 ・ネットワークの必要性について実習体験から理解する。（中村） 県内市町村の保健師として勤務。実務経験をもとにネットワークの概念について話をします。 3－4回 【地域包括ケアシステム】 ・地域包括ケアシステム構築のプロセス （佐藤） 5－6回 【高齢者の退院支援と地域連携ネットワーク】 ・退院をめぐる環境変化と現状を実践例から理解する。 ・退院支援と退院調整について事例のアセスメントをする。 ・退院支援と退院調整の実際と地域連携ネットワーク形成について考察する。（小野） 県内保健所に保健師として勤務。実務経験をもとにネットワークの形成について話をします。 7－8回 【ネットワークの形成と看護職者の役割】 ・臨地実習Ⅲの体験を共有し、ネットワークの形成と看護職者の役割についてグループディスカッションを通して見出す。（中村、小野）
授業形態	講義
到達目標	1. ネットワークの概念及び看護における必要性について説明できる。 2. 地域包括医療システムを築く過程とその実際について理解する。 3. 高齢者の退院支援の実際と地域連携ネットワークについて説明できる。 4. ネットワークを形成、成長、機能させるための看護職者の役割について理解する。
評価方法	グループディスカッションへの参加（20%）最終レポート（80%） 評価規準・基準は第1回目の授業で配付します。
教科書	特に教科書を提示しないが、参考文献等については随時紹介する。
参考書・参考文献	
履修条件	臨地実習Ⅱ既修得
科目等履修	不可
履修上の留意点	7－8回目の講義は臨地実習Ⅲでの事例を用いてグループワークを行います。
備考・メッセージ	これまでの実習体験を振り返りながら講義を進めていきます。他職種との協働や連携、地域とのつながりについてどのような体験があったかについて振り返っておきましょう。

講義科目名称： 医療経営論

授業コード： 10730

英文科目名称： Economics of Medical Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4 年	2 単位	選択
担当教員			
◎佐藤信人			
専門基礎科目	看護人間学III	8セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	・医療制度の現状と課題・制度改革について理解する。 ・保健・医療・福祉の連携の必要性について理解する。 ・医療経営の実践について理解する。 ・ケアマネジメントプロセスについて理解する。		
授業計画	1～3回 【医療制度の現状と課題、制度改革】 1～3回 超少子高齢社会の社会保障制度への影響、医療制度の現状と改題等について考える。 4～5回 【医療制度・医療保険制度の仕組み】 6～9回 【保健・医療・福祉の連携の必要性とケアマネジメント】 現 10～14回 【医療経営への挑戦・グループワーク】 訪問看護ステーションの経営に例をとった演習 ・制度概要 ・経営主体、利用者、営業収支等の実態 ・経営理念の設定 ・マーケットリサーチ ・設置基準、人員基準 ・報酬（医療・介護）基準 ・発展のための方法（政策） 15回 まとめ】 16回 【試験または課題】		
授業形態	講義及びグループワーク		
到達目標	何のために医療を経営するのかを考え、医療経営の価値を発見することができる。 医療と経営はどのように関連しているのかを考え、医療経営の価値を実現する手法を発見することができる。		
評価方法	試験（80%）、授業参加度（20%）		
教科書	教員が適宜配布する。		
参考書・参考文献			
履修条件			
科目等履修	否		
履修上の留意点	問題意識を持って臨むこと。		
備考・メッセージ	積極的に授業に参画すること。		

講義科目名称： 医療・看護情報

授業コード： 10740

英文科目名称： Medical and Nursing Information

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	1 単位	必修
担当教員			
長坂猛、特別講師（宇都由美子）、久野暢子、勝野絵梨奈			
専門基礎科目	看護人間学III	7セメスター	15時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	医療・保健・福祉の分野における情報科学とその活用システム、ならびに看護職者として必要な専門知識や課題について理解し、実践的な判断規準と対応について学ぶ。		
授業計画	第01回 【看護情報・医療情報とは】 7月5日（火）3限：中講義室4 ●看護と医療情報 ●看護情報の標準化 ●患者情報の共有化と情報倫理 第02回 【看護情報の標準化】 7月5日（火）4限：中講義室4 ●看護診断の概念と歴史 ●看護診断過程とその活用 ●クリティカルパスの看護実践における意義 第03-05回 【看護情報学の基礎とその動向】 7月12日（火）2-4限：中講義室4 ●看護と医療の情報とは ●看護と医療情報のシステム化 ●看護情報の標準化 ●地域医療との連携をはかるシステム構築 ●患者情報の共有と情報倫理 ●個人情報の保護と活用のバランス ●看護情報学の発展と展望 特別講師は、医療情報システムの開発に関わり、病院の管理者としての実務経験を持ったかたです。 第06回 【情報の検索】 7月19日（火）3限：情報処理室／LL教室 ●ウェブを用いた情報検索の実際 ●知りたい情報と文献へのアクセス 第07回 【筆記試験】 7月19日（火）4限：中講義室4 ●試験範囲は事前に提示します。 第08回 【数値データの処理と評価】 8月2日（火）3限：情報処理室／LL教室 ●与えられたデータからどう情報を得るのか ●統計的に処理されたデータの評価 第09回 【まとめ】 8月2日（火）4限：中講義室4 ●試験の講評 ●まとめ		
授業形態	講義		
到達目標	1. 医療・保健・福祉の分野において、対象に関する情報がどのように収集され活用されるのかについて理解できる。 2. 看護における情報概念を理解し、対象ならびに協働する人々と情報を共有するための具体的な方法やシステムについて理解でき、情報化していくための判断規準を持つことができる。 3. 看護学の新しい分野として確立されつつある「看護情報学」の動向を知り説明できる。		
評価方法	授業時もしくは授業後の成果物（20%）＋筆記試験（80%） 到達目標をふまえて、授業内容がどの程度身についているかを評価する。		
教科書	教科書は指定せず、講義資料を配布する。		
参考書・参考文献	・薄井坦子著；「何がなぜ看護の情報なのか」日本看護協会出版会 1992. ・宇都由美子著；看護情報のシステム化：－コンピュータ導入の考え方と実際－ 医学書院 1992. ・太田勝正 編著；「エッセンシャル看護情報学」第2版 医歯薬出版 2014.		

履修条件	－
科目等履修	否
履修上の留意点	オムニバス授業であるため、実施日によって教室が違うことがあるので、注意すること。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 看護と倫理

授業コード： 10745

英文科目名称： Nursing and Ethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
◎毛利聖子 他特別講師			
専門基礎分野	看護人間学Ⅲ	4セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護職者は、人々の人権を護る立場で生活調整を支援する専門職であることを自覚し、看護や医療における倫理の歴史の変遷について理解し、看護専門職者として倫理観の基礎を養い、一貫した判断・行動をとれるようになることを目指す。
授業計画	1回 【導入】 授業計画をもとに授業の全体像および展開について、概略を把握する 看護・医療専門職者に、倫理が問われる意義 （＊科目責任者が、医療現場で看護師としての実務経験をもとに、倫理を学ぶ意義について話します） 2-5回 【看護や医療における倫理の歴史的概要】 看護・医療の歴史の変遷 倫理の原点（ヒポクラテス） 看護の始まりとナイチンゲール 日本における看護の変遷 倫理的態度を歴史上の人物から学ぶ 6-7回 【倫理が問われてきた歴史的及び社会的背景】 戦時に突出した人権問題と倫理 研究と人権の対立 （ニュールンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言） （タスキギー梅毒事件） 医療現場における倫理についての世論の高まり （カレン裁判、終末期をめぐる議論） 8-11回 【医療現場の様々な倫理的問題と看護】 映像や事例を通して医療現場における様々な倫理的ジレンマが生ずる状況を知り、臨床現場で直面する倫理的問題について看護の観点から考える ・脳死・植物状態（遷延性意識障害）の看護と倫理 ・倫理原則 ・医療現場における倫理の検討システム：倫理委員会 ・看護実践に潜む倫理的問題（グループワーク） 12回 【看護実践における倫理的問題】 【倫理的意思決定の実際】 看護実践上の倫理的概念及び、倫理的ジレンマの状況下における意思決定の考え方を、事例を通して理解を深める ＊特別講師：吉田希美（宮崎県立延岡病院 癌看護専門看護師） 専門看護師として総合病院に勤務し、臨床の現場での実務経験をもとに、看護実践における対象の意思決定支援の実際について、事例を通して話をしていただく。 13回 【医療現場における患者の日常生活の質を支える倫理実践】 特別講師：大脇裕子（宮崎県立日南病院） 現在の進む医療技術の進歩で延命が可能になり、生活の質が問題になる中、終末期の在り方を始め、本当の意味で対象の立場に立った看護実践とは何か、その人らしさを大切にする支援とは何か、患者や家族の自立性とは何か等、事例を通し、日常生活の質を支える立場から看護を考える。 14回 【医療の進歩に伴う倫理的課題とその動向】 進む医療技術の中で起こってきている倫理的問題についてその実態を知り、今日的課題について関心を広げ、看護者としての責任と倫理的自覚を高める。 （IPS細胞、ES細胞、遺伝子治療などの倫理的問題） 15回 【まとめ】 看護者の立場から倫理的判断を下すための基礎知識 「看護師の倫理綱領」を読み、具体的な像を描く 情報倫理について（事例） 課題レポートについて説明 ＊担当教員は、総合病院での実務経験があり、それらをもとに医療現場における倫理の必要性や、倫理が問われてきた背景（歴史的事実も含めて）について講義し、看護師になる上で必要な看護と倫理の概念について教材を工夫し、授業内容を展開します。
授業形態	講義
到達目標	1 看護や医療における倫理の歴史的概要・社会的背景について知り、史実から倫理的態度を学ぶ。 2 実践現場における倫理的ジレンマ状況を知り、対象の意思決定を支援する看護を行うために、対象の立場から実践できる能力が必要であることを理解する。 3 現在の諸問題における看護職者に求められる倫理観を自覚できる。 4 今日的課題と今後の課題について考察する。
評価方法	授業の出席・参加姿勢（15%）、授業後のレポート（60%）、課題レポート（25%）より、総合的に評価します。評価規準・基準は、最初の授業で配布。
教科書	随時資料配布

参考書・参考文献	
履修条件	－
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 国際看護論

授業コード： 10760

英文科目名称： International Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	1単位	選択
担当教員			
◎中村千穂子			
専門基礎科目	看護人間学III	7セメスター	15時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	各国・地域の健康問題と看護の現状は、歴史の発展や社会の変遷によってもたらされているという視点を持ち、国際社会の一員として看護の場で活躍できるよう、基礎知識を学び、視野を広げる。
授業計画	1 回 【国際看護の概念】 国際看護の概念 2 回 【国際看護の概念】 ・在日外国人に対する医療制度や医療の現状 ・海外在留邦人の医療問題と現状 3 回 【異文化理解と国際看護】 文化を考慮した看護 国際看護活動に必要な能力 4 回 【国際機関とその役割】 国際保健に関する主な機関とその役割について 5-6回 【グローバルヘルスの現状と課題】 世界の保健医療の現状と課題 7-8回 【国際協力の意義とその活動の実際】 途上国の母子保健の現状と看護 グローバルな視点を持った国際協力における看護の役割 国内外で看護師の実務経験のある教員が、経験を活かした講義・演習を実施する。
授業形態	講義、グループワーク
到達目標	1. 各国・地域の健康問題と看護の現状を知る。 2. 異文化の中での看護について考える 3. 国際協力の意義とその活動の実際について知る。 4. 国際看護活動を推進する機関について理解する。
評価方法	授業時・授業後の学習成果物（40％）、課題レポート（60％）
教科書	文献は随時紹介
参考書・参考文献	
履修条件	—
科目等履修	否
履修上の留意点	特別講師の時間割が変更になる場合があります。
備考・メッセージ	国内国外でどのような健康問題や対策があるのかについて新聞やニュース等に関心を持ち目を通すようにしましょう。

講義科目名称： 看護学原論Ⅱ

授業コード： 10790

英文科目名称： Principles of NursingⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	1 単位	必修
担当教員			
◎毛利聖子、山岸仁美、坂井謙次、 他			
専門分野	基礎看護学	2セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	教材事例に看護理論の適用を試み、看護するための思考のプロセスを修得する		
授業計画	1 回	【導入 ガイダンス】 看護学原論Ⅰでの自己の学習課題を念頭において、看護するために必要なものの見方・考え方を身につけて行く。 看護学原論Ⅰで学習した看護するための思考のプロセスを、教材事例にくり返し適用し、看護の対象である他者のために自分のアタマをはたらかせるコツをつかみ修得する。	
	2－14回	*理論を適用し、教材事例を展開する。ほおっておけない！と合点できるように。 【事例の展開 1～3】 看護実践方法論―看護過程展開モデルの活用 ・看護するためには、対象特性を立体的にとらえて、対象の生活過程の特徴を浮き彫りにする必要がある ・発達段階からの判断根拠 ・健康障害を看護学的にとらえる→回復過程を応援する ・対象の身体内部で起こっていることを我が身につくり出す。部分と全体をつなげてみる ・対象特性から生物体の必要条件を導き出す ・対象の生活体としての反応をとらえて、追体験する ・相手の位置に移動する試み（患者―その家族）相手の感情を予想する ・その人らしさを大切にしたい看護とは。生活体としての反応 ・浮き彫りになった生活過程において発生している看護上の問題を見出す ・ロールプレイや模擬患者への関わりを通し、実践する ・看護を評価するとは	
	1 5 回	*事例を展開しながら、グループ学習を中心とする授業（グループ討議・全体討議） 【まとめと評価】 事例をもとに看護実践方法論の理解を深める ・「看護過程展開モデル」を見て、事例展開とのつながりを討議する 自己の看護者としての対象の見つめ方の特徴を認識し、自己課題を設定する。 課題レポートについて説明 <	

講義科目名称： 災害看護学

授業コード： 11360

英文科目名称： Nursing for Disaster(Catastrophy／Trauma)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4 年	1 単位	選択
担当教員			
◎勝野絵梨奈、武田千穂、他特別講師			
専門科目	体験・統合科目Ⅱ	8マスター	15時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	災害が地域や人々の健康と生活に多大な影響を及ぼすことを理解し、他職種と連携しながら、被災者のおかれた環境を基盤に、災害サイクル各期で個人あるいは集団に対して看護職が果たすべき役割と機能について学ぶ。		
授業計画	1-2回	【災害に関する基礎知識をふまえ、災害とは、災害看護の概要について理解する】 ・災害発生の伴う救護組織と災害看護の歴史的歩み、法制度（勝野） 災害、災害看護の定義 災害の種類と被災状況の特徴 ・災害看護の対象とその支援について（勝野） 被災者とは 災害が被災者の健康や生活に与える影響	
	3-5回	【災害サイクルに応じた災害看護の実際と課題について理解する】 ＜災害急性期～亜急性期における看護の実際と課題について＞ ・災害対応における7つの原則 CSCATTT ・トリアージ（triage） ・災害派遣医療チーム（DMAT：disaster Medical Assistance Team） ＜災害中長期における看護の実際と課題について＞ ・災害復興、被災者の生活再建 ・被災者の生活に必要なリハビリテーション ・他職種との連携 講師；鵜野和代氏 ＊救急看護認定看護師として、地域中核病院に勤務。 災害支援ナースとして、被災地講における災害支援活動に関する実務経験をもとに講義する ＜災害時に必要な感染対策について＞（武田） ・災害と感染症 ・感染症が発生しやすい災害時の環境的要因 ・避難所アセスメントと感染対策	
	6-7回	【地域における災害時及び日常的な危機管理の重要性と看護の役割について理解する】 ＜口蹄疫被災農家への支援の実際 ～保健師の立場から～＞ ・被災農家の健康を守る継続的支援 ・災害対策にあたる職員の健康管理 講師；渡邊寿美氏 ＊保健師として、口蹄疫被災農家への支援活動に携わった実務経験をもとに講義する ＜宮崎県内での発生が想定される大規模災害およびその対策について＞ ・南海トラフ巨大地震、情報共有、行政との連携 講師；宮崎県危機管理課 防災計画担当者 ＊本県における危機管理体制の整備に関する実務経験をもとに講義する	
	8回	【まとめ】（勝野）	
授業形態	講義		
到達目標	1. 災害および災害看護に関する基本的知識を理解できる。 2. 災害サイクルに応じた看護の実際と、災害が人々の健康や生活に及ぼす影響について理解し、看護における支援のあり方と課題について考えられる。 3. 地域における健康危機管理およびその対策にかかわる看護職の役割について理解できる。 4. 災害対応にかかわる職種間および組織間連携のあり方について理解できる。		
評価方法	評価対象および評価配分は、①授業時・授業後の学修成果物（40％）、②最終課題レポート（60％）である。それぞれの評価規準および評価基準を以下に示す。		

	①授業時・授業後の学修成果物（40%） ●評価規準 1 課題内容に対して、必要な専門知識をふまえて過不足なく記述されているか 2 自分の考えを、根拠とともに明確に表現しているか 3 提出期日が守られているか ●評価基準 - A 規準に十分に達している - B 規準に達している - C 規準に最低限達している ② 最終課題レポート（60%） （評価においては、以下の評価規準および評価基準で構成したルーブリックを活用する）※事前配布 ●評価規準 1 課題に対する内容が、過不足なく記述されているか 2 根拠に基づき、論理的な説明ができていないか 3 文章の体裁は整っているか（誤字脱字がない、文体の統一、指定された文字数） 4 引用文献、参考文献を明示し、自身の意見と区別しているか ●評価基準 - S 特に優秀な水準で規準に達している - A 優秀な水準で規準に達している - B 規準に達している - C 十分ではないが規準に達している - D 規準に達していない
教科書	
参考書・参考文献	系統看護学講座 統合分野「災害看護学・国際看護学」第4版 医学書院, 2022 講義資料（プリント配布）
履修条件	—
科目等履修	否
履修上の留意点	オムニバス方式の授業進行となりますので、各自、到達目標を意識して取り組んでください。 授業日程は、講師の都合で変更する可能性があります。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 精神看護学概論

授業コード： 10890

英文科目名称： Nursing Care (Psychiatric)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
◎川村道子			
専門分野	精神看護学	4セメスター	15時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	人々のライフサイクルのあらゆる過程における精神の健康の保持・増進・疾病予防・疾病からの回復を促すための看護の役割と機能を学修する。
授業計画	01-02回 【精神看護をおこなうための基本概念】 人間の精神発達や精神保健の考え方を踏まえながら、精神看護の目的、対象、方法を身近な事例を通して学ぶ。 03回 【精神の健康レベルに応じた看護の役割】 精神の病に追い込まれる過程と回復過程 身体が精神に及ぼす影響、精神が身体に及ぼす影響 精神看護と精神科看護 04回 【精神保健医療看護の沿革・歴史】 精神医保健医療看護の歴史とその変遷 精神保健法の概略と精神科看護との関連 精神保健福祉法の目的と患者の処遇に関する遵守事項 現代社会における精神看護のニーズの動向 日本の精神科医療・看護の現状 05-06回 【精神看護を行うための多様な考え方】 レジリアンス エンパワーメント ストレングス ストレスコーピング 精神力動 07回 【精神看護を必要とする人々の生活とソーシャルサポート】 当事者の体験記の読み取り 地域生活を支える様々な資源や仕組み 08回 (0.5) 【まとめ・試験】 ＊科目責任者は、大学病院及び民間病院での看護師としての勤務経験を有し、その勤務経験をもとに講義を行います。
授業形態	講義
到達目標	1 精神看護に関連する主な概念について理解できる。 2 精神保健医療の沿革・歴史変遷を辿り、精神看護に関わる保健の現代の動向について理解できる。 3 精神の健康レベルに応じた看護の役割について理解できる。 4 精神看護を必要とする人々の生活とソーシャルサポートについて理解できる。
評価方法	試験（80％） 毎回の講義直後の感想カードへの記述内容による授業の参加状況（20％） ■試験と感想カードは、精神看護に関連する主な概念の理解、精神保健医療の沿革・歴史変遷で捉えた法案と法案成立の契機となった出来事、や関連人物、精神看護に関わる保健医療福祉の方向性、精神看護が必要なあらゆる場面での看護者の役割、関連講義で学修した内容を想起したソーシャルサポートの実際、の理解度を評価観点としてみます。
教科書	系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① ② 医学書
参考書・参考文献	
履修条件	-
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 精神看護論演習

授業コード： 10910

英文科目名称： Issues in Psychiatric Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4 年	1 単位	選択
担当教員			
◎川村道子			
専門科目	精神看護学	8セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	すべての人々の精神の健康を維持・増進するために果たすべき看護の役割を自覚し、あらゆる場面で精神看護実践が行えるための能力を高める。
授業計画	1-13回 【精神の病に陥った人の看護場面から回復を促すための看護について考える】 1. 自らの看護場面で、対象の回復を促すことに繋がったと考えられる場面を選定し、他者にも場面が一義的に描けるようにプロセスレコードに再構成する。 2. プロセスレコードをグループで共有し、回復を促すことに繋がったのはなぜかという観点でディスカッションを行う。 3. 2を行う際には、対象特性をどのように捉え、日常生活をどのようにアセスメントしたか、を前提にする。 4. ディスカッションによって得られた内容についてプレゼンテーションを行う。 14-15回 【自己の精神看護観を明確にする】 「看護の視点」から課題文献を読み込み、人間の精神の発達、健康な生活を送るための精神のあり方を再確認し、全体討議により精神看護の見識を深める。 ＊科目責任者は、大学病院及び民間病院での勤務経験があり、実務経験をもとに演習支援をしています。
授業形態	演習
到達目標	1. 精神の病に陥った人の回復を促すための看護展開能力が高まる。 2. 精神科病棟以外での自己の看護体験を精神看護という観点から振り返り、全ての人の精神の健康の保持・増進につながる看護実践の課題を模索することができる。 3. 精神看護に関する文献から、精神の健康を維持・増進することを支援することについて考えを深めることができる。 4. 自己の看護実践の振り返りや文献検討から見出された内容に伝える能力が高まる。
評価方法	プレゼンテーション (70%) 課題レポート (30%) ■受講者一人一人が精神看護の見識を深めていくことに貢献できそうな自己の看護体験（プロセスレコード）に基づきディスカッションを行う方法と取る。話題提供者がレジメを作成してプレゼンテーションした上で、グループディスカッションを運営する。従って、ディスカッションのための資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションの運営、を評価観点とする。 ■最終的に自己の精神看護観をレポートする。評価観点は、これまでの看護体験を土台にした自己の看護観の発展として記述されているか、そこには、1年次から積み上げられてきた学習の中身が具体的に記述されているか、他者に伝わる論述になっているか、提示した指定の形式を遵守した記述となっているか、を評価観点とする。 ■
教科書	
参考書・参考文献	ぼくらはみんな生きている：坪倉雄介著, 幻冬舎文庫, 2003
履修条件	—
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 公衆衛生看護方法Ⅰ

授業コード： 10950

英文科目名称： Public Health Nursing Care Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	必修
担当教員			
◎中村千穂子、小野美奈子、松本憲子、高橋秀治、高本佳代子、河野朋美			
専門科目	公衆衛生看護学	5セメスター	45時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	公衆衛生看護における地区活動の方法論について理解し、地域での看護活動の展開のために必要な知識と技術について理解する。		
授業計画	1回	健康相談 公衆衛生看護活動における保健指導について 健康相談とは	試験 <

講義科目名称： 公衆衛生看護学Ⅲ

授業コード： 10970

英文科目名称： Public Health Nursing Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	2	保健師課程
担当教員			
◎中村千穂子、小野美奈子、高本佳代子			
専門分野	公衆衛生看護学	7 セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	公衆衛生看護の概念や家族保健指導、公衆衛生看護実践を向上させる研究について理解するとともに、地域の特性を生かした社会資源の開発とその管理について理解する。		
授業計画	1-3回	【公衆衛生看護活動の理念・目的、活動原則】 ・公衆衛生看護活動の理念・目的、公衆衛生看護活動の原則について理解する。 ・「地域における保健師の保健師活動指針」を題材に公衆衛生看護活動の本質について理解する。	
	4回	【公衆衛生看護実践を向上させる研究】 ・公衆衛生看護実践を向上させる研究的取り組みの意義と方法について理解する。 P D C A サイクルと研究とのつながりを理解する。 ・調査研究、評価研究、事例研究について理解する。	
	5-6回	【保健師活動と記録】 ・記録の目的・機能、内容・ポイント、保管、報告について理解する。	
	7-8回	【家族保健指導】 ・家族援助に関する諸理論を理解する。 ・家族の発達段階と課題を理解する。 ・事例を元に家族アセスメント、家族支援計画、支援方法、評価について理解する。	
	9-10回	【地域の特性を生かした社会資源の開発とその管理】 ・地域の健康課題解決のために、地域に不足する社会資源を地域特性を活かして開発する必要性と方法について学ぶ。	
	11回	【公衆衛生の理念①】 ・公衆衛生看護活動の歴史 ・国際協力	
	12-15回	【公衆衛生の理念②】 ・公衆衛生の理念について理解する。	
	試験	試験	
		すべての教員、特別講師は保健所・市町村にて勤務経験があり、実践活動に基づき公衆衛生看護活動についての講義および公衆衛生の理念について講義をします。	
授業形態	講義		
到達目標	1. 公衆衛生の理念と公衆衛生看護の目的、活動原則について理解する。 2. 公衆衛生看護実践を向上させる研究的取り組みの意義と方法について理解する。 3. 家族保健指導について理解する。 4. 地域の特性を生かした社会資源の開発とその管理について理解する。 5. 保健師活動と記録について理解する		
評価方法	授業感想（10％）、課題レポート（10％）、期末テスト（80％）により評価する。 評価規準・基準は第1回目の授業で配布します。		
教科書	村島幸代、岸恵美子編集：保健学講座1 公衆衛生看護学概論、メヂカルフレンド社、2022 岸恵美子、平野かよ子、村島幸代編集：保健学講座2 公衆衛生看護支援技術、メヂカルフレンド社、2022 野村陽子、加藤典子編集：保健学講座5 保健医療福祉行政論、メヂカルフレンド社、2022		
参考書・参考文献	渡辺裕子・鈴木和子著：家族看護学-理論と実践、日本看護協会出版会		
履修条件	保健師課程履修者、6セメスターまでの必修科目の全ての単位修得		
科目等履修	否		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： 公衆衛生看護学Ⅴ

授業コード： 10990

英文科目名称： Public Health Nursing Ⅴ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4 年	2	保健師課程
担当教員			
◎松本憲子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	地域で生活するすべての人々が「安全で安心して健康的に暮らせるまちづくり」を目指して、地域の組織・機関の連携やケアシステムについて学ぶ。		
授業計画	1回	【公衆衛生看護管理】 導入 1. 地域への責任の考え方 2. 地域看護管理 3. 健康危機管理 (松本)	
	2回	保健所保健師として、地区担当の経験を持つ保健師が話をします。 【地域ケアシステム】 1. 地域ケアシステム 2. 概念・発展過程 3. 認識の形成と目標設定 4. 個人と組織の役割・機能 5. システム構築のポイント (松本)	
	3-4回	保健所保健師として、業務担当の経験を持つ保健師が話をします。 【地域ケアシステムの実際】 1. 地域ケアシステムの構築の実際 (特別講師：保健師)	
	5-8回	市町村保健師で地域ケアシステムを担当している保健師が話をします。 【学校保健】 1. 学校保健との連携 2. 学校における保健活動の実際 (特別講師：養護教諭)	
	9-12回	養護教諭として、小学校での勤務経験を持つ養護教諭が話をします。 【産業保健】 1. 産業保健との連携 2. 産業における保健活動の実際 (特別講師：産業保健師)	
	13-15回	九州電力で産業保健活動を行っている保健師が話をします。 【公衆衛生看護のまとめ】 1. 地域看護管理・健康危機管理の実際について共有 (松本)	
	16回	保健所保健師として、勤務した経験を持つ保健師が話をします。 試験	
	授業形態	講義	
到達目標	1. 公衆衛生看護管理の目的とその機能について理解する。 2. 地域ケアシステムとその構築時のポイントについて理解する。 3. 学校保健・産業保健の活動と実際について理解できる。		
評価方法	講義への取り組み（20％） 試験（80％）		
教科書	岸恵美子 平野かよ子 村島幸代編集 保健学講座 2 公衆衛生看護支援技術 メヂカルフレンド社 岸恵美子 村島幸代編集 保健学講座 3 公衆衛生看護活動展開論 メヂカルフレンド社		
参考書・参考文献	国民衛生の動向 厚生労働統計協会		
履修条件	6セメスターまでの必修科目のすべての単位修得		
科目等履修	否		
履修上の留意点	公衆衛生看護管理実習での学びを重ねながら講義を受けること。		
備考・メッセージ			

講義科目名称： 公衆衛生看護管理実習

授業コード： 11000

英文科目名称： Nursing Practicum(Community Management)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4 年	1	保健師課程必修
担当教員			
◎小野美奈子他			
専門科目	公衆衛生看護学	8セメスター	45時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	地域で生活するすべての人々が安全で安心して健康的に暮らしていくことを支援するために実施されている公衆衛生看護における看護管理や、地域の健康危機管理について理解を深める。
授業計画	実習方法 公衆衛生看護における看護管理や、地域の健康危機管理について学生を持つ問題意識別に宮崎県内の8か所の保健所に3～4名の学生を配置し、実習を行う。 実習場所 県内 8 保健所：高千穂保健所、延岡保健所、日向保健所、高鍋保健所、中央保健所、日南保健所、都城保健所、小林保健所 実習期間 1週間 実習内容 1. 公衆衛生看護における看護管理や、地域の健康危機管理について自己の問題意識を明確にする。 2. 自己の意識や課題を基に、保健所において、関連する保健活動に参加し、関係者の連携や協働の在り方及び看護管理の実際について学ぶ。 3. 既存資料を基に事例紹介や事例検討・課題学習を通して、学びを深める。 4. 2. 3を基に、学びを統合し、公衆衛生看護における看護管理や、地域の健康危機管理における保健師の役割について考察する。 5. 保健所実習での自己の学びを発表すると同時に学生全体で学びを共有する。 6. 実習後に「公衆衛生看護管理における保健師の役割」についてレポートを提出する。 ＊実習内容の詳細は、実習要項に示す。 ＊実習担当教員は、保健師として、保健所、市町村に勤務した経験を持ち、実務経験を基に指導を行います。
授業形態	臨地実習
到達目標	1. 実習地域の”あるべき姿“を理解し、そこに関わる人・家族・集団・組織・機関の連携や協働、相互支援の実際について理解する。 2. 危機管理体制における保健師の役割について理解する。 3. 「1.」及び「2.」を踏まえて、行政保健師の役割・機能について考察する。
評価方法	実習への参加状況（20％） 課題の発表（50％） 最終レポート（30％）
教科書	随時紹介する
参考書・参考文献	
履修条件	保健師課程履修者
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 継続訪問実習

授業コード： 11010

英文科目名称： Nursing Practicum (Home Visit)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4 年	1 単位	保健師課程必修
担当教員			
◎小野美奈子他 公衆衛生看護学領域全教員			
専門科目	公衆衛生看護学	7, 8 セメスター	45時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	地域で生活する人々への継続的な支援を通して、地域で生活する対象理解を深めると共に、対象の反応や変化を元に、自己の看護実践を評価し、適切な看護が実践できる能力と態度を身につける。		
授業計画	実習方法	学生が、実習体験の中で出会った家族の中から、継続的支援の必要な1家族を受け持ち、継続的な（3～5回）面接・家庭訪問による支援を行う	
	実習場所	1. 臨地実習Ⅲで選択した実習地域 2. 大学周辺地域	
	実習期間	通年（7月～11月）	
	実習内容	1. 以下の対象の中から、継続的に関わる事例を選択する 1) 臨地実習Ⅲで訪問した事例 2) 青島地区社会福祉協議会が行う事業参加者 2. 受け持ち事例（1家族）に、継続的に3～5回の面接又は家庭訪問を行う。 1) <個—家族—地域>の枠組みを持ちながら対象の全体像を捉え、対象特性を把握する。 2) 看護上の問題を見出す。 3) 社会資源を有効に活用しながら、地域特性、家庭生活に即した看護目標・計画を立てる。 4) 家庭訪問だけでなく、健康相談、健康教育など多様な活動方法を駆使して看護の対象と関わり、対象の変化に合わせて看護計画を修正しながら看護を行う。 5) 地域で生活する対象を支えるネットワークを理解し、関係者と連携を取りながら援助を行う。 6) 看護過程の記録をする。 7) 看護過程を客観視し、看護の評価を行う。 3. 事例の持つ健康課題から、地域課題へと視点を広げ、必要な保健師活動を考察する。 ※詳細は実習要項に示す。 ※担当教員は、保健師として、保健所、市町村に勤務した経験を持ち、実務経験をもとに指導を行います。	
	授業形態	臨地実習	
到達目標	1. 継続的な関わりの中で<個—家族—地域>の枠組みをもちながら対象像を明確に捉えることができる 2. 地域で生活する対象の健康課題の解決を目指し、看護計画を立案、実践を行い、対象の反応や変化を元に評価を行うことを通して、看護過程を展開する力を高める 3. 地域で生活する家族を支える社会資源を有効に活用することができる 4. 地域で生活する対象を支えるネットワークを理解し、その一員としての役割を担うことができる。 5. 事例の持つ健康課題から、地域課題へと視点を広げ、必要な保健師活動を考察することができる。		
評価方法	実習内容（80%）、最終レポート（10%）、実習への参加度・プレゼンテーション（10%）により実習目標の達成度を評価する。		
教科書	随時紹介する		
参考書・参考文献			
履修条件	保健師課程選択者		
科目等履修	否		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： 在宅看護学概論

授業コード： 11030

英文科目名称： Home Care Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	1 単位	必修
担当教員			
◎川原瑞代、金子美千代、中角吉伸 他			
専門分野	在宅看護学	1セメスター	15時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	在宅看護の歴史や在宅看護が必要とされる社会的な背景を踏まえ、在宅看護の概念と特徴、及び在宅看護の役割や課題について理解を深める。		
授業計画	1回 【導入 在宅看護の概念】 オリエンテーション 内容：在宅看護の変遷と社会背景、療養者や家族の状況について 方法：講義、DVD視聴、グループワーク 2回 【在宅看護の基本理念】 【在宅看護における倫理】 内容：在宅看護の基本理念・目的、在宅看護の倫理 方法：講義、DVD視聴 3回 【在宅看護の対象者の特性】 内容：在宅看護の対象者（法制度、ライフサイクル、健康レベル、疾患や障害などの視点から）、在宅療養の成立要件 方法：講義 4回 【在宅療養者の家族支援】 【多様な生活の場における看護】 内容：在宅看護における家族支援、生活の場で行う看護の特徴 方法：講義、DVD視聴 5回 【在宅療養を支える訪問看護】 内容：訪問看護ステーションの理解、訪問看護活動、エンドオブライフケア 方法：講義、DVD視聴 6回 【地域包括ケアシステム】 内容：退院支援・退院調整、関係機関・関係職種との連携と協働、地域包括ケアシステム 方法：講義、DVD視聴 7回 【在宅療養を支える法制度】 内容：社会資源の活用、医療保険制度、介護保険制度 ほか 方法：講義 8回（0.5） 【在宅看護における安全管理】 【まとめ】 内容：在宅における安全性の確保 リスクマネジメント、医療事故防止、感染防止、療養生活上の安全確保 まとめ 方法：講義 試験等 【試験】 【課題レポート】 *担当教員は、看護師、訪問看護師、保健師としての実務経験や訪問看護師との協働事業、関連する研究や教育等の経験・実績から講義を行います。		
授業形態	講義		
到達目標	1. 在宅看護が必要とされる背景と在宅看護の概念について理解できる。 2. 在宅看護の対象、活動の場、看護活動の特徴について理解できる。 3. 在宅看護の展開に必要な法・制度・社会資源について理解できる。 4. 在宅看護における安全性の確保について理解できる 5. 在宅看護の役割や課題について理解できる。		
評価方法	1) レポート（10%）：在宅看護の役割や課題について考察したレポートを課す。 2) 試験（90%）：記述及び選択問題からなる試験を実施する。 1) 2) より、到達目標への到達状況を評価する。詳細な評価基準・基準は第1回の授業で配付する。		
教科書	・ナースング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア 第7版 メディカ出版, 2022 ・講義時にプリントを配付する。		
参考書・参考文献	・講義時に示します。		
履修条件	—		
科目等履修	否		
履修上の留意点			
備考・メッセージ	近年、在宅看護のニーズは急速に高まっています。看護学各領域との関連性を意識しながら講義に臨んでください。皆さんのまわりで在宅療養をしながら生活されている方はいらっしゃいませんか？在宅療養について、メディアで取り上げられる機会も増えています。日頃の生活の中でも関心を持ちましょう。		

講義科目名称：在宅看護論演習

授業コード： 10960

英文科目名称: Issues in Home Care Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	1	選択
担当教員			
◎川原瑞代、金子美千代、中角吉伸 他			
専門分野	在宅看護学	7セメスタ	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	在宅療養に向けての移行や継続、ターミナル期にある人々やその家族などに対する援助の在り方や課題について、主体的学習やグループ討議で自己の考えを発展させながら、より良い在宅療養の実現や在宅看護の充実に向けた取組みの方向性や方法を考え、在宅看護の理解を深める。
授業計画	1・2回 【導入】【オリエンテーション】【実習体験した事実、生活体験の整理①】 内容：オリエンテーション ポートフォリオ学習の進め方について 実習体験した事実、生活体験の整理① 3・4回 【実習体験した事実、生活体験の整理②】 内容：“より良い在宅療養の実現や在宅看護の充実”の視点から事例検討 取り組みたいテーマの決定 課題解決方法の検討 5・6回 【計画発表・中間報告会】 内容：課題の解決や改善に関連するテーマについて、自己の計画を報告し意見交換を行う。 7・8回 【課題研究】 内容：5・6回をふまえた計画修正 自己のテーマについて文献検討、情報収集、フィールドワーク 9・10 【課題研究】 内容：自己のテーマについて文献検討、情報収集、フィールドワーク 11・12回 【「在宅」の観点から臨Ⅱの振り返り、臨Ⅲに向けた課題整理】 内容：“より良い在宅療養の実現や在宅看護の充実に向けた取組みの方向性や方法”について、 臨地実習Ⅱま での、自己の課題を明確にする。 臨Ⅲの取組みを明確にする。 13・14回 【臨Ⅲ振り返り】 内容：臨Ⅲの報告 最終報告会の準備 15・16 【最終報告会】 内容：取り組みの報告と評価 方法：プレゼンテーションとディスカッション ポートフォリオの提出
*担当教員は、看護師、訪問看護師、保健師としての経験や学生実習、地域の看護職との協働事業、関連研究等の実績から、多様な対象者に対する援助の在り方や課題解決に繋がる視点を学生自身が主体的に考えていけるよう講義・演習を展開します。	

授業形態	演習
到達目標	1) 臨地実習等で経験した事例を振り返り、多様な対象者（在宅療養に向けての移行や継続、ターミナル期にある人々やその家族など）に対する援助の在り方や課題について理解を深める。 2) 1) で見いだした課題の解決や改善に関連するテーマについて、文献検討やフィールドワークを通して取り組み、改善策や取り組みの方向性を提案できる。 3) 他者の考えを理解する力、批判的に思考する力、論理的に展開する力、他者にわかりやすく伝える力を高める。
評価方法	報告書（ポートフォリオ）（70%）、プレゼンテーションとディスカッション(30%)：各自ポートフォリオを作成し、学修のプロセスを整理していきます。このポートフォリオをもとに到達目標とそれを達成する各自の行動目標に対する取り組みを評価します。（詳細の評価規準・基準は第1回の授業で配布）
教科書	特にありません。取り組むテーマに関連した関連書籍、文献は各自で読んでおいてください。
参考書・参考文献	特にありません。取り組むテーマに関連した関連書籍、文献は各自で読んでおいてください。
履修条件	－
科目等履修	否
履修上の留意点	在宅看護に関連し、問題意識の解決に向けた主体的な学習、取り組みと創意工夫を望みます。
備考・メッセージ	”在宅”の視点から、すべての領域での臨地実習や自分や家族の生活や地域の状況を振り返ってみましょう。

講義科目名称： 母性看護論演習

授業コード： 11060

英文科目名称： Issues in Maternity Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4 年	1	選択
担当教員			
◎長鶴美佐子			
専門分野	母性看護学	8セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	「新しい生命を健康に子どもを生み育む」ことに関連した問題や課題に対する理解を深め、看護者が果たす役割について考察する。		
授業計画	1回 【演習課題の検討および焦点化】 ・臨地実習を通して抱いた「新しい生命を健康に生み育む」ことに関連した疑問や問題・課題を出しあい、ディスカッションを通して各自の問題意識を明らかにする。 2-3回 【文献検討】 ・取り上げた課題や問題に対する文献学習等を行い、演習のテーマおよび実施計画を立案する。 4-13回 【演習計画の立案（方法論の検討）】 ・立案した計画に基づいて実践する。途中、必要に応じて問題解決に向けての方向性の再確認と修正を行う。 14-15回 【演習成果の発表とディスカッション】 ・演習を通して明らかになったことを発表し、ディスカッションを通して、生命の連続性を支える看護上の課題を考察する。 ・学習成果は報告書としてまとめ、発表終了後に提出する。 *担当教員は助産師として、また、母性センター看護師長としての勤務経験を有しており、この実務体験をもとに学生が取り上げた演習課題についての指導を行います。		
授業形態	演習		
到達目標	1. 「新しい生命を健康に生み育む」ことに関連した問題や課題に対する理解を深め、看護上の課題を明らかにする。 2. 演習で取り組んだ課題を通して問題解決の方法について学ぶ。 3. 演習で取り組んだ課題を通して生命の連続性を支える看護者の役割について考察する。		
評価方法	学習成果物（50％） 学習への参加度（50％） *評価規準・基準は最初の授業で配付します。		
教科書	なし		
参考書・参考文献	必要に応じて紹介する		
履修条件			
科目等履修	不可		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： 小児看護方法

授業コード： 11070

英文科目名称： Nursing Care (Children)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	必修
担当教員			
◎甲斐鈴恵 橋口奈穂美			
専門科目	小児看護学	5セメスター	45時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	さまざまな成長発達や健康障害のある子どもとその家族が、より健康的な生活を維持していくために必要な看護の方法を修得する。		
授業計画	小児看護学概論を踏まえ、小児看護に必要な知識・技術について講義および演習を通して学習する。 1－2回 講義 【虐待を受けた子どもと家族の看護】 【医療的ケアを必要とする子どもと家族の看護】 3－4回 講義 【発達障害のある子どもと家族の看護】 【災害を受けた子どもと家族の看護】 5－8回 以下、 演習教室によって、順番が変更する可能性があります 講義 【入院している子どもと家族の看護（入院・手術）】 子どもの病気の理解 健康障害や入院（検査・処置含む）に伴う子どものストレスと対処 子どもの手術の特徴 急性期における子どもの心身のアセスメント 急性期にある子どもとその家族に必要な看護 9－10回 講義 【入院している子どもと家族の看護（子どもの死）】 子どもの死の概念発達とその特徴 終末期にある子どもの緩和ケアやQOLを支援する看護 子どもの不慮の事故 含む 11－16回 演習 【抱っこ・衣の着脱／授乳・離乳食】 【清潔援助／調乳】 【小児救急・バイタルサインズ測定・身体計測・与薬他】 17－23回 演習 看護過程展開 【小児の看護過程展開 1（総論 1型糖尿病）】 【小児の看護過程展開 2（ペルテス病）】 【小児の看護過程展開 3（脳性麻痺）】 【小児の看護過程展開 4（川崎病、気管支炎、白血病 ）】 【 試験 】 *担当教員は、看護師・助産師として、小児専門病院・総合病院（小児病棟、NICU等）に勤務経験があり、この実務経験をもとに小児看護について学習を支援します。		
授業形態	学内実習		
到達目標	1. さまざまな成長発達や健康障害のある子どもとその家族の特徴について理解できる。 2. さまざまな成長発達や健康障害のある子どもとその家族に対する看護援助を行うために必要な専門知識を習得できる。 3. さまざまな成長発達や健康障害のある子どもとその家族への看護過程を展開する基礎的能力を養うことができる。		
評価方法	筆記試験 80% レポート 20% 評価規準・基準は最初の授業で配布		
教科書	ナーシング・グラフィカ小児看護学①小児の発達と看護 メディカ出版		
参考書・参考文献	参考書等は随時紹介する。		
履修条件	小児看護学概論の単位を取得していること		
科目等履修	否		
履修上の留意点	事前に資料を渡しますので、予習をした上で、講義・演習に臨むようにしましょう！		

講義科目名称： 小児看護論演習

授業コード： 11080

英文科目名称： Issues in Pediatric Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	1	選択
担当教員			
◎甲斐鈴恵、橋口奈穂美			
専門分野	小児看護学	7セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	健康上の課題をもつ小児とその家族が抱える問題を明らかにし、小児およびその家族の援助について実践能力（知識・技術）を高める。		
授業計画	1－4回 講義 【ガイダンス・健康上の課題をもつ小児とその家族に必要な看護について深める】 ・入院している子どもの現状と課題について ・先天性疾患をもつ子どもと家族への支援について ・突然の健康障害が子どもと家族に及ぼす影響と支える看護について ・心理社会的問題のある家族を支える看護について 5－10回 講義・演習 【演習課題の焦点化・グループワーク】 各自の課題・問題意識（追究したいテーマ）をもとに、グループ分け（3人）を行い、グループワークを開始する。 ・下記に記載した到達目標をもとに、各グループのテーマにそって発展させる。 ディスカッションによって得られた内容についてプレゼンテーションを行う。 ・各グループでわかりやすいプレゼンテーションをめざし準備を行う プレゼンテーション資料を用意する。事前に発表内容、発表資料について教員に相談する。 ・発表資料の提出は前日17:00まで 11－13回 講義・演習 【プレゼンテーション・討議】 ・グループワークの成果をスライドや資料を用いて発表する。 ・学生間での質疑応答を通して学びを深める。 14・15回 【個人ワーク】 グループワークの発表・質疑応答を通して、課題レポートを作成し提出する。 ＊担当教員は、看護師・助産師として、小児専門病院・総合病院（小児病棟、NICU 等）に勤務経験があり、この実務経験をもとに小児看護について学習を支援します。		
授業形態	演習		
到達目標	1. 健康上の課題をもつ小児の成長発達段階と家族の中での位置づけを理解する。 2. 健康上の課題が小児や家族の生活に及ぼす影響を理解し、援助を考えることができる。 3. 健康上の課題をもつ小児とその家族が、より健康的な生活ができるよう援助の方向性を考えることができる。 4. 自己の看護実践の振り返りや文献検討から見いだされた内容を伝える能力が高まる。		
評価方法	グループワークへの参加度・発表内容 80% ■話題提供者がレジメを作成してプレゼンテーションした上で、グループディスカッションを運営する。従って、ディスカッションのための資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションの運営を評価観点とする。 各自のレポート 20% ■最終的にレポート作成をする。論旨の一貫性、根拠の明確性を持ち、論文作成のルールに則った表現で記述となっているか、グループワークおよび発表を踏まえて深まったこと、他グループの発表・講義内容を踏まえ自己の看護観の発展や今後の自己の課題が記述されているかを評価観点とする。 評価規準・基準は最初の授業で配布		
教科書	なし		
参考書・参考文献	随時紹介		
履修条件	－		
科目等履修	否		
履修上の留意点	卒業研究と連動させ選択することが望ましい。 自己学習・グループ学習、プレゼンテーションを中心とした演習です。プレゼンテーションに向けて、時間外のグループワークも必要となり、主体的な参加が求められます。		
備考・メッセージ			

講義科目名称： 母性看護学概論

授業コード： 11035

英文科目名称： Nursing Care (Maternity)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
◎長鶴美佐子			
専門分野	母性看護学	4セメスター	15時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	母性看護の基盤となる概念について、母性看護を実践する上での考え方や方向性と関連づけて理解する。そのうえで立って、女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進を目指した看護について理解し、次世代の健全育成を目指す看護のあり方を学ぶ。
授業計画	1回 【導入 母性看護の基盤となる概念】 ① 導入：授業の目的・位置づけ、授業計画、評価等について ② 母性看護とは ③ 母性・父性・親性とは、その発達過程 ④ セクシャリティ ⑤ リプロダクティブヘルスライツ 他 2回 【母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状】 ① 母性看護の歴史の変遷（母性看護の変遷、母子保健統計の動向） ② 母性看護の現状（母性看護学に関する組織と法律、施策、看護の場と職種） ③ 母性看護の対象を取り巻く環境（家族の変化、女性の社会的環境の変化など） 3回 【リプロダクティブヘルスに関する倫理】 ①母性看護実践における倫理的・法的・社会的課題 ②人工妊娠中絶・出生前診断・生殖補助医療に関する現況・倫理的・法的・社会的課題 4回 【母性看護の対象理解】 ① 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 ・生殖器の形態・機能 ・妊娠と胎児の性分化 ② 性の決定と発達 ③ 人間の性機能といのちを育む働き 5回 【女性のライフステージ各期における看護】 ① 女性のライフサイクルの特徴と看護の必要性 ② 各ライフステージの健康問題と看護 ・思春期の健康と看護 ・性成熟期の健康と看護 ・更年期の健康と看護 ・老年期の健康と看護 6回 【テスト】と 課題学習【リプロダクティブヘルスにおける諸問題と動向】 ① テスト：1～5回までの講義について筆記試験（45分）を行う。 ② 課題学習：「リプロダクティブヘルスケアにおける諸問題と動向」（個人ワーク） ・オリエンテーション後、各自が取り組むテーマを決め学習を行う。 <内容> a. 現状と課題 b. 課題（問題）が生じている背景、影響する（している）もの c. 今後の方向性（どのようなことが必要とされるか） 7-8回 【リプロダクティブヘルスにおける諸問題と動向】について ①課題学習：「リプロダクティブヘルスケアにおける諸問題と動向」について取組み、レポートを提出する。 *担当する教員は、助産師としてまた母性センター看護師長としての実務経験を有しており、この経験をもとに授業を行います。
授業形態	講義、グループワークと学習成果の共有
到達目標	1. 母性看護の基盤となる概念を理解する。 2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を理解する。 3. 母性看護の対象を理解する。 4. 女性のライフステージ各期における看護を理解する。 5. リプロダクティブヘルスにおける諸問題と動向について理解する。
評価方法	テスト（70％）、グループワークへの取り組みと成果（20％）、授業への参加度（10％） *評価規準・基準は最初の授業で配布します。
教科書	資料を配布する
参考書・参考文献	学びを深めるために、下記のいずれか一冊を持つことを薦めます。 ・立岡弓子ほか：新母性看護学テキスト 女性の健康と看護，サイオ出版，2017 ・森恵美ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論，医学書院，2016 ・中込さと子ほか：ナースンググラフィカ 母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護，メディカ出版，2019
履修条件	-
科目等履修	否

履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 小児看護学概論

授業コード： 11040

英文科目名称： Nursing Care (Children) I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
◎甲斐鈴恵 橋口奈穂美			
専門分野	小児看護学	4セメスター	15時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	子どもが健やかに育まれるために必要な看護について、基本的知識を学ぶ。小児看護の概念、乳幼児期・学童期・思春期の成長発達と生活、小児看護を取り巻く社会システムや課題について、理解を深める。
授業計画	子どもは、家族の中で育み・育まれながら成長・発達することを踏まえ、子どもを健やかに育む看護に必要な基本的知識について、講義・ワークを通して学習する。 1回 講義 対面 【小児看護の概念と理論】 ・小児看護とは ・小児看護の歴史 ・子どもの権利と看護 ・小児看護と法律・施策 ・小児看護で用いられる理論 2－3回 講義 【乳児の成長・発達と生活、必要な看護を理解する】 身体的・機能的・心理的・社会的発達の特徴と生活、健康問題と対象に応じた必要な看護（予防接種・子どもの事故・齲歯 他） 4-5回 講義 4回目は対面必須 【幼児の成長・発達と生活、必要な看護を理解する】 身体的・機能的・心理的・社会的発達の特徴と生活、健康問題と対象に応じた必要な看護（しつけ、子どもの事故 他） 6-7回 【試験①】 講義 【学童・思春期の成長・発達と生活、必要な看護を理解する】 身体的・機能的・心理的・社会的発達の特徴と生活、健康問題と対象に応じた必要な看護（食生活、電子メディア、不登校、貧困 他） 8回 講義 対面 【まとめ・試験】 【試験②】 *担当教員は、看護師・助産師として、小児専門病院・総合病院（小児病棟、NICU 等）に勤務経験があり、この実務経験をもとに小児看護について学習を支援します。
授業形態	講義
到達目標	1. 家族の中に子どもが生まれ、育み育まれながら生活することを支える看護を理解することができる。 2. 子どもの成長発達と生活を理解することができる 3. 小児看護を取り巻く課題について理解することができる。 4. 小児看護の役割について理解できる。
評価方法	筆記試験（60%）、課題レポート（20%）、講義直後の振り返りカードの記述内容・授業への参加度（20%） 1. 筆記試験：各回の「目標」への到達状況について、知識・理解、思考力を問う問題を出題する 2. 課題レポートの取り組みと内容 3. 講義直後の感想カードの記述内容・授業への参加度 ：各回の目標についての理解度を評価観点とする。出席状況・授業への参加度以上、1～3の点数を合計し、60点以上を合格とする *評価規準・基準は最初の授業で配布します
教科書	ナーシング・グラフィカ小児看護学①小児の発達と看護 メディカ出版
参考書・参考文献	参考書等は随時紹介する
履修条件	－
科目等履修	否
履修上の留意点	事前に学習内容を提示しますので、予習した上で講義に臨んでください
備考・メッセージ	状況に応じて遠隔授業となる可能性があります。開講時のガイダンスで確認してください。

講義科目名称： 成人看護論演習

授業コード： 11200

英文科目名称： Issues in Adults Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4 年	1	選択
担当教員			
◎久野暢子 矢野朋実			
添付ファイル			

授業の目的・概要	本科目は、ディプロマポリシー①、③、④を修得するための一科目である。 既習事項や実習体験を活用し、施設内医療を必要とする成人・老年期の人々に対する看護実践能力（知識・技術・判断）を高める。		
授業計画	1－4回 【紙上事例の看護過程展開】 ・ガイダンス（第1回授業のみ）（グループワーク） ・1グループ6人以内でグループ分けをする。 ・紙上事例の看護過程展開のグループワークを行う。 ①事例のわからないところをメンバーで出し合い、調べる。 ②日常生活アセスメントモデルを用いて情報の整理とアセスメントを行う。 ③①②を土台として、全体関連図を作成し、情報の統合として対象特性を表現する。 ④事例の看護上の問題（看護診断）を抽出する。 ⑤看護目標を設定し、看護計画を立案する。 5－6回 【中間発表】 （グループワークの発表） ・紙上事例の関連図と看護診断を示し、看護目標・計画をプレゼンテーションする。 ・学生間での質疑応答から学びを深める。 7－14回 【シミュレーショントレーニング】 （グループ演習） （前半） ・紙上事例を模擬患者とし、看護展開に基づいて看護を行う。 ・看護場面を目標に照らしてグループで振り返る。 （後半） ・これまでの演習から生じた課題に対して学修目標を設定し、グループで取り組む。 15回 【まとめ】 （個人ワーク） ・施設内医療を必要とする対象に対する看護実践に関する学びと課題についてまとめる。 ※担当教員は看護師として総合病院に勤務した経験があり、この実務経験をもとに本科目の学修を支援します。		
授業形態	演習		
到達目標	1 紙上事例（施設内医療を必要とする成人）に対して看護過程を展開できる。 2 紙上事例に対するシミュレーショントレーニングを通じて看護実践力を向上できる。 3 他者と建設的なディスカッションができ、チームナーシングに貢献できる力を養うことができる。 3 施設内医療を必要とする成人に対する看護実践における自己の課題を見い出すことができる。		
評価方法	紙上事例への看護展開（10%）、最終レポート（60%）、授業の参加状況（30%） ※評価規準・基準は授業中に適宜説明し、配付する。		
教科書	なし		
参考書・参考文献	リンダ J. カルペニート著（新藤幸恵監訳）：看護診断ハンドブック 医学書院 T. ヘザー・ハードマン（原書編集）（上鶴重美訳）：NANDA-I看護診断一定義と分類2018-2020ー 医学書院		
履修条件	ー		
科目等履修	否		
履修上の留意点	自己学習・グループ学習を中心とした演習です。主体的、自律的な参加が求められます。		
備考・メッセージ			

講義科目名称： 老年看護方法

授業コード： 11210

英文科目名称： Nursing Care (Gerontology) II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	必修
担当教員			
◎重久加代子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	老年期の特徴を理解し、加齢変化による生活機能低下や健康障害をもつ高齢者の生活調整を基盤においた看護実践ができる知識・技術を修得する。また、高齢者と介護する家族に対する多職種協働による看護の役割が理解できる。		
授業計画	1回－2回 「高齢者のヘルスアセスメント」 ・授業のガイダンス ・ヘルスアセスメントの基本 ・身体に加齢変化とアセスメント 3回－4回 「症候のアセスメント看護」 ・発熱・痛み・？痒・脱水・嘔吐・浮腫・倦怠感・褥瘡：スキンケア 5回 「日常生活を支える基本的活動」 ・基本動作と環境のアセスメント ・転倒のアセスメントと看護 ・廃用症候群のアセスメントと看護 ・高齢者とヘルスプロモーション 6回－10回 「高齢者の生活機能を整える看護」 ・食事・食生活を整える看護 ・排泄を整える看護 ・清潔を整える看護 ・生活リズムを整える看護 ・高齢者とのコミュニケーション 11回－15回 「身体疾患のある高齢者の看護・認知症高齢者の看護・治療を必要とする高齢者の看護」 ・脳血管障害高齢者の看護 （事例）看護過程の展開 ・骨粗鬆症高齢者の看護 ・骨折高齢者の看護 ・肺炎高齢者の看護 ・入院治療を受ける高齢者の看護 ・認知症高齢者の看護 ・薬物療法を受ける高齢者の看護 ・リハビリテーションを受ける高齢者の看護 ・高齢者と医療安全 16回 「事例に基づく看護過程の展開①」 （事例）脳血管障害高齢者の看護過程の展開 17回－18回 「エンドオブライフケア」 ・エンドオブライフケアの概念 ・「生きる」ことを支えるケア ・意思決定の支援 ・終末期に求められる高齢者と家族の看護 ・治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 ・多職種連携実践に必要な能力 19回－23回 「事例に基づく看護過程の展開②③」「演習・老年看護方法まとめ」 （事例）脳血管障害高齢者の看護過程の展開 〈演習1〉高齢者体験と介助・杖を使用した歩行 〈演習2〉意識レベルの観察、瞳孔の観察、徒手筋力テスト（MMT） 〈演習3〉介護予防・廃用症候群予防・関節可動域訓練 *科目責任者および担当教員は、看護者として病院等に勤務した経験があり、実務経験に基づき本科目の学習を支援します。		
授業形態	学内実習		
到達目標	1. 老年期の特徴を理解する。 2. 高齢者と家族の特徴に基づいた老年看護の役割を理解する。 3. 高齢者と介護する家族に対する多職種協働による看護の役割を理解する。		

	4. 身体に加齢変化とアセスメントを理解する。 5. 高齢者の生活機能を整える看護を理解する。 6. 健康障害をもつ高齢者の回復を促す看護を理解する。 7. 高齢者におけるエンドオブライフケアを理解する。 8. 高齢者の特徴を踏まえた看護過程の展開を理解する。
評価方法	演習および課題・レポート（30%）、筆記試験（70%）、授業・演習・グループワークへの参加度を併せて評価する。
教科書	北川公子他、系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学、医学書院、第9版第5刷、2021
参考書・参考文献	適宜、紹介します。
履修条件	－
科目等履修	否
履修上の留意点	演習の服装は、フィールド体験実習Ⅱの基準（上衣は白のポロシャツ、下衣はジャージ）を着用する。ただし、高齢者体験の演習時は長袖・長ズボンとする。
備考・メッセージ	人間常態学、看護疾病論、老年看護学概論などの知識を活用して学修していきます。

講義科目名称： 老年看護学概論

授業コード： 11205

英文科目名称： Nursing Care (Gerontology)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
◎重久加代子			
専門分野	老年看護学	4セメスター	15時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	高齢者とその家族の特徴を理解し、人生の最終段階である老年期を健やかで、自立した生活を送るために必要な老年看護の基礎的知識を学び、老年看護の役割と課題を考える。
授業計画	1回 【老年看護学と授業のガイダンス・加齢に伴う身体的・心理的・社会的側面の変化】 (1) ガイダンス (2) 老年看護を学ぶ入り口とは (3) 老いのイメージ (4) 加齢と老化 (5) 加齢に伴う身体的側面の変化 (6) 加齢に伴う心理的側面の変化 (7) 加齢に伴う社会的側面の変化 2回 【老年期の発達課題】 (1) 高齢者の定義および発達と成熟 (2) 老年期の発達課題 3回 【超高齢社会の現状】 (1) 高齢者と家族の生活 (2) 高齢者の健康状態および死亡 (3) 高齢者の暮らし 4回 【高齢社会における保健医療福祉の動向】 (1) 高齢者にかかわる保健医療福祉システムの構築 (2) 高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化 5回 【高齢者の権利擁護】 (1) 高齢者に対するスティグマと差別 (2) 高齢者虐待および身体拘束 (3) 権利擁護のための制度 6回－7回 【老年看護の役割と課題】 (1) 老年看護の特徴 (2) 老年看護に役立つ理論 (3) 老年看護に携わる者の責務 8回 【まとめ】 *科目責任者は看護者として病院等に勤務した経験があり、実務経験に基づき本科目の学習を支援します。
授業形態	講義
到達目標	1. 加齢変化に伴う身体的・心理的・社会的側面の変化を述べることができる。 2. 老年期の発達課題を述べるができる。 3. 超高齢社会の現状と保健医療福祉の動向を理解する。 4. 高齢者の権利擁護について考える。 5. 老年看護の役割と課題について考える。
評価方法	試験（100％）で評価する。
教科書	北川公子他、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学、医学書院、第9版第6刷、2022
参考書・参考文献	必要に応じて紹介する。
履修条件	－
科目等履修	否
履修上の留意点	既習の知識については、授業前に事前学習を通知する。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 臨地実習II（地域）

授業コード： 11270

英文科目名称： Nursing Practicum(Community Health)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3 年	2 単位	必修
担当教員			
◎中村千穂子（公衆衛生看護学領域全教員）			
専門科目	体験・統合科目	6セメスター	90時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	地域の生活集団を対象とした地域看護活動を通して、地域看護を実践する基礎的な知識・技術・態度を養う。
授業計画	方 法： 市町村、保健所等での保健事業に参加し、地域の特性にあわせた実習について学ぶ。 実習場所 県内市町村、保健所等 実習期間 2週間 実習内容 1. 実習地域の地域特性を把握し健康問題を解決するための保健医療福祉の対策を理解する。 2. 保健活動を展開する保健所、市町村の機能及びそこに所属する保健師の役割及び協働のあり方を理解する。 3. <個—家族—地域>の枠組みで保健活動における対象集団、及び個人の対象特性を把握し、対象のニーズを見出し、対象のニーズを解決するために、地区活動の方法や社会資源を駆使した看護の展開過程を学ぶ。 4. 地域保健・医療・福祉に関わる各専門職種の実践内容及び役割について理解すると共に、チームの一員としての看護の役割を理解する。 5. 子育て支援センター、地域包括支援センター、地域生活支援センターなど地域の人々の健康課題を解決する社会資源の内容とその特徴について理解する。 6. 地域の実情に合わせたケアシステムの実態や看護職者の果たした役割を把握し、その中から、今後の看護職者の役割について理解を深める。 実習を担当する教員は全員、保健所または市町村に保健師として勤務経験があります。
授業形態	臨地実習
到達目標	1. 実習地域の地域特性と健康課題について理解する。 2. 保健所、市町村で行われる保健事業を通して地域住民と関わり、地域特性に応じた地区活動の展開方法を理解する。 3. 保健福祉行政における保健所、市町村の役割を理解する。 4. 地域の人々の健康課題を解決する社会資源の内容とその特徴について理解する。 5. 地域におけるケアシステムのあり方とケアシステムを有効に機能させる看護職者の役割について理解する。
評価方法	実習への参加度・実習内容（90%）、最終レポート（10%）により実習目標の達成度を評価する。
教科書	（財）厚生統計協会編集：『国民衛生の動向』
参考書・参考文献	
履修条件	4セメスターまでの全必修科目単位修得 5セメスターの全必修科目単位修得見込み
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 臨地実習II（母性）

授業コード： 11290

英文科目名称： Nursing Practicum(Maternity)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3 年	2単位	必修
担当教員			
◎壹岐さより、大野理恵他			
専門科目	体験・統合科目	6セメスター	90時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	新しい生命を生み育む妊産褥婦・新生児およびその家族に対し、看護を実践するために必要な基礎的知識・技術・態度を修得する。		
授業計画	方 法：	1. 4～6名の小グループにに分かれて実習を行う。 2. 原則として褥婦および新生児の事例1組を受け持ち、看護過程の展開を行う。 3. 産婦人科外来・分娩室（手術室）・新生児集中治療室（NICU）における看護、および健康教育の実際に参加しつつ「生命の連続性を支える看護」について考えを深める。 *健康教育は、病棟及び宮日母子福祉事業団が実施するマタニティ教室または育児教室を見学する。 *必要時助産院などの見学実習を行う。	
	実習場所	・県立宮崎病院：産科病棟、産科外来、新生児センター、NICU 宮崎大学産科婦人科病棟、総合周産期母子医療センター ・社会福祉法人 宮日母子福祉事業団（見学実習）等	
	実習期間	2週間	
	実習内容	実習要項を提示する。 *実習指導を担当する教員は、看護師・助産師としての実務経験を有している。	
授業形態	臨地実習		
到達目標	1. 妊産褥婦および新生児とその家族の特性を理解し、看護の必要性を認識する。 2. 妊産褥婦および新生児とその家族に必要な看護計画の立案・実践・評価のプロセスを通して、看護の実践方法を学ぶ。 3. 妊産褥婦および新生児とその家族を通して、生命の連続性が健康に保たれるために必要な看護について考える。 4. 妊産褥婦および新生児とその家族の健康維持に関わる人々との連携のあり方を学び、看護の役割を考える。 5. 看護の実践を自己評価し、看護者としての自己を成長させていくための課題を見出す。		
評価方法	実習目標の到達度（実習中の記録物、自己評価表、教員との面談などにより確認する）及び実習への参加状況にて評価を行う。 *評価規準・基準は実習初日のオリエンテーション時に配布		
教科書	母性看護方法および看護疾病論Ⅲ（生命の連続性を維持する働きの障害）で使用したテキストを持参すること。また各自で使用しているテキストを持参するとよい。		
参考書・参考文献			
履修条件	4セメスターまでの必修科目をすべて修得し、かつ5セメスターの必修科目がすべて修得見込みであること。		
科目等履修	否		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： 臨地実習II（小児）

授業コード： 11300

英文科目名称： Nursing Practicum(Children)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3 年	2 単位	必修
担当教員			
◎甲斐鈴恵 橋口奈穂美			
専門科目	体験・統合科目 1	6セメスター	90時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	小児の成長発達や健康障害の種類や健康の段階に応じて状況を的確に判断し、看護を実践するための基礎的な知識、技術、態度を修得する。さらに、看護の実践を自己評価し、看護者としての自己を成長させていくための課題を見出す。		
授業計画	方法 【保育園・こども園（3～4日間）】 1. 学生3～4名のグループを編成し、3か所に分かれて実習を行う。 2. 保育園での日課にそって、指導者や園児とともに行動し、経験を通して学習する。 3. 各保育園の学びを共有し、看護の役割を考える。 【県立こども療育センター（4日間）】 1. 学生3～4名のグループを編成し、2病棟に分かれて実習を行う。 2. 1名の教員が各グループの実習指導を担当する。 3. 施設で生活する小児を受け持ち、既習の専門知識と技術を活用し看護を展開する。 4. 自己の看護実践を記録し、評価する。 5. グループカンファレンスで、各々の看護実践を共有する。 6. 実習目的、到達目標及び自己の課題の達成状況を自己評価する。 7. 自己評価と指導者の評価をつきあわせ、次の学習課題を明らかにする。 実習場所 保育園・こども園、県立こども療育センター 実習期間 2週間 実習内容 実習期間及び実習内容の詳細については、実習要項で提示する ＊担当教員は、看護者として病院等に勤務経験があり、この実務経験をもとに学習を支援します。		
授業形態	臨地実習		
到達目標	1. さまざまな成長発達や健康のレベルにある小児とその家族への看護の必要性を認識する。 2. 小児とその家族のニーズに応じた看護の方向性を思い描き、その反応や置かれている状況に合わせて具体的な看護を実施する。 3. 小児の保健・医療および福祉に関わる人々との連携のあり方を学び、看護の役割を考える。 4. 看護の実践を自己評価し、看護者としての自己を成長させていくための課題を見出す。		
評価方法	実習目標の到達度（実習中の記録物、自己評価表、教員との面談などにより確認する）および実習への参加度にて評価を行う。		
教科書	随時紹介		
参考書・参考文献	随時紹介		
履修条件	4セメスターまでの全必修科目単位修得 5セメスターの全必修科目単位修得見込み		
科目等履修	否		
履修上の留意点			
備考・メッセージ	小児看護学概論、小児看護方法、看護疾病論（Ⅰ～Ⅲ）を復習して臨むこと。 小児看護方法テキスト・資料を持参。 抗体価検査の結果に応じた予防対策を行っておくこと。		

講義科目名称： 臨地実習II（成人）

授業コード： 11310

英文科目名称： Nursing Practicum(Adult)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3 年	3 単位	必修
担当教員			
◎矢野朋実 久野暢子 山岡深雪 他			
専門科目	体験・統合科目	6セメスター	135時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	本科目は、ディプロマポリシーの、①、③、④を修得するための一科目である。 本科目は、講義・演習・学内実習で修得してきた知識や看護技術を用いて、直接人々と接する体験実習を通して看護者としての自らの成長を自己評価し、発展させていくための体験・統合科目の1つである。各領域における看護の特性を理解し対象に応じた看護を実践する能力と態度を養うための実習として位置づけられており、学生の看護職者への認識の発展をねらいとしている。 本科目の目的は、積極的な治療を必要とする患者とその家族が、より健康的な状態へ向かうために必要な看護実践能力を修得するとともに、医療に携わる専門職としてふさわしい態度を身に付けることである。		
授業計画	方法 積極的な治療を必要とする患者とその家族への看護過程の展開およびチーム医療の理解 1. 学生4～6名のグループを編成し、病棟に入る 2. 病棟の看護チームの一員として看護活動に参加する。 3. 入院中の患者を受け持ち、既習の専門知識と技術を使って、看護の必要性を見だし看護を実践する。 4. 自己の看護実践を記録・評価し、看護計画を追加・修正する。 5. グループカンファレンスで、各々の看護実践を共有する。 6. 自己の看護実践を振り返り、自己課題を見出す。 7. 実習目標の到達度を自己評価する。 8. 自己評価内容と指導者の評価をつきあわせて、次の学習課題を明らかにする。 * 県立宮崎病院での実習は、3週間病棟でおこなう。宮崎大学医学部附属病院での実習は、病棟で2週間、関連部署で1週間おこなう。 実習場所 県立宮崎病院および宮崎大学医学部附属病院 ＜2022年9月28日～2023年1月27日＞ 県立宮崎病院：整形外科病棟、がん治療センター（外科）病棟 宮崎大学医学部附属病院：2階東（整形外科）病棟、3階西（消化器内科、肝胆膵外科）病棟、6階西（神経内科、呼吸器内科、膠原病・感染症内科）病棟、関連部署 ＜2023年1月30日～2023年2月17日＞ 県立宮崎病院：整形外科病棟、がん治療センター（外科）病棟、がん治療センター（内科）病棟、泌尿器系・外科・眼科病棟 実習期間 3週間 実習内容 以下の内容で実習する。内容の詳細については、実習要項に提示する。 1. 実習病棟の対象群の特徴や提供されている医療・看護の特徴を把握する。 2. 積極的な治療を受ける対象を1人以上受け持ち、看護過程を展開する。 3. 積極的な治療を行う場でのチーム医療における看護師の役割について考える。 4. 実習中のあらゆる場面において、医療に携わる専門職としての態度で行動する。 5. 看護師として自己を成長させるための課題を見いだす。 ※各グループに教員がつき、実習指導を担当します。 ※担当教員は全員、看護師として総合病院に勤務した経験があります。この実務経験をもとに、実習を担当し、学習を支援します。		
授業形態	臨地実習		
到達目標	1. 積極的な治療を行う場の特徴を理解できる。 2. 積極的な治療を必要とする対象（受け持ち患者とその家族）への看護過程を展開できる。 3. 積極的な治療を行う場でのチーム医療における看護師の役割を理解できる。 4. 医療に携わる専門職としてふさわしい態度形成ができる。 5. 看護職として自己を成長させるための課題を見いだすことができる。		
評価方法	実習参加状況、実践内容、実習記録、自己評価に基づき、「臨地実習Ⅱ（成人）実習評価表」を用いて、到達目標の達成度を評価します。「臨地実習Ⅱ（成人）実習評価表」については、実習初日に配布します。 【評価規準】 「臨地実習Ⅱ（成人）実習評価表」に行動目標として示します。 【評価基準】 S：特に優秀な水準で目標達成できた（90%以上）、A：優秀な水準で目標達成できた（89-80%）、B：目標達成できた（79-70%）、C：十分ではないが目標達成できた（69-60%）、D：目標達成していない（59%以下）		
教科書	指定なし		
参考書・参考文献	・成人看護学概論、成人看護方法Ⅰ、成人看護方法Ⅱで提示した教科書、参考書、授業資料 ・関連科目で提示された図書等		

	・島田和幸他編（2022）：今日の治療薬 解説と便覧 2022 改訂第44版，南江堂. その他、適宜教員が紹介します。
履修条件	4セメスターまでの必修科目について、すべて単位を修得していること。 5セメスターの必修科目について、すべて単位を修得見込みであること。
科目等履修	否
履修上の留意点	「成人看護学概論」、「成人看護方法I」、「成人看護方法II」の学習内容を復習して臨んでください。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 臨地実習II（老年）

授業コード： 11320

英文科目名称： Nursing Practicum(the Aged)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3 年	3単位	必修
担当教員			
◎重久加代子、他			
専門科目	体験・統合科目	6セメスター	135時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	高齢者とその家族の特性を理解し、より健康的な状態へと回復するために必要な看護を実践できる基礎的な知識、技術、態度を修得する。また、看護過程を展開するなかで、看護チームや他職種との連携・協働について学び、看護の役割を考え、看護者として自己を成長させていくための課題を見出す。		
授業計画	方 法： 1. 学生は5～6名のグループ編成で、各病棟に分かれて実習する。 2. 各グループに1名の教員を配置し、実習指導を行う。 3. 入院中の患者を1名受け持ち、既習の知識・技術を用いて看護を展開する。 4. カンファレンスや学内報告会を通して、学びを共有する。 5. 実習目標及び自己課題の達成状況を自己評価する。 6. 自己評価と指導者の評価より、自己の学習課題を明らかにする。 実習場所 潤和会記念病院（回復期リハビリテーション病棟、脳神経センター、地域包括ケア病棟） 県立宮崎病院（脳神経外科・神経内科・整形外科：6 南病棟） 宮崎市立田野病院 実習期間 3 週間 実習内容 詳細は、「臨地実習Ⅱ 実習要項」に示す。 ＊科目責任者および担当教員は、看護者として病院等に勤務した経験があり、実務経験に基づき本科目の学習を支援します。		
授業形態	臨地実習		
到達目標	1. 高齢者とその家族の対象特性を理解する。 2. 対象の個別性に応じた看護の方向性を描き、その人の反応やおかれた状況にあわせて看護計画を立案し、実施する。 3. 実践した看護過程を振り返り、評価する。 4. 看護チームや他職種との連携・協働のあり方を学び、看護の役割を考える。 5. 看護者として自己を成長させていくための課題を見いだす。		
評価方法	取り組みの姿勢と実習への参加状況（15%）、実習内容と自己評価表により実習目標の到達度を総合評価（85%）		
教科書	特に指定しない		
参考書・参考文献	老人看護方法等の授業資料や図書等 北川公子他、老年看護学、医学書院、第9版第5印刷、2021		
履修条件	・4セメスターまでの必修科目をすべて履修していること ・5セメスターの必修科目がすべて修得見込みであること		
科目等履修	否		
履修上の留意点	・健康管理に留意してください。 ・老年看護方法および基礎看護技術の復習をして臨んでください。		
備考・メッセージ			

講義科目名称： 臨地実習III

授業コード： 11330

英文科目名称： Comprehensive Nursing Practicum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	3 単位	必修
担当教員			
◎（教務委員長）、基礎、精神、地域、在宅、母性、小児、成人、老年看護学の全教員			
専門科目	体験・統合科目	7セメスター	135時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	学生が主体的に選定した特定の領域においてチームアプローチを含めて看護の総合的能力を高め、自己の看護観の発展をめざす		
授業計画	方 法：	1. 提示された中から希望するフィールドを選定する。 2. フィールドの特徴をふまえ、自己の実習目標・実習内容を明確にし、自ら実習フィールドと調整し実習計画を立案する。実習中、必要があれば実習計画を適宜修正する。 3. チームの構成・人員・活動内容・役割分担などについて情報を得る。 4. 看護の対象群の情報を得て特徴を把握する。 5. 地域で生活しながら療養する対象の看護上の問題や解決のための方向性を知る。直接体験できない場合は、体験した学生と学びを共有する。 6. 看護の必要性を確認し、チームの状況に合わせて看護者と共に看護を分担する。 7. 看護過程を展開する。 8. チームの一員として、情報を共有し、カンファレンスなどでは自己の意見を表明する。 8. チームの一員として、ケアに参加し、体験した看護現象や自己の看護過程を振り返る。 9. チームの一員として、報告・連絡・相談を適切に行う。 10. 臨地実習Ⅰから臨地実習Ⅲに至る自己の看護観の発展の軌跡をまとめる。	
	実習場所	県内・県外の約30施設 学生に対する希望調査に基づいて配置を決定する。	
	実習期間	6月の3週間	
	実習内容	各実習施設の担当教員より実施要項等が配付され、オリエンテーションが行なわれる。 <	

講義科目名称： 看護研究II

授業コード： 11420

英文科目名称： Nursing Research Methodology II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	1 単位	必修
担当教員			
◎久野暢子 中尾裕之 島内千恵子 山岸仁美			
専門科目	体験・統合科目	5セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	本科目は、ディプロマポリシー②、④を修得するための一科目である。 看護実践の中で生じる疑問や課題を科学的に探究するための看護研究方法論の基礎を学習する。自己の関心ある課題に取り組む演習を通じて、研究の基盤となる批判的・論理的思考を身につけ、看護学研究者としての態度を理解する。		
授業計画	1回 【ガイダンス、研究の基盤となる力など】（久野） ・本科目の概要や評価方法などのガイダンス ・論理的思考と批判的思考などの研究の基盤となる力について学ぶ。（講義） 2回 【リサーチクエストと文献検討】（久野） ・研究疑問の絞り込みと文献クリティークの方法、研究デザインの選択の考え方について学ぶ。（講義） 3回 【文献クリティークの実際-1】（久野） ・指定された研究論文（質的研究）をクリティークチェックリストに沿って吟味し、意見をまとめる。（グループ演習） 4-5回 【研究デザイン1：調査研究】（中尾） ・調査研究の概要と具体例について学ぶ（講義）。 6回 【研究デザイン2：実験研究】（島内） ・実験研究の概要と具体例について学ぶ（講義）。 7回 【研究デザイン3：質的研究①（質的記述的研究）】（1回目）（久野） ・質的記述的研究の概要と具体例について学ぶ（講義）。 8-9回 【研究デザイン3：質的研究①（質的記述的研究）】（2-3回目）（久野） ・質的記述的研究のデータ分析を実際に行う。（グループ演習・個人ワーク） 10-12回 【研究デザイン4：質的研究②（学的方法論）】（山岸） ・薄井の学的方法論の概要と具体例について学ぶ（講義・演習）。 13回 【研究倫理】（特別講師：宮崎大学 岩江荘介先生） ・研究倫理の考え方、研究計画書の概要と研究倫理審査について学ぶ（講義）。 14回 【文献クリティークの実際-2】（久野） ・各グループで選定した研究論文（量的研究）について、チェックリストに沿って吟味し、グループの意見をまとめる。（グループ演習） 15回 【まとめのワーク】（久野） ・本科目の学びについてレポートにまとめる。（個人ワーク） ※担当教員4名のうち3名は看護師として医療機関に勤務した経験があります。これらの実務経験をもとに本科目の講義・演習を行います。		
授業形態	演習		
到達目標	1 看護学の発展における看護研究の意義を理解できる。 2 文献検討を通じて、看護実践の中で生じる問題意識を看護研究につなげる方法を理解できる。 3 代表的な研究デザインの概要と具体を知り、研究方法としての特徴（利点と欠点）を理解できる。 4 看護学研究者としての基本的な態度を理解できる。		
評価方法	授業中に出された課題及び授業への参加状況（90%）、最終レポート（10%） ※評価規準・基準は授業中に適宜説明し、配付する。		
教科書	なし		
参考書・参考文献	随時紹介する		
履修条件	—		

科目等履修	否
履修上の留意点	「看護研究Ⅰ」テキスト及び配付資料を持参してください。
備考・メッセージ	「看護研究Ⅰ」での学びを継続・発展させた学修を行います。

講義科目名称： 卒業研究

授業コード： 11430

英文科目名称： Undergraduate Thesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4 年	3 単位	必修
担当教員			
◎教務委員長、助教以上全教員			
専門科目	体験・統合科目	7-8セメスター	90時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護研究で学んだことを前提に、学生個々が研究テーマの決定、研究計画、研究への取り組み、論文作成、発表までの過程をたどり、研究の基礎的能力を身につける。この過程を通して自らの疑問を解明していくことの意味やおもしろさを経験する。さらに、学生が将来にわたって看護研究に関心を深めることができるように研究的態度を身につける。		
授業計画	(2月) 【導入：卒業研究ガイダンス】 2月21日 ①卒業研究の目的、到達目標、展開方法、評価基準等について ②指導可能なテーマについて ③今後のスケジュールについて ④ルーブリック評価について ⑤卒業研究カードの提出方法について (2-3月) 【文献検索】 【研究構想】 ①関心のあるテーマに関連する文献検索 ・看護の体験や問題意識に基づいたテーマを考える ②自己の卒業研究について構想を練る 4月 【卒業研究カードの提出】 4月7日まで Active Academyから取り組みたいテーマ「第1希望」「第2希望」毎に以下の内容を入力する。 ・テーマまたは関心領域/研究内容/文献リスト 【卒業研究指導教員の決定】 4月22日 《卒業研究相談窓口教員との面談》(4月15日-4月21日) ・卒業研究窓口教員(4/15提示予定)と面談し、テーマの焦点化及び担当教員を決定する。 《卒業研究指導教員の決定》(4月22日) 《卒業研究の開始》 5月 【研究テーマの設定】 【研究計画書の作成】 《研究テーマの設定》 ①取り上げた研究テーマやリサーチクエスションについてさらに文献検索を行う。 ②①から研究テーマを焦点化し、期間内に追究できる研究テーマを設定する。 《研究計画書の作成》 ・卒業研究指導教員の指導を受けながら、期間内に実施可能な研究計画を作成する。 5月-12月 【研究の実施】 【中間報告会】 【論文作成】 《研究計画に沿った研究の実施》 ・卒業研究指導教員の指導を受けながら、計画的に研究の過程を進める。 ・積極的に自律的な姿勢で自己の研究に真摯に取り組む。 《報告会の実施》 ・卒業研究指導教員の判断により、別途計画する。 《論文作成》 ・論旨の一貫性、根拠の明確性をもち、論文作成のルールに則った表現で論文を記述する。 ・学内Webの「卒業研究」のページを参照すること。 12月 【卒業論文の提出】 令和4年12月2日(金)17時 【最終報告会】 《卒業論文の提出》 令和4年12月2日(金)17時 《《期限厳守》》 ・提出先：学内Webの「卒業研究入力システム」から提出する。 《報告会の実施》 ・別途計画する。 *卒業論文の保管(閲覧用) 宮崎県立看護大学図書館：卒業論文全文(表紙、要旨、本文、図表等)のPDFファイル 学内WEB卒業研究データベース：氏名、年度、題名、キーワード、要旨、指導教員名 ■■■ 卒業研究の変更申請 学修上の理由により、卒業研究の変更(仮テーマ及び指導教員)を希望する場合、以下の期間内		

	に変更申請を行う。（卒業研究指導教員決定後の変更は1回のみ） 変更申請期間：6月20日（月）～ 7月29日（金） * 臨地実習Ⅲの体験をもとに変更申請する場合 6月20日（月）～6月24日（金） 変更申請の方法：別途示します。 * 担当教員の専門とする分野・領域における教育、研究、地域貢献等の実績および実務経験等をもとに指導を行います。
授業形態	演習
到達目標	1. 看護的な経験をもとに研究テーマを設定できる。 2. 研究期間に仕上げる事が可能な研究計画を立てることができる（研究テーマの設定を含む）。 3. データ収集ができ、その事実から論理を引き出すことができる。 4. 論旨の一貫性、根拠の明確性をもち、論文作成のルールに則った表現で論文を記述できる。 5. 研究への取り組みを通して個人の学び（研究成果・看護や研究への理解）を深めることができる。 6. 研究への取り組みを通して、研究者としての態度を身につけることができる。
評価方法	到達目標1～6の達成度が評価規準となる。 「卒業研究」ルーブリック（2022年度版）を到達度評価に活用する。
教科書	－
参考書・参考文献	研究に関係のある図書館の蔵書など Medline、CINAHL、医学中央雑誌などによる検索文献
履修条件	－
科目等履修	否
履修上の留意点	・「卒業研究ガイダンス」に出席する ・論文作成の留意点、卒業研究の書式詳細については、学内Web・卒業研究のページを熟読する。
備考・メッセージ	自己の看護的な体験を振り返り、テーマを考えてみましょう。あなたの「知りたいこと」「明らかにしたいこと」は何ですか？図書館を大いに活用して、先行文献やテーマに関連する周辺事項にもアプローチしてみましょう。4年次は、就職活動、国家試験、卒業要件単位取得など大切なことが多くあります。指導教員のアドバイスを受け、また友人たちとの議論も深め、計画的にじっくり取り組み、本学での学びの集大成となるよう進めていきましょう。

講義科目名称： 臨地実習I

授業コード： 11255

英文科目名称： Basic Nursing Practicum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
◎毛利聖子、山岸仁美、坂井謙次、他			
専門分野	基礎看護学	4セメスター	45時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	対象である人間の健康状態の好転をめざして、その人の生活過程をととのえるための看護実践能力を修得する。		
授業計画	方 法	1. 4～5名を1つのグループとして、一病棟に1グループを配置する。 2. 各学生が1名の受持患者について看護を展開する。 3. 各グループに1～2名の教員が指導を担当する。 4. 実習終了後、振り返り学習を行い、今後の学習課題を明らかにする。	
	実習場所	県立宮崎病院、宮崎江南病院	
	実習期間	1週間	
	実習内容	（月）オリエンテーション、諸記録から受持患者・同室者の情報収集、確認したいことや問題意識の整理、及び、受持患者への看護の手伝い等から「全体像」を大づかみに描き、日常生活力をアセスメントする。 （火）受持患者・同室者への可能な看護を実施しながら、その人らしさを観察し、看護の必要性やケアのポイントを学び徐々に計画立案へと進む。 （水）～（金）計画の点検を経て主体的に看護過程を展開する。 ＊原則として、実習時間は8時30分～16時30分とする。 （＊実習に参加する教員は、全て医療現場で看護実践の経験を持っている。）	
	授業形態	臨地実習	
到達目標	1. 確かな情報をもとに看護の視点にそって対象を全人的に把握し、その人の実像に近づけるよう、たえず全体像を描きなおしながら看護を実践する。 2. 受持患者の位置から日常生活のしかたをイメージし個別な反応にそって看護を実践する。 3. 基本技術のポイントをおさえながら受持患者と自然な人間関係を成立させ、良い看護実践へと発展させる。 4. 自己の看護実践を振り返って看護過程展開の技術の修得状況を確認し、看護者として自己を成長させるための学習課題を明確にする。		
評価方法	「基礎実習評価規準」に基づき、実習内容・実習への取り組み等を総合して評価する。		
教科書	『Module方式による看護方法実習書』 現代社		
参考書・参考文献	『ナースが視る人体』 講談社 『ナースが視る病気』 講談社		
履修条件	原則として3セメスターまでの必修科目をすべて修得していること。 4セメスターの必修科目について全て単位を修得見込みであること。ただし再試験において単位修得できる可能性がある場合は、別途検討する。なお、4セメスターまでの全ての必修科目の単位修得ができなかった場合は、臨地実習を履修しても単位は認定されません。		
科目等履修	否		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： 感染看護学Ⅰ

授業コード： 11345

英文科目名称： Nursing for Infection Control Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	必修
担当教員			
◎邊木園幸 勝野絵梨奈 武田千穂			
専門分野	体験・統合科目Ⅱ	3セメスター	15時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	今日の日本及び海外で問題となっている感染症及び動向について理解する。感染の成立と発症に至る経過について理解を深め、感染予防の原則について学修する。感染症の抗体検査等の結果から、生体の感染防御機構について理解を深める。感染症をめぐる歴史とどのように克服・共生してきたのかを学び、現代社会における感染症をめぐる課題を考える。		
授業計画	1回4/8 【オリエンテーション、感染看護の歴史と教育制度の概要、感染症の動向とその対策、制度について学ぶ。】 授業計画をもとに授業の全体像及び展開について、概略を把握する。 国内外の感染症の動向、感染症法の概要について理解する。（邊木園） 2回4/15 【感染の成立と発症および感染予防の原則について理解する。】 感染とは、感染成立の条件とは、発症とは、感染に関連した用語について理解を深める。 市中感染と院内感染、医療関連感染の概要について、課題内容の感染予防策に関連した専門知識を活用して理解する。（勝野） 3回4/22 【感染予防対策の基本について理解する】 標準予防策及び経路別予防策の基礎知識について理解する。（武田） 4-5回 5/6, 13 【洗浄及び消毒と滅菌】 ・洗浄及び消毒と滅菌の目的とその違いについて理解する。（武田） ・Spauldingの分類に基づいた医療器材の処理に関する演習（個人・グループワーク）を通し、患者への安全な医療の提供に不可欠な医療器材の取扱いについて理解する。 ※事例に基づく個人ワークやグループワーク及び教員の支援を活用し、洗浄・消毒・滅菌への理解を深める。 6回5/27 【感染症（免疫学的）の検査と感染予防】 感染症の検査について理解し、自己の抗体価検査結果について、各自の既往・予防接種歴との関係を検討し、これまでの成長・発達過程(母子保健含む)における自分の感染予防について振り返る。これからの自分のライフプランを考え、ワクチンプログラムを計画する。（担当：邊木園、勝野、武田） ・ワクチンプログラムの提出 ※抗体検査結果及び母子手帳のデータをもとに、個人ワークを行い自身の免疫力について理解を深め、ワクチンプログラムを立案する。 7-8回 6/3, 10 【感染症をめぐる歴史と現状をふまえた課題の検討】 ・感染症の歴史と人類の歩みを学ぶ（邊木園） ・現代における感染症をめぐる課題について、グループワークを通して検討し理解を深める。 ・感染看護のスペシャリストと教育制度について知る。 6/24 【試験】 ※本科目は大学病院等において、感染看護の実務経験のある教員、感染管理認定看護師の資格を持ち実践経験の豊かな教員が実践事例を用いて講義を行う。 7/8 試験返却		
授業形態	講義		
到達目標	1. 国内外の感染症及びその動向について理解できる。 2. 感染の成立と発症について理解し、感染予防の原則について理解できる。 3. 医療関連感染に関する基本的知識や考え方を学び、感染防止の方法や対策について理解できる。 4. 洗浄及び消毒と滅菌の目的とその違い、具体的な方法を理解できる 5. 感染症の既往・予防接種、抗体検査結果をもとにワクチン接種計画を立案する。 6. 感染症をめぐる歴史と現状を知り、現代における課題を理解できる。		
評価方法	課題（提出必須，30%）、筆記試験（70%） ※毎回、事前課題、講義後の課題を課す。 課題は到達目標に照らして、感染看護に必要な専門知識を修得しているか、専門知識に基づくアセスメントができていかなどを評価する。 ※筆記試験では、感染看護に必要な専門知識と状況設定に対して根拠に基づく判断ができていかなどを問う。		

教科書	・操華子、川上和美 編集：『感染看護学 患者の健康と権利を守り安全に看護を実践する』南江堂, 2022 ・坂本史衣著『基礎から学ぶ医療関連感染対策－標準予防策からサーベイランスまで』改訂第3版, 南江堂, 2019
参考書・参考文献	・藤本秀士編著『わかる！身につく！病原体・感染・免疫』改訂第3版, 南山堂, 2017 その他、授業の際に紹介する
履修条件	－
科目等履修	否
履修上の留意点	課題は成績評価対象であることから、期日までに提出すること。 やむを得ない事情で遅れる場合は、必ず教員へ連絡すること。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 感染看護学Ⅱ

授業コード： 11350

英文科目名称： Nursing for Infection Control Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
◎勝野絵梨奈 邊木園幸 武田千穂			
専門分野	体験・統合科目Ⅱ	4セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	患者・家族ならびに医療従事者を感染から守るための原則とその方法について理解を深め、感染患者や易感染患者への看護及び組織的に取組むための感染管理について学修する。さらに、感染予防および拡大を防止するための看護基本技術を修得する。これらの学修成果を基盤とし、感染看護の総合的な思考と判断・実践について理解を深める。
授業計画	1回 【導入】 授業計画をもとに授業の全体像及び展開について、概略を把握する（勝野） 【医療関連感染とその予防】 医療感染予防に関する基礎知識及び医療従事者の手指を介した交差感染と、患者および医療従事者を病原体から守るための標準予防策の考え方について理解する（勝野） 2-5回 【感染症を持つ患者及び易感染患者・家族の心理とその援助について理解する】 ・事例A 薬剤耐性菌（MRSA）を保有する患者の事例（武田） ・事例B ウイルス感染症（B型肝炎）の事例（勝野） ・事例C 結核の事例（邊木園） ・事例D 易感染性患者（抗がん剤治療）の事例（邊木園） 6-7回 【感染予防対策の実践Ⅰ】 ・標準予防策の具体的対策として、手指衛生と個人防護具（PPE）の種類及び原則について理解する ・手指衛生と個人防護具着脱に関する演習を通し、適切なタイミングと手技のポイントを身につける（勝野、邊木園、武田） 8回 【感染予防対策の実践Ⅱ-①】 ・感染経路別予防策について理解する ・ノロウイルスへの感染事例及び、ノロウイルス感染症患者の吐物処理動画を基に、病原微生物の特徴を踏まえた具体的な感染対策の根拠について考え（個人・グループワーク）、全体討議を通し感染予防および拡大を防止するための思考・判断力を培う（勝野、邊木園、武田） 9-10回 【感染予防対策の実践Ⅱ-②】 ・状況設定シミュレーション（ノロウイルス感染症患者への吐物処理）を通し、感染予防および拡大を防止するために必要となる知識・判断および看護基本技術の統合を図り、感染予防および拡大を防止するための看護基本技術を身につける（勝野、邊木園、武田） 11-12回 【感染看護の総合的な思考と判断・実践について理解を深める】 ・薬剤耐性菌保菌事例をもとに、患者や家族を感染から守る具体的な看護の視点について討議し、感染看護の総合的な思考と判断・実践について理解を深める（邊木園、勝野、武田） 13-15回 【学修した知識・技術を活用したリスクアセスメントと実践：状況設定シミュレーション（技術試験）】 ・実際の状況に潜む複数のリスクをアセスメントし、感染予防および拡大を防止するための看護基本技術を活用した看護を実践できる（勝野、邊木園、武田） 【試験】 ＊本科目は大学病院等において、感染看護の実務経験のある教員、感染管理認定看護師の資格を持ち実践経験の豊かな教員が、実践事例を用いて講義・演習を行う
授業形態	演習
到達目標	1. 感染予防対策に関する基本的概念について理解し、説明できる 2. 感染症患者や易感染患者及びその家族への看護について理解できる 3. 標準予防策および接触感染予防策に焦点をあてた演習を通し、感染予防および拡大を防止するための看護基本技術を修得する 4. 感染看護の総合的な思考と判断、実践について理解を深め、患者や家族ならびに医療従事者を感染から守るための視点を身につける 5. 感染看護に関する学修成果をふまえ、実際の状況に潜むリスクをアセスメントし、感染予防および拡大を防止するための看護基本技術を活用した看護を実践できる
評価方法	評価規準および評価基準は、最初の授業で配布
教科書	・ 操華子, 川上和美著『感染看護学 患者の健康と権利を守り安全に看護を実践する』南江堂, 2022 ・ 坂本史衣著『基礎から学ぶ医療関連感染対策－標準予防策からサーベイランスまで』改訂第3版, 南江堂, 2019

参考書・参考文献	・ 藤本秀士編著『わかる！身につく！病原体・感染・免疫 』改訂第3版，南山堂，2017 その他、授業の際に紹介する
履修条件	感染看護学Ⅰを履修していること
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 看護研究Ⅰ

授業コード： 11410

英文科目名称： Nursing Research MethodologyⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
◎長鶴美佐子			
専門分野	体験・統合科目Ⅱ	4セメスター	15時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護の改善・向上・発展に貢献するためには、臨床上の疑問や研究課題を明らかにしその解決に役立つ知見を得るための研究が必要とされる。本科目では研究を行うための基礎的知識を修得する。		
授業計画	1回 【研究とは】 - 研究とは、研究に求められるもの ・研究の必要性、重要性 - 研究に影響を及ぼす条件 2回 【研究の基本的理解】 - 研究の一般的な手順（プロセス） - 研究方法の種類と進め方（事例・調査・実験・文献研究） - データ収集方法（観察・調査・面接法など） 3回 【研究テーマの決め方】 - 研究テーマの選択 ・研究テーマの条件と絞り方 - 概念枠組みの設定 ・用語の操作的定義、研究仮説の設定 4回 【文献】 - 文献とは ・文献の探し方、読み方、整理法 5回 【研究計画の立て方】 - 研究計画の重要性 ・研究計画の基本 - 研究計画の作成手順・ポイント 6回 【研究結果の整理と解釈、研究成果の公表】 - データの整理の方法と解釈（質的データ・量的データ） - 研究発表の意義 3.学会発表と論文作成 7回 【小テスト】 【研究倫理】 *小テストを行う（範囲は1～6回の講義） - 研究における倫理的配慮の必要性 - 研究倫理の歴史 ・研究倫理の基本と実際 8回 【課題演習】 課題「興味ある看護の研究論文（原著論文）を探し読もう」 *担当教員は、看護の実践経験と臨床現場での研究活動の実績を持つ者であり、この経験を基盤にして授業を展開します。		
授業形態	講義 課題演習		
到達目標	- 研究とは何かが理解できる。 - 研究の様々な進め方や手順・データ収集方法が理解できる。 - 研究テーマの導き出し方がわかる。 - 文献の探し方・読み方・活用の仕方等が理解できる。 - 研究計画の重要性とその方法が理解できる。 - 結果の整理と解釈について理解できる。 - 結果の発表の意義・方法について理解できる。 - 研究における倫理的側面の問題と対応について理解できる。		
評価方法	筆記試験（80％） 課題レポート（15％） 授業への参加度（5％） 評価規準・基準は最初の授業で配布		
教科書	講義開始前に教員が作成したテキストを配付する。 また随時資料を配付する。		
参考書・参考文献	講義の中で紹介をする。		
履修条件	-		
科目等履修	可		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			